

# Oracle Reports Developer

レポート作成ガイド

リリース 6i

2000年1月

部品番号: J00918-01

ORACLE®

---

Oracle Reports Developer レポート作成ガイド, リリース 6i

部品番号 : J00918-01

原本名 : Oracle Reports Developer Building Reports, Release 6i

原本部品番号 : A73172-01

原本著者 : Carol Menzigan, Frank Rovitto, Tasha Kelly

Copyright © 1999, 2000, Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan

制限付権利の説明

プログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記載された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されております。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

\* オラクル社とは、Oracle Corporation（米国オラクル）または日本オラクル株式会社（日本オラクル）を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である Oracle Corporation（米国オラクル）およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国防総省の米国政府機関に提供する際には、『Restricted Rights』と共に提供してください。この場合次の Notice が適用されます。

Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

---

---

# 目次

はじめに .....	vii
<b>1 Report Builder の基本概念</b>	
1.1 Report Builder の概要 .....	1
1.2 Report Builder のレポートを処理するためのツール .....	2
1.2.1 レポート設計を自動化するウィザードの使用 .....	2
1.2.1.1 レポート・ウィザード .....	2
1.2.1.2 データ・ウィザード .....	3
1.2.1.3 Web ウィザード .....	3
1.2.2 レポート・エディタを使用したレポートの表示と編集 .....	4
1.2.2.1 ライブ・プレビューア .....	4
1.2.2.2 データ・モデル表示 .....	5
1.2.2.3 レイアウト・モデル表示 .....	5
1.2.2.4 パラメータ・フォーム表示 .....	5
1.2.3 オブジェクト・ナビゲータを使用したレポート要素の検索 .....	5
1.3 起動前のデータベース・アクセス権の取得 .....	6
1.4 開始前に必要な他のソフトウェア .....	6
1.5 オペレーティング・システムについての考慮事項 .....	6
<b>2 条件付き書式を使用したレポートの作成</b>	
2.1 レポート・ウィザードを使用した初期レポートの作成 .....	9
2.2 レポートの単純な書式変更 .....	12
2.3 フィールドへの書式の例外の追加 .....	14
2.4 生成されたフォーマット・トリガー・コードへの機能の追加 .....	16
2.5 繰り返し枠への書式の例外の追加 .....	18

2.6	生成されたコードの変更 .....	20
2.7	まとめ .....	21

### 3 レポート・テンプレートの作成と適用

3.1	データ・モデルの作成 .....	26
3.1.1	SQL 問合せツールを使用した2つの問合せの作成 .....	26
3.1.2	データ・モデル・オブジェクトの改名 .....	27
3.1.3	ブレイク・グループの作成 .....	28
3.1.4	データ・リンクの作成 .....	29
3.2	レポートの作成 .....	30
3.2.1	デフォルト・レイアウトの作成 .....	30
3.2.2	ライブ・プレビューアを使用したオブジェクトの書式設定 .....	32
3.3	テンプレートの作成 .....	33
3.3.1	新規テンプレートの作成 .....	33
3.3.2	テンプレートへのHTMLヘッダーの追加 .....	35
3.3.3	フォーマット・トリガーの作成 .....	36
3.4	事前定義されたテンプレート・リストへの新しいテンプレートの追加 .....	38
3.4.1	レポート・ウィザードのレポート・スタイルおよび 事前定義されたテンプレート・リストの表示 .....	38
3.4.2	事前定義されたテンプレート・リストへのテンプレートの追加 .....	39
3.4.3	レポート・ウィザードの「テンプレート」ページに サンプル・テンプレート・イメージを表示 .....	41
3.5	レポートへのカスタマイズされたテンプレートの適用 .....	41
3.6	テンプレートのデフォルト属性の拡張 .....	43
3.6.1	デフォルト属性の設定 .....	43
3.6.2	プロパティ値の継承とローカライズ .....	45
3.6.3	テンプレートへの変更の適用とライブ・プレビューアにおける結果の表示 .....	46
3.7	テンプレートのデフォルト属性の上書き .....	49
3.8	追加のレイアウトの作成 .....	53
3.9	レポートの外観の拡張 .....	56
3.10	まとめ .....	58

### 4 Web用のレポートを作成

4.1	データ・モデルの作成 .....	62
4.2	レポート出力の外観の変更 .....	65
4.2.1	ライブ・プレビューアのレイアウト変更 .....	65

4.2.2	書式マスクの追加 .....	67
4.2.3	問合せにより戻される最大行数の変更 .....	67
4.3	HTML レポート・ヘッダーのインクルード .....	68
4.4	レポートの一部へのブックマーク追加 .....	69
4.5	ページ・セパレータの変更 .....	70
4.6	ハイパーリンクの宛先およびハイパーリンクの追加 .....	71
4.6.1	ハイパーリンクの宛先追加 .....	71
4.6.2	レポート内を宛先とするハイパーリンクの追加 .....	72
4.6.3	外部宛先へのハイパーリンクの追加 .....	73
4.7	HTML 出力でのポップアップおよびロールオーバーの表示 .....	75
4.7.1	イメージ・オブジェクトへのポップアップの追加 .....	76
4.7.2	イメージ・オブジェクトへのロールオーバーの追加 .....	76
4.8	PL/SQL を使用した Web 出力オブジェクトの条件付き表示 / 非表示 .....	77
4.9	チャートのあるサマリー・セクションの作成 .....	78
4.9.1	サマリー・セクションのデータ・モデル作成 .....	78
4.9.2	サマリー・セクションのデフォルト・レイアウト作成 .....	79
4.9.3	サマリー・セクションのチャート作成 .....	81
4.9.4	チャートへのハイパーリンクの追加 .....	83
4.10	Javascript の追加 .....	83
4.10.1	動画化されたオブジェクトの作成 .....	84
4.10.2	HTML ページ・ストリーム .....	86
4.11	Reports Server からの Web レポート実行 .....	87
4.12	まとめ .....	88

## 5 セクションで構成されたレポートの作成

5.1	データ・モデルの作成 .....	91
5.1.1	データ・ウィザードによる問合せの作成 .....	92
5.1.2	データ・モデルの調整 .....	94
5.2	ランタイム・パラメータ・フォームの設計 .....	99
5.3	最初のセクションに対するレイアウトの作成 .....	101
5.4	レイアウト・モデル表示でのレイアウトの調整 .....	104
5.4.1	オブジェクトのプロパティの変更 .....	105
5.4.2	枠およびオブジェクトの再配置 .....	107
5.4.3	ボイラープレート・オブジェクトの追加 .....	109
5.5	2 番目のセクションに対するレイアウトの作成 .....	111
5.5.1	デフォルト・レイアウトの作成 .....	112

5.5.2	ライブ・プレビューアでのレイアウトの調整 .....	113
5.6	横方向および改ページの指定 .....	115
5.7	配布の指定 .....	117
5.7.1	詳細セクションの配布指定 .....	117
5.7.2	サマリー・セクションの配布指定 .....	118
5.7.3	レポートの配布 .....	119
5.8	まとめ .....	120

## 6 REF カーソル問合せのあるレポートの作成

6.1	REF カーソル型の定義 .....	124
6.2	REF カーソル問合せの作成 .....	125
6.3	データ・モデルの調整 .....	127
6.4	REF カーソル問合せ間のリンクの作成 .....	130
6.5	サマリー列の追加 .....	131
6.6	レイアウトの作成 .....	133
6.7	パッケージへの SELECT 文の移動 .....	135
6.8	ライブラリへのパッケージの移動 .....	137
6.9	まとめ .....	138

## 7 Express データを使用したレポート作成

7.1	レポート・ウィザードによる Express レポートの作成 .....	143
7.2	Express クエリーの修正 .....	148
7.3	データ・モデルへのサマリー列およびカスタム・メジャーの追加 .....	150
7.3.1	データ・オブジェクト名の変更 .....	152
7.3.2	サマリー列の作成 .....	152
7.3.3	カスタム・メジャーの作成 .....	153
7.4	レポート・レイアウトの拡張 .....	155
7.4.1	レポートへのサマリー・フィールド挿入 .....	155
7.4.2	レポートへのカスタム・メジャー・フィールド挿入 .....	159
7.4.3	ディメンション値のソート .....	163
7.4.4	ライブ・プレビューアでの書式変更 .....	164
7.5	まとめ .....	165

## 索引

---

---

# はじめに

このマニュアルで示されている例は、Oracle Reports Developer とその機能の習得に役立ちます。

## 対象読者

このマニュアルは、レポートを作成するために Report Builder を使用するすべてのユーザーを対象としています。初級者から、上級者まで幅広い読者を対象としています。各章では、レポートを作成するための手順を初めから終わりまで順を追って説明します。各レポートを作成することにより、Report Builder の多くの優れた機能の使用方法がわかるようになっていきます。

## 構成

このマニュアルは、次の章で構成されています。

**表 1 マニュアルの内容の概要**

章	内容
第 1 章「Report Builder の基本概念」	初めに必要な基本的な概念について説明します。
第 2 章「条件付き書式を使用したレポートの作成」	条件付き書式を使用した、レポートの作成方法について説明します。これにより、指定した条件が満たされたときにレポートの表示が自動的に変更されるように設定できます。
第 3 章「レポート・テンプレートの作成と適用」	テンプレートの作成方法と、それをレポートへ適用する方法について説明します。テンプレートには、レポートの共通の特性とオブジェクトを定義します。テンプレートをレポートに適用すると、レポートはテンプレートに定義された特性を取り込みます。

**表1 マニュアルの内容の概要**

章	内容
第4章「Web用のレポートを作成」	Web上に表示できるHTMLレポートの作成方法について説明します。「Webの設定」プロパティの設定方法についても説明します。
第5章「セクションで構成されたレポートの作成」	レポート・セクションの定義方法と、これらのセクションに対して異なる配布条件を指定する方法について説明します。
第6章「REFカーソル問合せのあるレポートの作成」	PL/SQLを使用してデータをフェッチするREFカーソル問合せの定義方法について説明します。
第7章「Expressデータを使用したレポート作成」	Expressデータを使用してレポートを作成して編集する方法、およびカスタム・メジャーの追加方法について説明します。

## 表記規則

このマニュアルでは、次の表記規則を使用します。

**表2 このマニュアルの表記法規約**

規約	意味
太字	強調のために使用します。また、メニュー項目、ボタン名、ラベルおよび他のユーザー・インタフェース要素を表すためにも使用します。
イタリック体	初出の用語に使用します。
クーリエ	パスおよびファイル名、コード、入力するテキストを表します。
クーリエ（大文字）	次の項目に使用します。 <ul style="list-style-type: none"><li>■ ファイル拡張子（.PLLまたは.FMX）</li><li>■ 環境変数</li><li>■ SQLコマンド</li><li>■ ビルトイン / パッケージ名</li><li>■ 実行可能ファイル名</li></ul>

## オンライン・ヘルプの追加情報

このマニュアル内のタスクによっては、追加情報を参照するためにオンライン・ヘルプへのアクセス方法を説明しています。次のような表が示されている場合、そのステップに従うと実行しているタスクについての追加情報が得られます。

---



1. このトピックに関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」  
「Report Builder ヘルプ・トピック」をクリックします。
  2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
レポート・ウィザード, ~について
  3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
レポート・ウィザード: 前置きページ
-



---

# Report Builder の基本概念

この章では、次のような Report Builder の基本概念について説明します。

- 1.1 項「Report Builder の概要」
- 1.2 項「Report Builder のレポートを処理するためのツール」
- 1.3 項「起動前のデータベース・アクセス権の取得」
- 1.4 項「開始前に必要な他のソフトウェア」
- 1.5 項「オペレーティング・システムについての考慮事項」

## 1.1 Report Builder の概要

Oracle Reports Developer は、組織内のレポート処理を集中化し、レポート作成および管理を効率化するためのプログラム・セットです。Report Builder は、Reports Developer に含まれるプログラム・コンポーネントの 1 つです。

Report Builder の機能は、次のとおりです。

- レポート・データを取得するための SQL 文を視覚的に表示して指定できる Query Builder
- レポート設計プロセスをガイドする各種ウィザード
- デフォルトのテンプレートとレイアウト（個々の組織のレポート要件に合わせてカスタマイズ可能）
- レコードの実行方法をカスタマイズするためのコード生成機能
- WYSIWYG モードでのレポート・レイアウトの編集を可能にするライブ・プレビューア
- グラフを用いたレポート・データ表示を支援するチャート作成ツール
- 組織のデータに基づいて Web ページを動的に生成する Web 公開ツール
- HTML、PDF、PCL、Postscript および ASCII など、他の標準レポート出力形式

Reports Developer は、次にあげる組織内のどのデータベースのデータにもアクセスできます。これには、Oracle、Microsoft SQL Server、Sybase、Informix、DB2、およびすべての ODBC 準拠のデータソースが含まれます。

## 1.2 Report Builder のレポートを処理するためのツール

Report Builder には、レポートの作成および管理を支援するツールが用意されています。これらのツールについては、次の項で説明します。

- 1.2.1 項「レポート設計を自動化するウィザードの使用」
- 1.2.2 項「レポート・エディタを使用したレポートの表示と編集」
- 1.2.3 項「オブジェクト・ナビゲータを使用したレポート要素の検索」

### 1.2.1 レポート設計を自動化するウィザードの使用

Report Builder には、レポート作成を自動化するための、レポート・ウィザード、データ・ウィザードおよび Web ウィザードがあります。ほとんどの場合、ウィザードの 1 つを使用してレポートの作成を開始し、その後、ウィザードによって作成されたレポートを整えます。

たとえば、レポート・ウィザードを使用してレポートの作成を開始すると、レポート・ウィザードによりライブ・プレビューアにその初期レポートが自動的に表示されます。そこに、ライブ・プレビューア、レイアウト・モデル表示、データ・モデル表示およびパラメータ・フォーム表示でレポートに修正を加えます。レポート表示の詳細は、[1.2.2 項「レポート・エディタを使用したレポートの表示と編集」](#)を参照してください。

#### 1.2.1.1 レポート・ウィザード

レポート・ウィザードを使用するのが、レポートを作成する最も簡単な方法です。レポート・ウィザードでは、レポートの作成に必要な手順が順番に指示されるので、レポート作成を始めるのに便利です。レポート・ウィザードのみで、要件を満たすレポートが作成できる場合もあります。レポート・ウィザードで作成したレポートが不十分な場合は、データ・モデル表示、ライブ・プレビューアおよびレイアウト・モデル表示を使用すれば、レポートを調整することができます。

このマニュアルの多くのサンプル・レポートにより、レポート・ウィザードを使用してレポートを作成する方法がわかります。次に、レポート・ウィザードの使用方法を簡単に示します。

1. Report Builder を起動します。
2. 「ようこそ」ダイアログ・ボックスが表示されたら、「**レポートウィザードを使う**」をクリックし、「OK」をクリックします。

「ようこそ」ダイアログ・ボックスが表示されない場合は、「**ファイル**」 「**新規作成**」

「レポート」を選択します。「レポートウィザードを使う」をクリックし、「OK」をクリックします。

3. 必要な場合は「ヘルプ」ボタンをクリックしてヘルプを参照しながら、レポート・ウィザードの各ページに入力します。
4. レポート・ウィザードの最後のページで、「完了」をクリックします。レポートが作成され、ライブ・プレビューアに表示されます。
5. ライブ・プレビューアから、必要に応じてレポートを編集できます。ライブ・プレビューアは、レポート・エディタで使用可能なレポート表示の1つです。「表示」メニューまたはツールバーを使用して、他のレポート表示に切り替えて、さらにレポートを編集できます。レポートを表示する別の方法については、[1.2.2 項「レポート・エディタを使用したレポートの表示と編集」](#)で説明します。

レポート・ウィザードの詳細は、オンライン・ヘルプを参照してください。



1. このトピックに関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」をクリックします。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
レポート・ウィザード, ~について
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
レポート・ウィザード: 前置きページ

### 1.2.1.2 データ・ウィザード

レポートに対して複数の問合せを作成する必要がある場合、データ・ウィザードを使用して問合せを作成します。「データ・モデル表示」から、「ツール」 「データ・ウィザード」を選択します。[5.1.1 項「データ・ウィザードによる問合せの作成」](#)に、データ・ウィザードを使用した例を示します。詳細は、オンライン・ヘルプを参照してください。



1. このトピックに関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」をクリックします。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
データ・ウィザード, ~について
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
データ・ウィザード: 前置きページ

### 1.2.1.3 Web ウィザード

作成したレポートをすぐに Web 上に展開する場合は、Web ウィザードを使用します。「ツール」 「Web ウィザード」を選択してください。[4.4 項「レポートの一部へのブックマーク」](#)

**追加**」に、Web ウィザードの使用例が示されています。詳細は、[オンライン・ヘルプ](#)を参照してください。



1. このトピックに関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」  
「Report Builder ヘルプ・トピック」をクリックします。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
Web ウィザード, ~について
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
Web ウィザード : 前置きページ

## 1.2.2 レポート・エディタを使用したレポートの表示と編集

Report Builder を初めに起動したときに、レポート・エディタとオブジェクト・ナビゲータが表示されます。(オブジェクト・ナビゲータの詳細は、[1.2.3 項「オブジェクト・ナビゲータを使用したレポート要素の検索」](#)を参照してください。) レポート・エディタでは、4つの異なる方法でレポートの情報を表示できます。「表示」メニューまたはツールバーのアイコンを使用して、表示方法を切り替えられます。

このマニュアルでは、レポート・エディタの次のそれぞれの表示方法を使って作業し、サンプルのレポートを作成します。

- ライブ・プレビューア
- データ・モデル表示
- レイアウト・モデル表示
- パラメータ・フォーム表示

詳細は、[オンライン・ヘルプ](#)を参照してください。



1. このトピックに関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」  
「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
ライブ・プレビューア, ~について、データ・モデル・ビュー, ~について、  
レイアウト・モデル, ~について、パラメータ・フォーム, ~について
3. 「表示」をクリックすると、ヘルプ・トピックが表示されます。

### 1.2.2.1 ライブ・プレビューア

この表示方法では、エンド・ユーザーが見る表示形式で、レポートが表示されます。ライブ・データを使用している場合、ライブ・プレビューアは、データが変更されるとレポートを更新します。ライブ・プレビューアで行ったレポートの修正がただちに表示されます。ライブ・プレビューアにレポートを表示するには、 をクリックします。

### 1.2.2.2 データ・モデル表示

この表示方法では、レポート・データがデータ・モデル・オブジェクトとして表示され、問合せ、グループ、列、パラメータおよびリンク間の関係がわかります。データ・モデル表示でレポートを表示するには、 をクリックします。

### 1.2.2.3 レイアウト・モデル表示

この表示方法では、オブジェクトとしてのレポートの属性が表示されるので、属性のタイプと関係がわかります。この表示方法では、レポートの外観を変更するために、枠、繰返し枠、フィールド、ボイラプレート、アンカーおよび図形などのレイアウト・オブジェクトを編集できます。レイアウト・モデル表示でレポートを表示するには、 をクリックします。

### 1.2.2.4 パラメータ・フォーム表示

この表示方法では、レポートのランタイム・パラメータ・フォームを作成できます。ユーザーは、このフォームにパラメータの値を入力してレポートの実行方法を指定するか、またはデフォルト値を使用して、レポートを実行できます。パラメータ・フォーム表示でランタイム・パラメータ・フォームを定義しない場合、Report Builder はデフォルトのパラメータ・フォームを実行時に表示します。パラメータ・フォーム作成を使用してそのフォーム用にどのシステム・パラメータとユーザー・パラメータを使用するかを選択することも、初めから作成することもできます。パラメータ・フォーム表示を表示するには、 をクリックしてください。

## 1.2.3 オブジェクト・ナビゲータを使用したレポート要素の検索

Report Builder を初めに起動するときに、オブジェクト・ナビゲータとレポート・エディタが表示されます。オブジェクト・ナビゲータでは、連結ライブラリや外部問合せを含め、レポートやテンプレートの主要なオブジェクトが階層表示されます。オブジェクト・ナビゲータを使用して、次の機能を実行できます。

- オブジェクトの選択
- プロパティ・パレットでのオブジェクト属性の変更
- オブジェクトの PL/SQL の編集
- PL/SQL プログラム単位のドラッグ・アンド・ドロップ
- 名前によるオブジェクトの検索

オブジェクト・ナビゲータでオブジェクトを選択すると、ライブ・プレビューア、データ・モデル表示またはレイアウト・モデル表示でも（そのとき開いているすべての表示で）対応するオブジェクトが同時に選択されます。

## 1.3 起動前のデータベース・アクセス権の取得

このマニュアルで説明するレポートを作成するためには、Oracle Reports Developer デモ・テーブルにアクセス可能であることが必要です。デモ用の SQL スクリプトをインストールしてください。このスクリプトは、データベースにデモ・テーブルをインストールするために使用します。この SQL スクリプトは、「スタート」「プログラム」メニューから実行できます。

レポートを開始する前に、Oracle Reports Developer デモ・テーブルが格納されているデータベースにログインします。ログインするには、「ファイル」「接続」を選択します。

## 1.4 開始前に必要な他のソフトウェア

サンプル・レポートを表示するために、次のプログラムが必要な場合があります。開始前に、システムに次のソフトウェアがインストールされているか確認してください。

- Netscape 3.x 以降または Internet Explorer 3.x 以降などの、HTML スタイル・シートおよび Java スクリプトをサポートする Web ブラウザ。
- Adobe Acrobat Reader プラグイン、または Acrobat Reader PDF を表示するための機能。

## 1.5 オペレーティング・システムについての考慮事項

このマニュアルで示されている手順は、Windows 95/NT オペレーティング環境に基づいています。UNIX ベース・システムなど、他のオペレーティング・システムを使用している場合、実行する手順の一部で多少異なる場合があります。

---

## 条件付き書式を使用したレポートの作成

この章で説明するレポートを作成すると、Report Builder の条件付き書式の機能について学習できます。ここでは、会社の株価を記録する単一問合せレポートを作成します。このレポートでは、株価が最低および最高価格になったときに条件付き書式を使用して値を表示するようにします。

このレポートを作成するため、まずレポート・ウィザードを使用して初期データ・モデルとレポート・レイアウトを作成します。その後、ライブ・プレビューアでレポート・レイアウトを整えます。また、提供されている PL/SQL も作成します。

**条件付き書式の概要** この機能は、特定の条件が満たされたときに、レポートのある部分を強調表示するために使用すると便利です。たとえば、ある値が 5000 より大きい場合に、その値の色を赤に変更することができます。Report Builder には、レポートに条件付き書式を追加する方法が 2 つあります。

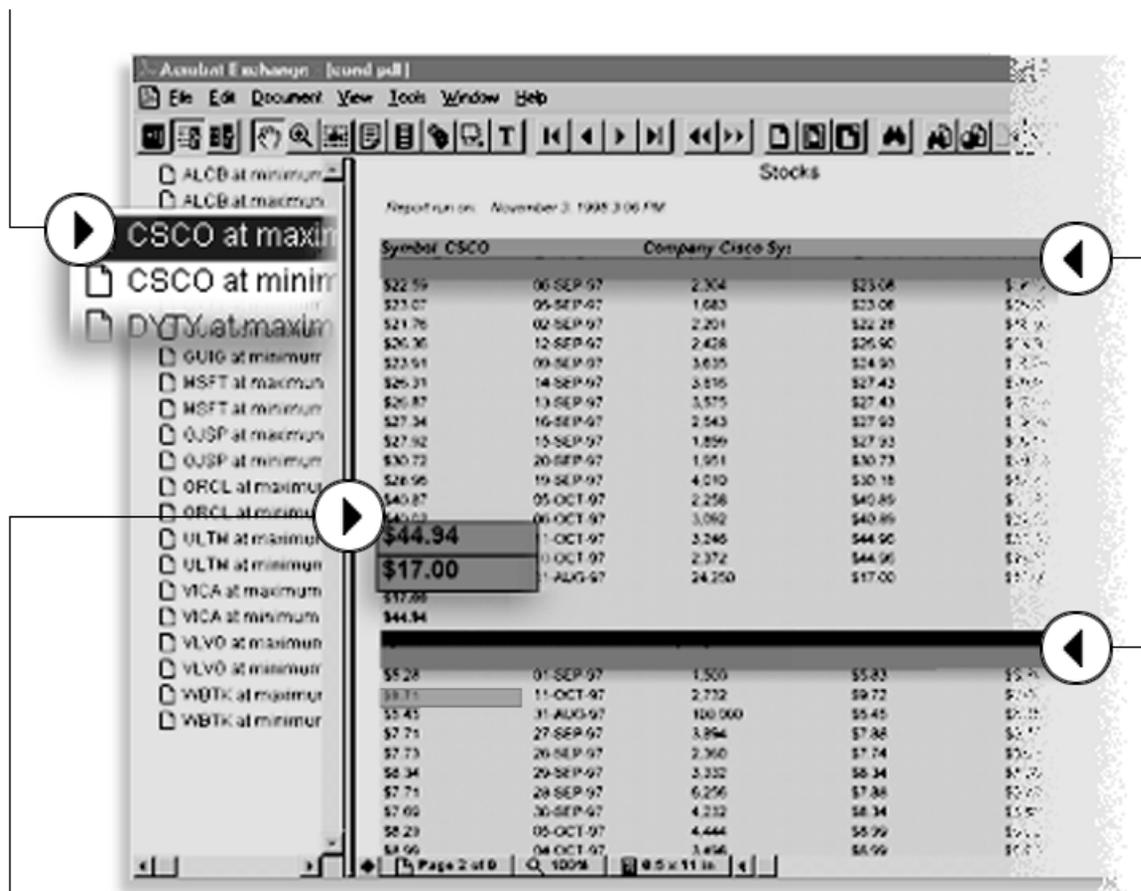
- 「条件付き書式」ダイアログ・ボックスと「書式の例外」ダイアログ・ボックスでは、選択したレイアウト・オブジェクトに対して、複数の条件と書式の属性（フォント、テキスト・カラー、線および塗りつぶしのカラー）を指定できます。この方法では、コードを記述する必要はありません。
- 「フォーマット・トリガー」プロパティでは、条件付き書式を実行するための PL/SQL 関数のコードを独自に作成できます。独自にコードを作成できるので、「条件付き書式」ダイアログ・ボックスおよび「書式の例外」ダイアログ・ボックスのみを使用した場合と比較して、より柔軟に作成でき完全な制御が可能です。

条件については、「条件付き書式」ダイアログ・ボックスおよび「書式の例外」ダイアログ・ボックスを使用して必要な指定ができます。また、初めにダイアログ・ボックスを使用して、その後生成されたコードをフォーマット・トリガーで編集して修正することもできます。

次の図に、レポートに適用する条件付き書式の機能を示します。表 2-1 「条件付き書式のサンプル・レポートで示されている機能」に、このレポートの作成で実行するステップが記載されています。

繰り返し枠のグループ見出しのカラーが交互に変更されるように設定する。2.5 を参照。

最小値および最大値にリンクするブックマークの追加する。2.3 を参照。



フラグの最小値および最大値。2.4 を参照。

cond.rdf ファイルは、この章での作業を完了した後に作成されるレポートです。作業の実行中にこのファイルを参照してください。このファイルは、  
ORACLE\_HOME¥TOOLS¥DOC60¥US¥RBBR60 ディレクトリにあります。

**表 2-1 条件付き書式のサンプル・レポートで示されている機能**

機能	項
レポート・ウィザードを使用して SQL を定義し、レポートの最初のドラフトを作成します。	2.1 項「レポート・ウィザードを使用した初期レポートの作成」
ライブ・プレビューアを使用して、レポート・レイアウトを修正し読みやすくします。	2.2 項「レポートの単純な書式変更」
「条件付き書式」ダイアログ・ボックスで書式の例外を追加し、指定された条件が満たされたときにフィールドの表示書式が変更されるようにします。	2.3 項「フィールドへの書式の例外の追加」
指定された条件が満たされたときに追加の処理を行うために、「書式の例外」ダイアログ・ボックスによって生成されたコードを変更できます。	2.4 項「生成されたフォーマット・トリガー・コードへの機能の追加」
変更を一度に多くのレポート・オブジェクトに反映させるため、繰返し枠に書式の例外を追加します。	2.5 項「繰返し枠への書式の例外の追加」
さらにレポートをカスタマイズするために、「書式の例外」ダイアログ・ボックスによって生成されたコードを変更します。	2.6 項「生成されたコードの変更」

まず、Report Builder をオープンします。「ようこそ」ダイアログ・ボックスが表示されたら、「**レポートウィザードを使う**」をクリックし、「OK」をクリックします。このダイアログ・ボックスが現れないときは、「**ファイル**」「**新規**」「**レポート**」を選択します。「**レポートウィザードを使う**」をクリックし、「OK」をクリックします。

レポートを作成する前のある時点で、データベースにログインする必要が生じます。データベースに接続するには、「**ファイル**」「**接続**」を選択します。該当するログオン情報を入力します。詳細は、1.3 項「**起動前のデータベース・アクセス権の取得**」を参照してください。

## 2.1 レポート・ウィザードを使用した初期レポートの作成

レポート・ウィザードはレポート作成を開始する上で有効な手段です。レポート・ウィザードのみで、要件を満たすレポートが作成できる場合もあります。レポート・ウィザードで作成したレポートが不十分な場合は、データ・モデル表示、ライブ・プレビューアおよびレイ

アウト・モデル表示を使用すれば、レポートを調整することができます。ここでは、はじめにレポート・ウィザードでレポートを作成し、その後、ライブ・プレビューおよびレイアウト・モデルを使用して、レイアウトを修正し、レポートに条件付き書式を追加します。この項に示すステップに従って、初期レポートを作成します。



1. この作業に関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
レポート・ウィザード, ~について
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
レポート・ウィザード: 前置きページ

1. レポート・ウィザードの「ようこそ」ページが表示されたら、「次へ」ボタンをクリックします。
2. 「スタイル」ページで、タイトルとして「Stocks」と入力し、レポート・スタイルとして「グループ上」をクリックします。

ヒント: ウィザード各ページでの作業内容がわからないときは、「ヘルプ」ボタンをクリックしてください。

3. 「次へ」をクリックします。
4. 「タイプ」ページが表示されたら、「SQL 文」をクリックし、「次へ」をクリックします。「タイプ」ページは、Report Builder を Oracle Express とともに実行するよう構成した場合のみ表示されます。
5. 「データ」ページで、ページ上のボタンを無視し、次の SELECT 文を入力してください。

```
SELECT symbol,  
       company,  
       current_price,  
       trade_date,  
       number_traded_today,  
       todays_high,  
       todays_low  
FROM stocks
```

6. 「次へ」をクリックします。
7. 「使用可能フィールド」リストの「グループ」ページで、項目「symbol」をクリックします。
8.  をクリックします。
9. company フィールドについても、ステップ7と8を繰り返します。

10. このレポートには、現在ある Level 1 と Level 2 の 2 つのブレイク・レベルを 1 つにすることにします。ブレイク・レベルを 1 つにするには、「グループ・フィールド」リストで「company」をクリックし、それを Level 1 にドラッグします。

**ヒント:** レポート内の列を整理するためにグループが作成されます。問合せを作成すると、Report Builder は、問合せによって選択された列を含むグループを自動的に作成します。グループ上またはグループ左のレポートを作成するために、追加のグループを作成して、レポートのブレイク・レベルを生成します。

11. 「次へ」をクリックします。
12. 「フィールド」ページで、 をクリックします。こうすることにより、すべてのフィールドがレポートに表示されます。
13. 「次へ」をクリックします。
14. 「合計」ページで、「current\_price」をクリックして、「**最大値**」をクリックします。
15. 「**最小値**」をクリックします。「current\_price」フィールドの最小値および最大値が「合計」リストに表示されます。
16. 「number\_traded\_today」をクリックし、「**最大値**」をクリックします。
17. 「**最小値**」をクリックします。「number\_traded\_today」フィールドの最小値および最大値が「合計」リストに表示されます。
18. 「次へ」をクリックします。
19. 「ラベル」ページで、次の表に示すようにラベルと幅を変更します。

**表 2-2 ラベルおよび幅**

列	ラベル	幅
Todays High	Today's High	9
Todays Low	Today's Low	9

20. 「次へ」をクリックします。
21. 「テンプレート」ページで、選択されていない場合は「**事前定義テンプレート**」をクリックし、リスト・ボックスで「**社用 2**」をクリックします。

22. 「完了」をクリックします。ライブ・プレビューアに、次の図のようなレポート出力が自動的に表示されます。

### Stocks

Report run on: July 29, 1998 10:18 AM

Symbol	ALCB	Company Alaska Corned Beef			
Current Price	Trade Date	Number Traded Today	Today's High	Today's Low	
18.13	01-SEP-97	666	18.89	18.28	
18.25	31-AUG-97	4277	18.25	18.25	
21.19	11-OCT-97	624	21.19	18.74	
20.77	06-OCT-97	595	20.78	18.66	
20.77	07-OCT-97	1156	20.98	18.7	
20.36	04-OCT-97	2172	20.78	18.66	
20.78	03-OCT-97	1488	20.78	18.66	
19.98	29-SEP-97	2069	20.38	18.58	
19.98	27-SEP-97	1049	20.18	18.54	

23. 「ファイル」 「名前を付けて保存」を選択します。選択したディレクトリに、「cond\_21.rdf」という名前でレポートを保存します。

ヒント: レポートの設計段階では、レポートを異なるファイル名で頻繁に保存することをお勧めします。そうすれば、エラーが生じたり、変更した内容に問題がある場合でも、前に保存したファイルに簡単に戻ることができるので、その時点からの修正を加えるだけで済みます。

## 2.2 レポートの単純な書式変更

この時点でレポート・ウィザードに戻って設定を変更し（ラベルや幅など）レポートを再生成することも可能ですが、この項ではライブ・プレビューアで編集してレポートの外観を整えることにします。



1. この作業に関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
書式マスク, 数値オブジェクトへの適用
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
数値オブジェクトへの書式マスクの適用

1. ライブ・プレビューアで、Current Price 見出しの下のデータの列をクリックします。Report Builder により、そのフィールドのすべてのインスタンスが選択されます。つまり、この時点で行う変更は、このフィールドのすべてのインスタンスに適用されます。
2. [SHIFT] キーを押したままにします。Today's High および Today's Low の見出しの下のデータをクリックします。（[SHIFT] キーを押したままクリックすると、複数の列を選択できます。）

- 各列の終わりの太字の値を見つけます。(1 ページ目の終わりまで、スクロールする必要があります)。これらの値を [Shift] キーを押しながらクリックします。レポートの終わりにある太字の金額はすべて、[Shift] キーを押しながらクリックします。レポート内の金額の値がすべて同時に選択されている状態になるので、これらの値すべてを一度に簡単に書式化できます。

**ヒント:** 誤って選択してしまったオブジェクトを選択解除する場合は、[Shift] キーを押したままそれをもう一度クリックすると選択解除できます。

-  をクリックして、ドル記号 (\$) を追加します。
-  を 2 回クリックして、小数部を 2 桁追加します。
- ライブ・プレビューアの空白の部分をクリックすると、すべて選択解除されます。
- 「Number Traded Today」見出しの下のデータをクリックして選択します。
-  をクリックして、小数点の左の桁が 4 桁以上の場合にコンマが追加されるようにします。
- ライブ・プレビューアの空白の部分をクリックすると、すべて選択解除されます。レポート出力は、次の図のようになります。

## Stocks

Report run on: July 29, 1998 10:18 AM

Symbol	ALCB	Company Alaska Corned Beef			
Current Price	Trade Date	Number Traded Today	Today's High	Today's Low	
\$18.13	01-SEP-97	666	\$18.89	\$18.28	
\$18.25	31-AUG-97	4,277	\$18.25	\$18.25	
\$21.19	11-OCT-97	624	\$21.19	\$18.74	
\$20.77	06-OCT-97	595	\$20.78	\$18.66	
\$20.77	07-OCT-97	1,156	\$20.98	\$18.70	
\$20.36	04-OCT-97	2,172	\$20.78	\$18.66	
\$20.78	03-OCT-97	1,488	\$20.78	\$18.66	
\$19.98	29-SEP-97	2,069	\$20.38	\$18.58	
\$19.98	27-SEP-97	1,049	\$20.18	\$18.54	
\$19.98	26-SEP-97	539	\$19.98	\$18.50	

- レポートを「cond\_22.rdf」という名前で保存します。

任意演習:

ライブ・プレビューアでほかにどのような変更が可能か試してみてください。

## 2.3 フィールドへの書式の例外の追加

レイアウト・オブジェクトに書式の例外を適用するには、初めに「条件付き書式」ダイアログ・ボックスを使用すると便利です。(たとえば、フィールド値が指定した最大値を超えた場合に、その値を太字にできます)。「条件付き書式」ダイアログ・ボックスのみで、要件を満たす書式の例外を作成できる場合もあります。

**ヒント:**「条件付き書式」ダイアログ・ボックスを使用すると、選択されたオブジェクトに対するフォーマット・トリガーが生成されます。そのため、一度オブジェクトのフォーマット・トリガーを直接編集した場合は、「条件付き書式」ダイアログ・ボックスに戻ってそれをさらに変更しないでください。「条件付き書式」ダイアログ・ボックスに戻ってさらに変更した場合、フォーマット・トリガーに対して直接行った変更の一部が失われる場合があります。

この項では、2つの要約フィールド、:Maxcurrent\_pricePerSymbol および :Mincurrent\_pricePerSymbol に対して条件付き書式を設定します。この2つの値がそれぞれ指定された最大値および最小値を超えた場合に、値にフラグが付けられます。



1. この作業に関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
条件付き書式, オブジェクトへの適用
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
オブジェクトへの条件付き書式の適用

1. ライブ・プレビューアで、Current Price 見出しの下のデータをクリックして選択します。

**ヒント:**ライブ・プレビューアでデータを選択すると、オブジェクト・ナビゲータの対応するオブジェクトも強調表示されます。また、その逆の場合も同じです。

2. 「ツール」 「プロパティ・パレット」を選択します。
3. 「標準レイアウト」ノードの下で、「条件付き書式」プロパティを見つけて、そのとなりのボタンをダブルクリックします。
4. 「条件付き書式」ダイアログ・ボックスで、「新規作成」をクリックして「Current Price」フィールド・オブジェクトに新しい書式の例外を作成します。
5. 「書式の例外」ダイアログ・ボックスで、最初のチェックボックスがチェックされていない場合、これをチェックしてオンにします。最初のドロップダウン値リストで、「current\_price」が選択されていない場合、これを選択します。
6. 「current\_price」のとなりの2番目のドロップダウン値リストから、「Equal」を選択します。
7. 「Equal」のとなりの3番目のフィールドに、「:Maxcurrent\_pricePerSymbol」と入力します。

8. 2行目のチェックボックスをオンにします。最初の行の最後のドロップダウン・リストがアクティブで編集可能になります。
9. 最初の行の最後のドロップダウン・リストで、「OR」を選択します。
10. 手順5～7を繰り返して、2番目の行に、「current\_price」、「Equal」および「:Mincurrent\_pricePerSymbol」を追加します。
11. 「フォント」をクリックして、「フォント」ダイアログ・ボックスで「太字」を選択します。「OK」をクリックして、「フォント」ダイアログ・ボックスをクローズします。
12.  をクリックして赤を選択します。パレットが自動的にクローズします。
13.  をクリックして黒を選択します。パレットが自動的にクローズします。
14. 「OK」をクリックして、「書式の例外」ダイアログ・ボックスをクローズします。
15. 「適用」をクリックします。ライブ・プレビューで書式の例外の効果を確認します。いくつかの値が、太字で、塗りカラーが赤、境界線が黒になって表示されています。これらの値を見るだけで、特定の株価がその最大値および最小値に達したときにすぐわかります。
16. 「条件付き書式」ダイアログ・ボックスで、「OK」をクリックします。または、「編集」をクリックして、書式の例外をさらに変更します。
17. 「プロパティ・パレット」をクローズします。レポート出力は、次の図のようになります。

### Stocks

Report run on: July 29, 1998 10:36 AM

Symbol	ALCB	Company	Alaska Corned Beef		
Current Price	Trade Date	Number Traded Today	Today's High	Today's Low	
\$18.13	01-SEP-97	666	\$18.89	\$18.28	
\$18.25	31-AUG-97	4,277	\$18.25	\$18.25	
\$21.19	11-OCT-97	624	\$21.19	\$18.74	
\$20.77	06-OCT-97	595	\$20.78	\$18.66	
\$20.77	07-OCT-97	1,156	\$20.98	\$18.70	
\$20.36	04-OCT-97	2,172	\$20.78	\$18.66	
\$20.78	03-OCT-97	1,488	\$20.78	\$18.66	
\$19.98	29-SEP-97	2,069	\$20.38	\$18.58	
\$19.98	27-SEP-97	1,049	\$20.18	\$18.54	

18. レポートを「cond\_23.rdf」という名前で保存します。

#### 任意演習：

- 「ファイル」「ファイルに出力」「PDF」を選択します。PDF ファイルを作成後、エクスプローラでファイルを検索し、Acrobat Reader でそのファイルを開いてレポート出力を確認します。

- Report Builder により生成された書式の例外コードを見るには、オブジェクト・ナビゲータで、そのレポートの「プログラム単位」ノードを拡張します。フォーマット・トリガーのとなりのアイコンをダブルクリックすると、それを PL/SQL エディタで開いてコードを表示させることができます。
- さらに演習を行う場合は、「current price」に対して設定したのと同じような書式の例外設定を「Number Traded Today」にも設定してみてください。レポートには、これを行うために必要なすべての値がすでに含まれています。

## 2.4 生成されたフォーマット・トリガー・コードへの機能の追加

多くの場合は、2.3 項「フィールドへの書式の例外の追加」で行った書式属性の単純な変更のみで済みます。ただし、より高度な処理を追加することも可能です。

この項の手順に従うと、PDF 出力用のレポートの設計と、株価が最大値に達したときにそれを示すブックマークの追加が行えます。

「条件付き書式」ダイアログ・ボックスですでにコードを生成しているので、必要なロジックの一部はすでに記述されています。



1. この作業に関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
フォーマット・トリガー, 作成
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
フォーマット・トリガーの作成または編集

1. ライブ・プレビューアで、Current Price 見出しの下のデータをクリックして選択します。
2. 「ツール」 「プロパティ・パレット」を選択します。
3. 「拡張レイアウト」ノードの下で、「フォーマット・トリガー」プロパティを見つけて、そのとなりのボタンをダブルクリックします。
4. 次のコードと同じようになるように、コードを変更します。追加する必要がある新規コードは太字表記されています。

```
function F_current_priceFormatTrigger return boolean is
begin
  -- Automatically Generated from Report Builder.
  if ([:current_price = :Maxcurrent_pricePerSymbol) or
      ([:current_price = :Mincurrent_pricePerSymbol))
  then
    srw.set_foreground_border_color('black');
    srw.set_border_pattern('solid');
```

```
srw.set_foreground_fill_color('red');
srw.set_fill_pattern('solid');
srw.set_font_face('Arial');
srw.set_font_size(10);
srw.set_font_weight(srw.bold_weight);
srw.set_font_style(srw.plain_style);
  if (:current_price = :Maxcurrent_pricePerSymbol)
  then
    srw.set_bookmark(:symbol || ' at maximum ');
  end if;
end if;
return (TRUE);
end;
```

5. 「コンパイル」をクリックします。
6. コンパイル・エラーが発生した場合には、構文エラーのコードをチェックし、必要な場合には、再度コンパイルします。
7. 「クローズ」をクリックします。
8. 「プロパティ・パレット」をクローズします。

ヒント: 次の4つのステップでは、ライブ・プレビューがアクティブ・ウィンドウになっている必要があります。

9. 「表示」 「Web プレビュー」 「PDF 形式」を選択します。
10. 「表示」 「Web プレビュー」 「全ページを表示」を選択します。
11. 「表示」 「Web プレビュー」 「Web ブラウザに表示」を選択します。レポートのPDF出力がWeb ブラウザに表示されます。ブックマークのテストをします。

ヒント: ブラウザを起動する実行ファイルの場所を指定するように要求される場合があります。「参照」ボタンを使用してください。Report Builder によって生成されたPDFを表示するためには、ブラウザがAcrobat Reader プラグインを使用するように構成されている必要があります。

ブラウザにAcrobat Reader プラグインが構成されていない場合は、「ファイル」 「ファイルに出力」 「PDF」を選択し、スタンドアロンのAcrobat Reader でPDFを開くことができます。

12. Report Builder に戻り、「表示」 「Web プレビュー」 「Web ブラウザに表示」を選択します。Web プレビューが終了します。

ヒント: レポートに細かい変更を多く行う場合は、Web プレビュー機能をオフにした方が便利です。オフにしないと、細かい変更を行うたびにWeb プレビューにより常に更新表示されます。

13. 1 ~ 8 のステップを繰り返します。ただし、今回はフォーマット・トリガーを次と同じようにしてください。追加する必要のある新規コードは太字表記されています。

```
function F_current_priceFormatTrigger return boolean is
begin
  -- Automatically Generated from Report Builder.
  if (:current_price = :Maxcurrent_pricePerSymbol) or
      (:current_price = :Mincurrent_pricePerSymbol))
  then
    srw.set_foreground_border_color('black');
    srw.set_border_pattern('solid');
    srw.set_foreground_fill_color('red');
    srw.set_fill_pattern('solid');
    srw.set_font_face('Arial');
    srw.set_font_size(10);
    srw.set_font_weight(srw.bold_weight);
    srw.set_font_style(srw.plain_style);
    if (:current_price = :Maxcurrent_pricePerSymbol)
    then
      srw.set_bookmark(:symbol || ' at maximum ');
    elsif (:current_price = :Mincurrent_pricePerSymbol)
    then
      srw.set_bookmark(:symbol || ' at minimum ');
    end if;
  end if;
  return (TRUE);
end;
```

14. レポートを「cond\_24.rdf」という名前で保存します。
15.  をクリックすると、ライブ・プレビューに結果が表示されます。
16. ステップ9 ~ 12までを繰り返し、PDF を生成し直します。

## 2.5 繰返し枠への書式の例外の追加

単一フィールドに対して書式の例外を作成する場合にも便利ですが、一度に複数のオブジェクトに影響する書式の例外を作成することもできます。Report Builder では、通常、枠内または繰返し枠内にオブジェクトがグループ化されます。枠内のオブジェクトが透明な場合、繰返し枠の塗りカラーを変更すると、枠内のオブジェクトの塗りカラーも変更されます。

この項では、繰返し枠のオブジェクトの塗りカラーを変更します。

1. データ・モデル表示に移動します。
2.  をクリックします。
3. 「G\_symbol」という名前のグループのタイトル・バーをクリックします。

- 「CS\_1」という名前の新規作成された列をダブルクリックすると、プロパティ・パレットが表示されます。必要な場合は、下方向にスクロールします。次のようにプロパティを更新します。

表 2-3

名前	関数	ソース	リセット位置
CS_COUNT	Count	symbol	Report

- [Enter] キーまたは [Return] キーを押すか、プロパティ・パレットの他の任意のフィールドをクリックして変更を受け入れます。
- 「プロパティ・パレット」をクローズします。
- オブジェクト・ナビゲータで、「検索」フィールドにカーソルを置いて次のように入力します。  
「R\_G\_SYMBOL」  
検索は文字を入力すると同時に実行されるため、名前全体を入力する前にオブジェクトが見つかる可能性があります。
- 「ツール」 「プロパティ・パレット」を選択します。
- プロパティ・パレットの「標準レイアウト」ノードの下で、「条件付き書式」プロパティを見つけて、そのとなりのボタンをダブルクリックします。
- 「新規作成」をクリックし、フィールド・オブジェクトに新しい書式の例外を作成します。
- 1 番目の値リストから、「CS\_COUNT」を選択します。
- 「CS\_COUNT」のとなりの値リストから、「Equal」を選択します。
- 「Equal」のとなりのフィールドに「1」と入力します。
-  をクリックして、濃い灰色を選択します。
- 「OK」をクリックします。
- ステップ 10 ~ 14 を繰り返し、「CS\_COUNT」, 「Equal」, 「0」および塗りカラーに明るい青を指定します。
- 「書式の例外」ダイアログ・ボックスで、「OK」をクリックします。
- 「条件付き書式」ダイアログ・ボックスで、「適用」, 「OK」をクリックします。
- ライブ・プレビューアで出力をチェックします。繰返し枠の一番上のオブジェクトは透明ではないので、繰返し枠の最初のインスタンスの上端の部分にのみ濃い灰色が見えます。明るい青色は表示されませんが、2.6 項「生成されたコードの変更」でそれを変更

します。

Report run on: July 29, 1998 11:28 AM

Symbol	ALCB	Company Alaska Corned Beef			
Current Price	Trade Date	Number Traded Today	Today's High	Today's Low	
\$18.13	01-SEP-97	666	\$18.89	\$18.28	
\$18.25	31-AUG-97	4,277	\$18.25	\$18.25	
\$21.19	11-OCT-97	624	\$21.19	\$18.74	
\$20.77	06-OCT-97	595	\$20.78	\$18.66	
\$20.77	07-OCT-97	1,156	\$20.98	\$18.70	
\$20.36	04-OCT-97	2,172	\$20.78	\$18.66	
\$20.78	03-OCT-97	1,488	\$20.78	\$18.66	
\$19.98	29-SEP-97	2,069	\$20.38	\$18.58	
\$19.98	27-SEP-97	1,049	\$20.18	\$18.54	
\$19.98	26-SEP-97	539	\$19.98	\$18.50	

20. レポートを「cond\_25.rdf」という名前で保存します。

## 2.6 生成されたコードの変更

「条件付き書式」ダイアログ・ボックスおよび「書式の例外」ダイアログ・ボックスによって生成されたコードに単純な変更を加えることにより、繰返し枠の偶数インスタンスおよび奇数インスタンスごとに塗りカラーが変更されるように設定できます。

1. オブジェクト・ナビゲータで、「R\_G\_SYMBOL」オブジェクトをクリックします。
2. 「ツール」 「プロパティ・パレット」を選択します。
3. プロパティ・パレットの「拡張レイアウト」ノードの下で、「フォーマット・トリガー」プロパティを見つけて、そのとなりのボタンをダブルクリックします。
4. 次のように、コードを変更します。追加が必要な新しいコードは、太字で示してあります。

**ヒント:** 次のコードでのカラー指定は、作成されているコードで指定されているカラーと多少異なる場合があります。

```
function R_G_symbolFormatTrigger return boolean is
begin
  -- Automatically Generated from Report Builder.
  if (:CS_count mod 2 = '1')
  then
    srw.set_foreground_fill_color('gray32');
    srw.set_fill_pattern('solid');
  end if;

  -- Automatically Generated from Report Builder.
  if (:CS_count mod 2 = '0')
  then
```

```
        srw.set_foreground_fill_color('r50g50b100');
        srw.set_fill_pattern('solid');
    end if;

    return (TRUE);
end;
```

5. 「**コンパイル**」をクリックします。
6. コンパイル・エラーが発生した場合には、構文エラーのコードをチェックし、必要な場合には、再度コンパイルします。
7. 「**クローズ**」をクリックします。
8.  をクリックすると、ライブ・プレビューアに結果が表示されます。レポートをスクロールして、見出しの色が奇数ページでは濃い灰色、偶数ページでは明るい青になっていることを確認してください。
9. レポートを「cond\_26.rdf」という名前で保存します。

#### 任意演習：

「R\_G\_SYMBOL」の一番上の不透明なオブジェクトを透明にして、他のオブジェクトの塗りカラーを表示させることができます。

**ヒント：**オブジェクトナビゲータを使用して、「R\_G\_SYMBOL」オブジェクトに含まれている枠を選択します。

## 2.7 まとめ

完了しました。これで、条件付き書式のサンプル・レポートの作成は終了です。この章で学習した内容は次のとおりです。

- レポート・ウィザードを使用した、データ・モデルおよびレイアウトの定義
- ライブ・プレビューアを使用したレポート・レイアウトの変更
- 「条件付き書式」ダイアログ・ボックスを使用したフィールドへの書式の例外の追加
- 「条件付き書式」ダイアログ・ボックスにより生成されたコードの変更
- 繰返し枠への書式の例外の追加
- 「書式の例外」ダイアログ・ボックスにより生成されたコードの変更

条件付き書式の詳細は、オンライン・ヘルプを参照してください。

---



1. このトピックに関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」  
「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
  2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
条件付き書式, ~について
  3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
条件付き書式について
-

---

## レポート・テンプレートの作成と適用

この章で説明するレポートは、テンプレートを作成および適用するための Report Builder の機能について理解できるように設計されています。

**テンプレートについて** テンプレートでは、複数のレポートに適用する共通の特性とオブジェクトが定義されます。たとえば、企業のロゴを含み、レポートの選択した領域にフォントとカラーを設定するテンプレートを定義できます。

このレポートの例では、表レポート・スタイルを使用する企業の記号ごとに株式情報を集計する複数問合せレポートを作成します。新しいテンプレートを作成して、レポートにテンプレートを適用します。次に、テンプレートのマージンと本体で複数のデフォルト属性を変更することで、テンプレートを拡張します。グループ上スタイルのデフォルト属性の一部を上書きすることで、テンプレートをさらに拡張します。最後に、グループ上スタイルを使用して追加のレイアウトを作成し、レポートにテンプレートを再び適用します。

次の図は、テンプレートの概念とテンプレートに追加するさまざまな機能を示しています。テンプレートでは、すべてのレポート・スタイルにグローバルに適用されるレポートの共通の外観（デフォルト属性）が定義されます。

同じテンプレートを使用して、特定のレポート・スタイルの外観を変更します。この例では、グループ上スタイルのデフォルト属性を上書きします。

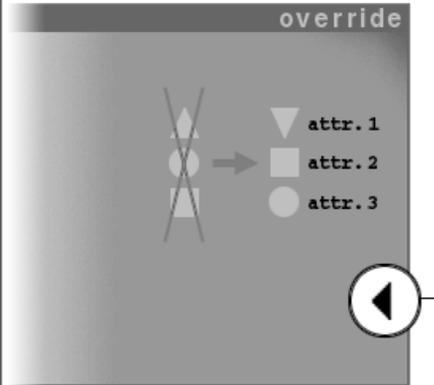
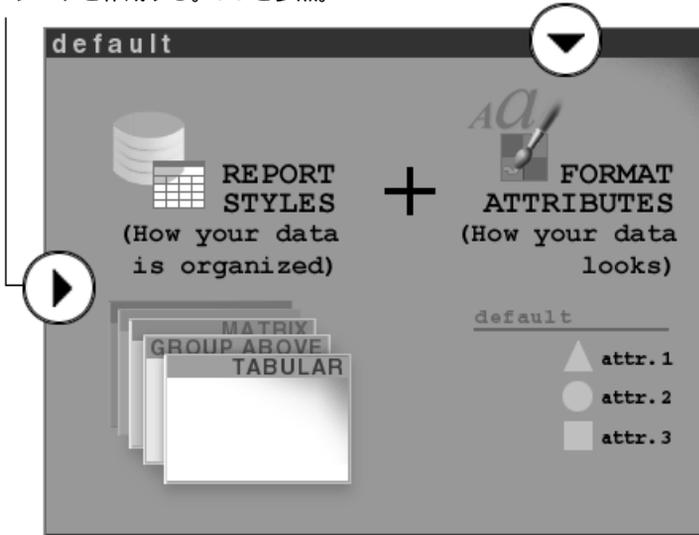
レポートを作成する場合は、このテンプレートを使用してさまざまなレポート・スタイル（表、グループ左、マトリックスなど）に共通の外観を適用したり、グループ上レポート・スタイルのレポートに独自の外観を適用します。

表 3-1「このテンプレート・サンプル・レポートで示す機能」では、テンプレートを作成してレポートに適用するときに実行するステップを説明します。

すべてのレポート・スタイルに適用するデフォルト属性を持つテンプレートを作成する。3.3 を参照。

フレーム、フィールドおよびラベルのカラーと境界線を変更する。3.6 を参照。

グループ上レポート・スタイルのみに適用する上書き属性を定義する。3.7 を参照。



表レポートにデフォルト属性を適用する。3.3 を参照。

November 23, 1998 12:02 PM

Symbol	Price	Change	Volume	Market Cap	Industry
ALCB	\$12311.00	\$34.00	\$1.20	Retail	
CSCO	\$1200.00	\$35.00	\$12.00	Technology	
DVY	\$66534.00	\$34.00	\$1.40	Retail	
GUIG	\$10553.00	\$45.00	\$4.00	Technology	
MSFT	\$23000.00	\$57.00	\$16.00	Technology	
QJSP	\$9533.00	\$50.00	\$4.00	Retail	
ORCL	\$64043.00	\$53.00	\$21.00	Technology	
ULTM	\$3534.00	\$18.00	\$12.00	Retail	
WGA	\$3429.00	\$36.00	\$30.00	Retail	
LVO	\$4900.00	\$20.00	\$40.00	Transportation	
VBTK	\$125550.00	\$35.00	\$4.00	Transportation	
ALCB	\$12311.00	\$34.00	\$1.20	Retail	
CSCO	\$1200.00	\$35.00	\$12.00	Technology	
DVY	\$66534.00	\$34.00	\$1.40	Retail	
GUIG	\$10553.00	\$45.00	\$4.00	Technology	

November 23, 1998 12:02 PM

ORACLE

Summary by Industry

Category	Total Sales	Avg High Stock	Avg Low Stock	Avg Dividend	Avg P/E	Symbol	Price	Dividend
<b>Category: Retail</b>								
Total Sales	\$951440	\$344	\$34	\$12019.0	\$0.9	ALCB	\$12311.0	\$0.9
Avg High Stock	\$344	\$120	\$120	\$1200.0	\$0.2	CSCO	\$1200.0	\$0.2
Avg Low Stock	\$120	\$42	\$42	\$66534.0	\$0.9	DVY	\$66534.0	\$0.9
Avg Dividend	\$42	\$97	\$97	\$10553.0	\$0.9	GUIG	\$10553.0	\$0.9
Avg P/E	\$97	\$97	\$97	\$23000.0	\$0.9	MSFT	\$23000.0	\$0.9
<b>Category: Technology</b>								
Total Sales	\$951440	\$475	\$47	\$12019.0	\$0.9	ALCB	\$12311.0	\$0.9
Avg High Stock	\$475	\$165	\$165	\$1200.0	\$0.2	CSCO	\$1200.0	\$0.2
Avg Low Stock	\$165	\$08	\$08	\$66534.0	\$0.9	DVY	\$66534.0	\$0.9
Avg Dividend	\$08	\$133	\$133	\$10553.0	\$0.9	GUIG	\$10553.0	\$0.9
Avg P/E	\$133	\$133	\$133	\$23000.0	\$0.9	MSFT	\$23000.0	\$0.9
				\$9533.0	\$1.2	QJSP	\$9533.0	\$1.2

水位標を挿入する。3.3 を参照。

レポートが HTML で生成されたときにフッターを表示する HTML ファイルを示します。3.3 を参照。

ページ番号に基づいてグラフィックスを条件付きで表示する。フォーマット・トリガーを定義します。3.3 を参照。

ALCB	\$12311.00	\$34.00	\$1.20	Retail
CSCO	\$1200.00	\$35.00	\$12.00	Technology
DVY	\$66534.00	\$34.00	\$1.40	Retail
GUIG	\$10553.00	\$45.00	\$4.00	Technology
MSFT	\$23000.00	\$57.00	\$16.00	Technology
QJSP	\$9533.00	\$50.00	\$4.00	Retail
ORCL	\$64043.00	\$53.00	\$21.00	Technology
ULTM	\$3534.00	\$18.00	\$12.00	Retail
WGA	\$3429.00	\$36.00	\$30.00	Retail
LVO	\$4900.00	\$20.00	\$40.00	Transportation
VBTK	\$125550.00	\$35.00	\$4.00	Transportation



---

次のサポート・ファイルは、この章の例を完了するために使用されます。サポート・ファイルは、ORACLE\_HOME¥TOOLS¥DOC60¥US¥RBBR60 ディレクトリにあります。

- temp\_hdrftr.htm
- oreplogo.gif
- osuplogo.jpg
- ostore.gif
- oracle.gif
- cconft.bmp
- cconfa.bmp
- t\_image1.bmp
- t\_image2.bmp
- temp.tdf
- temp.rdf

次のテンプレート (ORACLE\_HOME¥REPORT60¥ADMIN¥TEMPLATE¥US ディレクトリにあります) を処理することもあります。

- corp2.tdf
- conf2.tdf

グローバル設定ファイル、cagprefs.ora (ORACLE\_HOME ディレクトリにあります) を処理します。temp.rdf ファイルには、この章のタスクを完了した後に作成するレポートが含まれています。作業の実行中にこのファイルを参照してください。このファイルは、ORACLE\_HOME¥TOOLS¥DOC60¥US¥RBBR60 ディレクトリにあります。

**表 3-1 このテンプレート・サンプル・レポートで示す機能**

機能	項
データ・モデル表示で複数問合せデータ・モデルおよびデータ・リンクを作成します。	3.1 項「データ・モデルの作成」
事前定義されたレイアウトを使用してレポートを作成し、ライブ・プレビューでレイアウトを変更します。	3.2 項「レポートの作成」
テンプレートのレイアウト・モデル表示を使用して、レポートの外観を変更する新しいテンプレートを作成します。	3.3 項「テンプレートの作成」

表 3-1 このテンプレート・サンプル・レポートで示す機能

機能	項
レポート・ウィザードで事前定義されたテンプレート・リストに新しいテンプレートを追加して、レポートに適用できます。	3.4 項「事前定義されたテンプレート・リストへの新しいテンプレートの追加」
レポートに新しいテンプレートを適用して、ライブ・プレビューアで変更を表示します。	3.5 項「レポートへのカスタマイズされたテンプレートの適用」
レポートの本体にグローバルに適用されるテンプレートのデフォルト属性を変更します。	3.6 項「テンプレートのデフォルト属性の拡張」
テンプレートのグループ上スタイルのデフォルト属性を上書きします。	3.7 項「テンプレートのデフォルト属性の上書き」
テンプレートに対する上書き属性の変更を示す、追加のデフォルト・レイアウトを作成します。	3.8 項「追加のレイアウトの作成」
レポートに最後の書式変更を行います。	3.9 項「レポートの外観の拡張」

まず、Report Builder をオープンします。「前置き」ダイアログ・ボックスが表示された場合は、「**新規レポートを手動で作成**」をクリックしてから「OK」をクリックしてください。このダイアログ・ボックスが現れないときは、「**ファイル**」「**新規作成**」「**レポート**」を選択します。「**手動で新規レポートを作成**」をクリックし、次に「OK」をクリックします。データ・モデルが表示されます。

レポートを作成する前のある時点で、データベースにログインする必要が生じます。データベースに接続するには、「**ファイル**」「**接続**」を選択します。該当するログオン情報を入力します。詳細は、1.3 項「**起動前のデータベース・アクセス権の取得**」を参照してください。

## 3.1 データ・モデルの作成

この項のステップでは、複数問合せデータ・モデルを作成します。まず、2つの問合せを作成します。次に、最初の問合せに対してブレイク・グループを作成します。最後に、2つの問合せをリンクします。

### 3.1.1 SQL 問合せツールを使用した 2 つの問合せの作成

1. 「データ・モデル表示」で  をクリックします。
2. 「データ・モデル表示」でクリックします。
3. 「SQL 問合せ文」ダイアログ・ボックスで、次の問合せを入力します。

```
SELECT      ic.category,
```

```

SUM (h.sales),
AVG (h.high_365),
AVG (h.low_365),
AVG (h.div),
AVG (h.p_e)
FROM stock_history h,indcat ic
WHERE h.symbol=ic.symbol
GROUP BY ic.category

```

4. 「OK」をクリックします。問合せには、Q\_1 というラベルがデフォルトで付いています。後のステップで問合せの名前を変更します。
5. ステップ1と2を繰り返して、2番目の問合せを作成する次のコードを入力します。

```

SELECT      h.symbol,
            h.sales,
            h.high_365,
            h.low_365,
            h.div,
            h.p_e,
            ic.category
FROM stock_history h, indcat ic
WHERE ic.symbol=h.symbol

```

6. 「OK」をクリックします。問合せには、Q\_2 というラベルがデフォルトで付いています。後のステップで問合せの名前を変更します。
7. 「ファイル」 「名前を付けて保存」を選択します。選択したディレクトリにレポートを保存し、レポートに temp\_311.rdf という名前を付けます。

**ヒント:** レポートの設計段階では、レポートを異なるファイル名で頻繁に保存することをお勧めします。そうすれば、エラーが生じたり、変更した内容に問題がある場合でも、前に保存したファイルに簡単に戻ることができるので、その時点からの修正を加えるだけで済みます。

### 3.1.2 データ・モデル・オブジェクトの改名

データ・モデル表示で、次の変更を行います。

1. 「Q\_1」をクリックして、「ツール」 「プロパティ・パレット」を選択します。
2. 「一般情報」ノードで、名前プロパティを「Q\_ind」に設定します。

3. 次のステップ 1 と 2 を繰り返します。

表 3-2 列名の変更

古い名前	新しい名前
G_category	G_ind_summary
Q_2	Q_detail

4. レポートを temp\_312.rdf という名前で保存します。

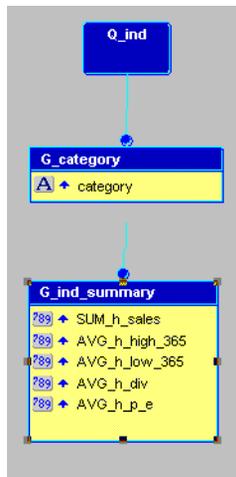
### 3.1.3 ブレーク・グループの作成

この項では、問合せ Q\_ind のカテゴリ列を使用して、ブレーク・グループを作成します。



1. この作業に関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
ブレーク・グループ,作成
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
ブレーク・グループの作成

1. データ・モデル表示で、グループ G\_ind\_summary のタイトル・バーを数インチドラッグし、新規グループの領域を作成します。
2. G\_ind\_summary グループ上にカテゴリ列をクリックおよびドラッグし、G\_category というブレーク・グループを作成します。結果は次の 図と同じようになります。



3. レポートを temp\_313.rdf という名前で保存します。

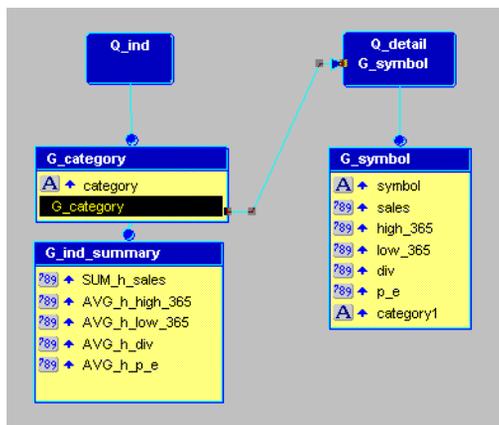
### 3.1.4 データ・リンクの作成

この項では、G\_category と Q\_detail 間にデータ・リンクを作成します。



1. この作業に関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
データ・リンク,作成
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
データ・リンクの作成

1. データ・モデル表示内で、 をクリックします。
2. 「G\_category グループ」をクリックし、リンクを「G\_symbol グループ」にドラッグします。データ・モデルは次の図と同じようになります。



3. レポートを temp\_314.rdf という名前で保存します。

## 3.2 レポートの作成

この項のステップでは、レポート・ウィザードを使用してデフォルト・レイアウトを作成します。表スタイルを使用して、デフォルト・レイアウトを作成します。最後に、ライブ・プレビュー表示を使用してレポートの複数のオブジェクトを書式設定します。



1. この作業に関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
デフォルト・レイアウト, ~について
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
デフォルトのレイアウトについて

### 3.2.1 デフォルト・レイアウトの作成

1. オブジェクト・ナビゲータでレポートの  をクリックし、「ツール」 「レポート・ウィザード」を選択します。レポート・ウィザードが表示されます。
2. 「スタイル」ページで、レポート・スタイルとして「表」をクリックします。
3. 「次へ」をクリックします。
4. 「グループ」ページで、「使用可能なフィールド」リストから「G\_symbol」をクリックしてから、「下」をクリックします。G\_symbol は、「Displayed Groups」リストに移動されます。
5. 「次へ」をクリックします。
6. 「フィールド」ページで記号をクリックしてから、 をクリックしてフィールドを表示フィールドに移動します。
7. 次のフィールドのステップ 6 を繰り返します。
  - sales
  - high\_365
  - low\_365
  - div
  - p\_e
  - category1
8. 「次へ」をクリックします。

9. 「ラベル」ページで、次の表に示すようにラベルと幅を変更します。

表 3-3 ラベルおよび幅

列	ラベル	幅
symbol	記号	5
sales	売上	6
high_365	最高株価	6
low_365	最低株価	6
div	配当	6
p_e	P/E	6
category1	業界	6

10. 「次へ」をクリックします。

11. 「テンプレート」ページで、事前定義されたテンプレートのリストから「社用 2」をクリックします。

12. 「完了」をクリックします。ライブ・プレビューが表示されます。レポートは次の図と同じようになります。

Report run on: March 11, 1999 10:08 AM

Symbol	Sales	High Stock	Low Stock	Dividend	P/E	Industry
ALCB	\$12311.00	\$34.00	\$8.00	\$0.00	\$1.20	Retail
CSCO	\$1200.00	\$35.00	\$8.00	\$0.23	\$12.00	Technology
DYTY	\$66534.00	\$34.00	\$25.00	\$20.00	\$1.40	Retail
GUIG	\$10553.00	\$45.00	\$23.00	\$0.85	\$4.00	Technology
MSFT	\$23000.00	\$57.00	\$12.00	\$0.80	\$16.00	Technology
OJSP	\$9533.00	\$50.00	\$15.00	\$1.20	\$4.00	Retail
ORCL	\$64043.00	\$53.00	\$23.00	\$1.20	\$21.00	Technology
ULTM	\$3334.00	\$18.00	\$10.00	\$0.00	\$12.00	Retail
VICA	\$3432.00	\$36.00	\$2.00	\$0.00	\$30.00	Retail
VLVO	\$4500.00	\$20.00	\$9.00	\$0.45	\$40.00	Transportation
WBTK	\$12555.00	\$35.00	\$11.00	\$1.20	\$4.00	Transportation
ALCB	\$12311.00	\$34.00	\$8.00	\$0.00	\$1.20	Retail
CSCO	\$1200.00	\$35.00	\$8.00	\$0.23	\$12.00	Technology
DYTY	\$66534.00	\$34.00	\$25.00	\$20.00	\$1.40	Retail
GUIG	\$10553.00	\$45.00	\$23.00	\$0.85	\$4.00	Technology
MSFT	\$23000.00	\$57.00	\$12.00	\$0.80	\$16.00	Technology
OJSP	\$9533.00	\$50.00	\$15.00	\$1.20	\$4.00	Retail
ORCL	\$64043.00	\$53.00	\$23.00	\$1.20	\$21.00	Technology
ULTM	\$3334.00	\$18.00	\$10.00	\$0.00	\$12.00	Retail
VICA	\$3432.00	\$36.00	\$2.00	\$0.00	\$30.00	Retail

13. レポートを temp\_321.rdf という名前で保存します。

### 3.2.2 ライブ・プレビューアを使用したオブジェクトの書式設定

数値を通貨として表示するようにフォーマット・マスクを変更して、レポートの複数のオブジェクトを書式設定します。最後に、複数のオブジェクトを右揃えにします。

1. ライブ・プレビューアに表示されたレポートを使用して、売上ヘッダーの下にあるデータ列をクリックして選択します。

2.  をクリックして、ドル記号を追加します。

3.  を 2 回クリックして、小数部を 2 桁追加します。

4.  をクリックして、オブジェクトを右揃えにします。

5. 次のステップ 1 ~ 4 を繰り返します。

**ヒント:** 一度に複数の列を変更できます。[Shift] キーを押しながらすべての列をクリックして、「ツール」 「プロパティ・パレット」を選択します。

- 最高株価の下の列
  - 最低株価の下の列
  - 配当の下の列
  - P/E の下の列
6. [Shift] キーを押しながら次のオブジェクトをクリックし、 をクリックします。
    - 売上
    - 最高株価
    - 最低株価
    - 配当
    - P/E

その結果、次の図と同じようになります。

Sales	High Stock
\$12311.00	\$34.00
\$1200.00	\$35.00
\$66534.00	\$34.00

7. レポートを temp\_322.rdf という名前で保存し、ライブ・プレビューアをクローズします。

## 3.3 テンプレートの作成

この項のステップでは、「マージン編集」モードでテンプレート・エディタ・レイアウト・モデルを使用して、新しいテンプレートを作成します。まず、2つのテンプレートを開き、一方のテンプレートから非表示の水位標をコピーして、もう一方に貼り付けます。次に、日付ラベルのカラーを変更し、HTML ページ・フッターをテンプレートに追加します。最後に、レポートのページ番号に基づいてグラフィックスを条件付きで表示するフォーマット・トリガーを作成します。

### 3.3.1 新規テンプレートの作成

1. テンプレート `corp2.tdf` (`ORACLE_HOME\REPORT60\ADMIN\TEMPLATE\US` ディレクトリにあります) を開きます。これは、現在レポートに適用されている社用 2 テンプレートです。
2. 「テンプレート」ノードのオブジェクト・ナビゲータで  をクリックし、「CORP2」テンプレートを選択します。次に、「ツール」 「テンプレート・エディタ」を選択して、テンプレートのレイアウト・モデル表示を表示します。
3. 2 番目のテンプレート、`conf2.tdf` を開きます。このテンプレートには、非表示の水位標が含まれています。
4. 「CONF2」ノードのオブジェクト・ナビゲータで「レイアウト・モデル」ノードをダブルクリックし、テンプレートのレイアウト・モデル表示を表示します。テンプレートの対角線上にある長方形のボックスに注目してください。これが水位標です。

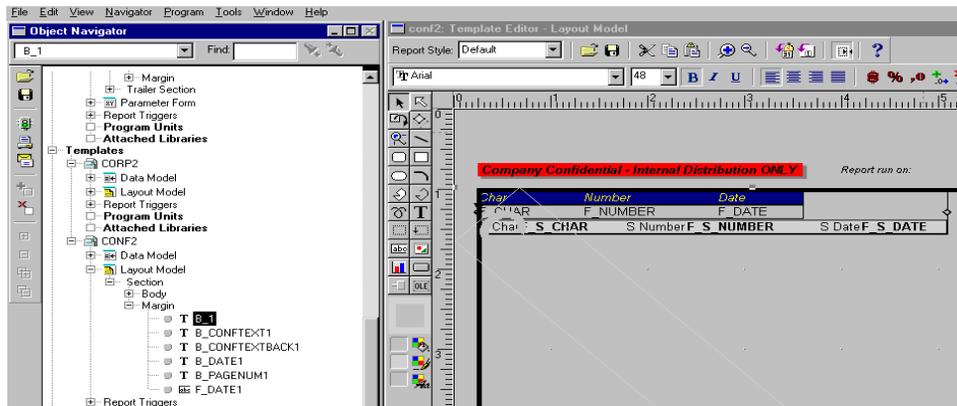
**ヒント:** 水位標が見えない場合は、レイアウト・モデル表示に本体が表示されている可能性があります。



 をクリックして、マージンと本体を切り替えます。あるいは、「表示」 「レイアウト・セクション」を選択します。「マージン編集」のとなりのチェック・マークは、「レイアウト・モデル表示」がマージン・モードであることを示しています。

5. 水位標をクリックしてから、 をクリックして水位標をコピーします。

**ヒント:** レイアウト・モデル表示内の各オブジェクトは、オブジェクト・ナビゲータにも表示されます。レイアウト・モデル表示の水位標は、オブジェクト・ナビゲータの B\_1 として表示されます。水位標を選択したことを確認するには、オブジェクト・ナビゲータとレイアウト・モデル表示を並べて表示するように作業領域を配置します。オブジェクト・ナビゲータの「CONF2」、「レイアウト・モデル」、「セクション」および「マージン」ノードを拡張します。レイアウト・モデル表示の水位標オブジェクトをクリックすると、オブジェクト・ナビゲータの「マージン」ノードの下にある B\_1 がハイライトされます。画面は次の図のようになります。



6. オブジェクト・ナビゲータで「CONF2」ノードをクリックしてから、変更を保存せずに「ファイル」「クローズ」を選択します。
7. 「CORP2」ノードをクリックします。
8. レイアウト・モデル表示で、タイトル・バーをクリックしてアクティブにします。

9.  をクリックして、水位標をテンプレートに貼り付けます。
10. ORACLE\_HOME¥REPORT60¥ADMIN¥TEMPLATE¥US ディレクトリに cconf.tdf として CORP2 を保存します。
11. レイアウト・モデル表示で、日付ラベル (オブジェクト・ナビゲータの B\_DATE1 オブジェクト) をクリックします。

12.  をクリックしてから、カラーをクリックします。
13. テンプレートを cconf.tdf という名前で再保存します。
14. (オプション) cconf\_b1.tdf などの別の名前で、テンプレートをバックアップ・ファイルという名前で保存します。

**ヒント:** バックアップ・ファイルは、テンプレートに重大な変更を行う場合に有効です。変更の問題がある場合は、以前に保存したテンプレートに戻ってその時点から変更できます。

15. テンプレートをバックアップとして保存した場合は、ccconf.tdf テンプレートを再び開きます。

### 3.3.2 テンプレートへの HTML ヘッダーの追加

After Page タイプおよび After Page 値プロパティを使用して、テンプレートに HTML フッターを追加します。



1. この作業に関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
HTML 出力, ~について
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
HTML 出力の Web リンクについて

便宜上、この HTML フッター・ファイルおよび関連付けられたグラフィックスは、この例に使用されています。これらのファイルは、ORACLE\_HOME¥TOOLS¥DOC60¥US¥RBBR60 ディレクトリにあります。提供されるのは、次のものです。

- temp\_hdrftr.htm
- oreplogo.gif
- osuplogo.jpg
- ostore.gif
- oracle.gif

1. 「テンプレート」ノードのオブジェクト・ナビゲータで、CCONF テンプレートの  をダブルクリックして、プロパティ・パレットを表示します。「レポート・エスケープ」ノードで、次のように設定します。

表 3-4 テンプレート・ノードのオブジェクトに対するプロパティの変更

プロパティ	設定
After Page タイプ	ファイル
After Page 値	c:¥ORACLE_HOME¥TOOLS¥DOC60¥US¥RBBR60 temp_hdrftr.htm ("c" は ORACLE_HOME の場所)

2. テンプレートを cconf.tdf という名前で保存します。
3. (オプション) テンプレートを別の名前でバックアップ・ファイルとして保存して、ccconf.tdf を再び開きます。

### 3.3.3 フォーマット・トリガーの作成

この例では、テンプレートのマージンに2つのボイラープレートを挿入します。次に、条件付きで非表示、またはページ番号に基づいてこのイメージをそれぞれ表示するフォーマット・トリガーを作成します。



1. この作業に関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
フォーマット・トリガー, 説明
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
フォーマット・トリガー

この例では2つのイメージが使用され、ORACLE\_HOME¥TOOLS¥DOC60¥US¥RBBR60 ディレクトリにあります。提供されるのは、次のものです。

- t\_image1.bmp
- t\_image2.bmp

1. レイアウト・モデル表示を開き、 をクリックしてリンクされたファイルを挿入します。
2. ルーラーをガイドとして使用し、7インチのマーカーでリンク・ファイル・オブジェクトをクリックおよびドラッグして、1インチ角のオブジェクトを作成します。
3. 必要に応じて、次のものをクリックします。
  -  をクリックして、オブジェクトを塗りなしに設定します。
  -  をクリックして、オブジェクトを線なしに設定します。
4. 「リンク・ファイル」オブジェクトをダブルクリックして、プロパティ・パレットを表示します。
5. 「一般情報」ノードで、名前プロパティを B\_Image1 に設定します。
6. 「リンク・ファイル・ボイラープレート」ノードで、次のように設定します。

表 3-5 「リンク・ファイル・ボイラープレート」ノードの t\_image1 オブジェクトに対するプロパティの変更

プロパティ	設定
ソース・ファイル・フォーマット	イメージ
ソース・ファイル名	c:¥ORACLE_HOME¥TOOLS¥DOC60¥US¥RBBR60¥t_image1.bmp ("c" は ORACLE_HOME の場所)

7. 「**拡張レイアウト**」ノードで「フォーマット・トリガー」プロパティをダブルクリックして、PL/SQL エディタを表示します。
8. 次のコードをエディタに入力します。新規コードは太字表記になっています。

```
function B_Image1FormatTrigger return boolean is
  F_pge number;
begin
  srw.get_page_num (F_pge);
  If F_pge=1 then
    return (TRUE);
  Else
    return (FALSE);
  End if;
end;
```

9. 「**コンパイル**」をクリックします。
10. コンパイル・エラーが発生した場合は、コードの構文エラーをチェックして、必要であれば再コンパイルします。
11. 「**クローズ**」をクリックします。
12. ステップ 1 ~ 11 を繰り返して、2 番目のイメージを挿入し、次のプロパティを設定します。

「**一般情報**」ノードで、名前プロパティを B\_Image2 に設定します。

「**リンク・ファイル**」ノードで次のことを実行します。

表 3-6 「リンク・ファイル」ノードの t\_image2 オブジェクトに対するプロパティの変更

プロパティ	設定
ソース・ファイル・フォーマット	イメージ
ソース・ファイル名	c:¥ORACLE_HOME¥TOOLS¥DOC60¥US¥RBBR60¥t_image2.bmp ("c" は ORACLE_HOME の場所)

「**拡張レイアウト**」ノードで、エディタに次のコードを入力します。新規コードは太字表記になっています。

```
function B_Image2FormatTrigger return boolean is
  F_pge number;
begin
  srw.get_page_num (F_pge);
  If F_pge=2 then
    return (TRUE);
  Else
    return (FALSE);
  End if;
end;
```

```
End if;  
end;
```

**ヒント:** 2 番目のイメージを最初のイメージに直接配置します。

13. テンプレートを `cconf.tdf` という名前で保存します。
14. (オプション) テンプレートを別の名前でバックアップ・ファイルとして保存して、`cconf.tdf` を再び開きます。

## 3.4 事前定義されたテンプレート・リストへの新しいテンプレートの追加

この項のステップでは、レポート・ウィザードで事前定義されたテンプレート・リストに新しいテンプレートを追加します。まず、レポート・ウィザードの「スタイル」および「テンプレート」ページを参照して、表またはグループ上など、テンプレートがさまざまなレポート・スタイルに適用される方法を理解します。

Report Builder の設定を定義するグローバル設定ファイルにテンプレート定義を追加します。最後に、新しいテンプレートをレポートに適用します。



1. この作業に関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
テンプレート, 定義済みリストへの追加
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
定義済みテンプレート・リストへのテンプレートの追加

### 3.4.1 レポート・ウィザードのレポート・スタイルおよび事前定義されたテンプレート・リストの表示

次のステップは、レポート・ウィザードでテンプレートが使用される方法を示す例です。この項では、レポートは変更しません。

1. オブジェクト・ナビゲータで、レポート (最後に `temp_322.rdf` として保存されたもの) のとなりにある  をクリックし、「ツール」 「レポート・ウィザード」を選択します。
2. 「スタイル」ページで、「フォーム形式」をクリックします。
3. 「テンプレート」ページに 3 つのオプションがあります。
  - リストからテンプレートを選択して、レポートに適用するのに便利な、事前定義されたテンプレート・リスト

- テンプレートの場所およびファイル名を指定して、レポートにテンプレートを適用するテンプレート・ファイル
  - レポートにテンプレートを適用しない、「テンプレートなし」オプション
4. 事前定義されたテンプレート・リストを選択してから、「**社用 1**」をクリックします。テンプレート・スタイルのサンプル・グラフィックに注意します。
  5. 「スタイル」ページに戻り、別のレポート・スタイルを選択します。
  6. 「テンプレート」ページに戻ります。レポート・スタイルのサンプル・グラフィックが変更されたことに注意します。  
これは、1つのテンプレートに複数のレポート・スタイルのレイアウト属性がデフォルトで含まれているためです。テンプレートのレイアウト属性の詳細は、後のステップで説明します。
  7. レポートを変更せずに、レポート・ウィザードを取り消します。
  8. 「**ファイル**」 「**クローズ**」を選択して、変更を保存せずにレポートを閉じます。

### 3.4.2 事前定義されたテンプレート・リストへのテンプレートの追加

前の例では、複数のレポート・スタイルのレイアウト属性を含む1つのテンプレートについて説明しました。特定のレポート・スタイルでテンプレートを使用できるようにするには、Report Builder のグローバル設定ファイルにテンプレートの説明とファイル名を追加する必要があります。グローバル設定ファイルで表スタイルおよびグループ上スタイルのテンプレートを定義すると、レポート・ウィザードの事前定義されたテンプレート・リストでテンプレートを使用できるようになります。

1. テキスト・エディタ (Wordpad など) で、グローバル設定ファイル `cagprefs.ora` ( `ORACLE_HOME` ディレクトリにあります ) を開きます。

**ヒント:** グローバル設定変更のほとんどは、「**ツール**」 「**作業環境**」を選択することで、Report Builder から実行できます。ただし、テンプレートの場合、テキスト・エディタを使用して、事前定義されたリストにテンプレート定義を追加する必要があります。

2. `Reports.Tabular_Template_Desc.` にスクロールするか、または検索します。
3. 新しい行を追加して、事前定義されたテンプレート・リストに表示されるテンプレートの名前として "`Custom Confidential`" を入力します。次の例で、ボールドのテキストを参照してください。

```
Reports.Tabular_Template_Desc =
('Corporate 1',
 'Corporate 2',
 'Confidential Heading',
 'Confidential Background',
 'Custom Confidential',
```

```
"Cyan Grid",
```

4. Reports.Tabular\_Template\_File にスクロールします。
5. 新しい行を追加して `cconf` を入力し、テンプレートのファイル名を指定します。次の例で、ボールドのテキストを参照してください。

**ヒント:** 説明と同じ場所にファイル名を配置するようにします。たとえば、テンプレートの説明を Reports.Tabular\_Template\_Desc の 5 行目に挿入した場合は、テンプレートのファイル名も Reports.Tabular\_Template\_File の 5 行目に挿入する必要があります。

```
Reports.Tabular_Template_File =  
(corp1,  
 corp2,  
 conf1,  
 conf2,  
 cconf,  
 gngd1,
```

6. Reports.BreakAbove\_Template\_Desc にスクロールします。
7. 新しい行を追加して、事前定義されたテンプレート・リストに表示されるテンプレートの名前として "Custom Confidential" を入力します。

```
Reports.BreakAbove_Template_Desc =  
("Corporate 1",  
 "Corporate 2",  
 "Confidential Heading",  
 "Confidential Background",  
 "Custom Confidential",  
 "Cyan Grid",
```

8. Reports.BreakAbove\_Template\_File にスクロールします。
9. 新しい行を追加して `cconf` を入力し、テンプレートのファイル名を指定します。

```
Reports.BreakAbove_File =  
(corp1,  
 corp2,  
 conf1,  
 conf2,  
 cconf,  
 gngd1,
```

10. 変更を設定ファイルに保存して、テキスト・エディタを閉じます。

### 3.4.3 レポート・ウィザードの「テンプレート」ページにサンプル・レポート・イメージを表示

事前定義されたテンプレート・リストに新しいテンプレートを追加する以外に、レポート・ウィザードの「テンプレート」ページで特定のレポート・スタイルのテンプレートを選択するときに、サンプル・イメージを表示できます。

便宜上、この例では2つのビットマップを使用します。このビットマップは、テンプレート・ファイルと同じディレクトリにある必要があります。

1. 次のビットマップを検索してください (ORACLE\_HOME¥TOOLS¥DOC60¥US¥RBBR60 ディレクトリで)。
  - 表スタイル・サンプル・イメージの cconfst.bmp
  - グループ上レポート・スタイル・サンプル・イメージの cconfa.bmp
2. 2つのビットマップを ORACLE\_HOME¥REPORT60¥ADMIN¥TEMPLATE¥US ディレクトリにコピーします。

このビットマップは、表およびグループ上スタイルの「Custom Confidential」テンプレートを選択したときに、レポート・ウィザードの「テンプレート」ページに表示されます。後のステップでこのビットマップを表示します。

## 3.5 レポートへのカスタマイズされたテンプレートの適用

この項のステップでは、レポート・ウィザードを使用してレポートに新しいテンプレートを追加します。



1. この作業に関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
テンプレート, レポートへの適用
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
テンプレートの適用について

1. Report Builder を閉じて再起動し、設定を有効にします。データベースに接続します。
2. 「ファイル」 「オープン」を選択して、レポート（最後に temp\_322.rdf として保存されたもの）を開きます。
3. オブジェクト・ナビゲータで、レポートのとなりの  をクリックし、「ツール」 「レポート・ウィザード」を選択します。
4. 「スタイル」ページで「グループ上」をクリックします。
5. 「テンプレート」ページで、テンプレート Custom Confidential が事前定義されたテンプレート・リストに表示されることに注意してください。

- 「Custom Confidential」をクリックします。サンプル・グラフィックに注目します。サンプル・グラフィックは、次の図と同じになる必要があります。

Category: Retail

Total Sales	\$95
Avg High Stock	
Avg Low Stock	
Avg Dividend	
Avg P/E	

ヒント: テンプレートが事前定義されたリストに表示されない場合は、テンプレートが正しいディレクトリ (ORACLE\_HOME\REPORT60\ADMIN\TEMPLATE\US ディレクトリにあります) にあり、テンプレートの説明およびファイルが設定ファイルに正しく配置されていることを確認してください。サンプル・グラフィックスが表示されない場合は、cconfa.bmp および cconf.t.bmp も ORACLE\_HOME\REPORT60\ADMIN\TEMPLATE\US ディレクトリにあることを確認してください。

- 「スタイル」ページで「表」をクリックします。
- 「テンプレート」ページでサンプル・グラフィックに注目します。サンプル・グラフィックは、次の図と同じになる必要があります。

Symbol	Sales
ALCB	\$1,23
CSCO	\$ 12
DYTY	\$6,66
GUIG	\$1,00
MSFT	\$2,30

- 「完了」をクリックします。
- レポートがライブ・プレビューアに表示されます。次の点に注意してください。
  - レポートでは、テンプレート属性がレポートにインポートされます (レポートはカラーを変更したラベル上で実行されます)。
  - 通貨書式およびレポートに対して行った揃えが保持されます。Report Builder では、異なるテンプレートを適用するときにレポートに対して行う手動の変更が保持されます。
  - 非表示のヘッダーが隠されます。これは、フレームの塗りパターンがソリッドに設定されているために発生します。後のステップで、テンプレートのデフォルト・セクションの塗りパターンを透明に設定します。
  - イメージ (黒の Oracle ロゴ) は、レポートの右上隅に表示されます。このレポートでは 1 ページしか生成されないため、ページ番号に基づいてイメージが変更されるかどうかをすぐに確認することはできません。後のステップで、2 ページ目を生成する追加のレポート・レイアウトを作成します。その時点で、ページ番号に基づいてイメージが変更されることを確認します。

11.  をクリックして、Web ブラウザでレポートを表示し、HTML ヘッダーをテストします。

ヘッダーにグラフィックスがないことに注意してください。これは、Report Builder によって ORACLE\_HOME¥REPORT60¥TMP ディレクトリに一時的な HTML ファイルが生成されるために発生します。ヘッダー・グラフィックスを使用してこのレポートをプレビューする場合は、次のグラフィックス・ファイル

(ORACLE\_HOME¥TOOLS¥DOC60¥US¥RBBR60 ディレクトリにあります) を ORACLE\_HOME¥REPORT60¥TMP ディレクトリにコピーします。

- oreplogo.gif
- osuplogo.jpg
- ostore.gif
- oracle.gif

12. ブラウザを閉じます。  をもう一度クリックして、Web 上でプレビューを使用不可にします。

ヒント: レポートに細かい変更を何度も行っている場合は、Web 上でプレビューをオフにした方がいい場合もあります。それ以外の場合は、変更を行うたびに常にブラウザによって更新されます。

13. レポートを temp\_350.rdf という名前で保存し、ライブ・プレビューアをクローズします。

## 3.6 テンプレートのデフォルト属性の拡張

この項のステップでは、Custom Confidential (CCONF) テンプレートをさらに拡張します。オブジェクトを透明にしたり、フォントのスタイルやカラーを変更するなど、テンプレートのデフォルト属性の一部を変更します。この変更は、テンプレートのすべてのレポート・スタイルにグローバルに適用されます。

これまでにテンプレートに対して行った変更は、マージンのオブジェクトに影響します。デフォルト属性に対する変更は、フレーム、フィールド・ラベルおよびフィールドなど、レポート本体のオブジェクトに適用されます。

### 3.6.1 デフォルト属性の設定

1. 「ファイル」 「オープン」を選択して、テンプレート (別名で保存された) を開きます。

2. 「**テンプレート**」および「**CCONF**」ノードのオブジェクト・ナビゲータで、**レイアウト・モデル**・ノードをダブルクリックし、レイアウト・モデル表示に CCONF テンプレートを表示します。レイアウトに本体が表示されていることを確認します。 をクリックして、マージンと本体を切り替えます。
3. オブジェクト・ナビゲータで、「**レイアウト・モデル**」「**セクション**」「**本体**」「**デフォルト**」および「**フレーム**」ノードを拡張します。

**ヒント:** オブジェクト・ナビゲータでオブジェクトを選択すると、オブジェクトがレイアウト・モデルで選択され、レイアウト・モデルでオブジェクトを選択すると、オブジェクトがオブジェクト・ナビゲータで選択されます。オブジェクト・ナビゲータで変更するオブジェクトを選択し、レイアウト・モデル表示で変更を確認します。オブジェクト・ナビゲータとレイアウト・モデル表示を並べて表示するように作業領域を配置することで、この表示を簡単に切り替えられます。この方法は、レイアウト・モデル表示で初めて編集をする場合に便利です。

4. 「**フレーム**」ノードで、「**セクション・フレーム**」ノードをダブルクリックします。「**スタイル**」ノードのプロパティ・パレットで、塗りパターン・プロパティを透明に変更します。

**ヒント:**  をクリックして、値のリストを表示します。値をクリックしてから、「OK」をクリックして値を確定します。

5. この後の表を使用して、次のオブジェクトのプロパティを設定します。

**ヒント:** プロパティ・パレットを使用して、この変更を実行できます。ツールバーまたはツール・パレットを使用して、レイアウト・モデル表示から一部のプロパティ（フォントとカラー）を直接変更することもできます。

「**フレーム**」ノードで、次のように設定します。

**表 3-7 「フレーム」ノードのオブジェクトに対するプロパティの変更**

オブジェクト	「プロパティ・パレット」 ノード	プロパティ名	設定:
ヘッダー・フ レーム	スタイル	フォアグラウンド・ カラー	ツール・パレットの別のカラー、またはプロパティ・パレットで濃紺を指定します。
フィールド・ フレーム	スタイル	エッジ・フォアグラ ウンド・カラー	ツール・パレットの別のカラー、またはプロパティ・パレットで r0g88b75 を指定します。

「フィールド/ラベル・ヘッダー」ノードで、次のように設定します。

表 3-8 「フィールド/ラベル・ヘッダー」ノードのオブジェクトに対するプロパティの変更

オブジェクト	「プロパティ・パレット」 ノード	プロパティ名	設定:
文字	ラベル	フォント	ボールド イタリック
		テキストのカラー	ツール・パレットの別のカラー、またはプロパティ・パレットで r0g88b75 を指定します。
番号	ラベル	フォント	ボールド イタリック
		テキストのカラー	ツール・パレットの別のカラー、またはプロパティ・パレットで r0g88b75 を指定します。
		番号揃え	終了

「フィールド」ノードで、次のように設定します。

表 3-9 「フィールド/ラベル・ヘッダー」ノードのオブジェクトに対するプロパティの変更

オブジェクト	「プロパティ・パレット」 ノード	プロパティ名	設定:
番号	フィールド	番号揃え	終了

6. テンプレートを `cconf.tdf` という名前で作成します。

### 3.6.2 プロパティ値の継承とローカライズ

この項のステップは、テンプレートの継承機能を理解できるように設計されています。継承によって、プロパティ値を設定するソースが決定されます。デフォルト属性プロパティでは、プロパティを変更するまで Report Builder で事前設定された値が継承されます。プロパティを変更すると、値はローカライズされます（または、そのテンプレート内に含まれます）。

プロパティ・パレットで （「継承」ボタン）をクリックすると、プロパティを継承された値に戻すことができます。プロパティ値が事前設定された値によって継承されると、プロパティ・パレットのプロパティのとなりにあるアイコンが円になります。

**継承された値を持つデフォルト・テンプレート・プロパティ：**

◊ Borders	All
-----------	-----

 (「ローカライズ」ボタン) をクリックするか、またはプロパティ・パレットの値を変更すると、プロパティ値がローカライズされます。プロパティ値がローカライズされると、プロパティ・パレットのプロパティのとなりにあるアイコンが四角になります。

**ローカライズされた値を持つデフォルト・テンプレート・プロパティ：**

■ Borders	Bottom Only
-----------	-------------

1. オブジェクト・ナビゲータでレイアウト・モデル表示を開き、「フレーム」ノードで「フィールド・フレーム」オブジェクトを検索してダブルクリックし、プロパティ・パレットを開きます。  
「スタイル」ノードで、境界線プロパティのとなりにあるアイコンが円になり、「すべて」が継承された値を示していることに注意してください。
2. 境界線プロパティを「上のみ」に設定します。アイコンが四角に変更され、値がローカライズされたことを示していることに注意してください。
3. 境界線プロパティを選択して、 をクリックします。値が継承された値に返されることに注意してください。
4. 境界線プロパティを「下のみ」に設定します。
5. テンプレートを `cconf.tdf` として保存し、テンプレートのレイアウト・モデル表示を閉じます。

### 3.6.3 テンプレートへの変更の適用とライブ・プレビューアにおける結果の表示

1. オブジェクト・ナビゲータで、レポートのとなりの  をクリックし、「ツール」 「レポート・ウィザード」を選択します。
2. レポート・ウィザードの「テンプレート」ページで、**Custom Confidential** をクリックしてから「適用」をクリックします。
3. ライブ・プレビューアで、変更がどれも有効になっていない(水位標が非表示である)ことに注意してください。Report Builder では、同じテンプレートをレポートに適用したため、レポートのレイアウト属性が保持されます。この場合、Report Builder では、レポートの変更がテンプレートの変更よりも優先すると仮定されます。

**ヒント:** テンプレートの設計中に、サンプル・レポートの変更を常にプレビューする場合は、次のことを実行できます。

- ライブ・プレビューアすべてのオブジェクトを削除し、レポート・ウィザードの「テンプレート」ページで事前定義されたテンプレート・リストのテンプレートを  
選択してテンプレートを適用するか、または
  - 事前定義されたテンプレート・リストからのテンプレートの選択と、レポート・  
ウィザードの「テンプレート」ページにおけるテンプレート・ファイル名の指定を  
交互に行います。
4. レポート・ウィザードの「テンプレート」ページで「**テンプレート・ファイル**」をク  
リックしてから、「**参照**」をクリックします。テンプレート・ファイル `cconf.tdf`  
(`ORACLE_HOME\REPORT60\ADMIN\TEMPLATE\US` ディレクトリにあります) を検索しま  
す。
  5. 「**完了**」をクリックします。レポートは次の図と同じようになります。

ORACLE

Report run on: November 23, 1998 11:52 AM

Symbol	Sales	High Stock	Low Stock	Dividend	P/E	Industry
ALCB	\$12311.00	\$34.00	\$8.00	\$0.00	\$1.20	Retail
CSCO	\$1200.00	\$35.00	\$8.00	\$0.23	\$12.00	Technology
DYTY	\$66534.00	\$34.00	\$25.00	\$20.00	\$1.40	Retail
GUIG	\$10553.00	\$45.00	\$23.00	\$0.85	\$4.00	Technology
MSFT	\$23000.00	\$57.00	\$12.00	\$0.80	\$16.00	Technology
OJSP	\$9533.00	\$50.00	\$15.00	\$1.20	\$4.00	Retail
ORCL	\$64043.00	\$53.00	\$23.00	\$1.20	\$21.00	Technology
ULTM	\$3334.00	\$18.00	\$10.00	\$0.00	\$12.00	Retail
VICA	\$3432.00	\$36.00	\$2.00	\$0.00	\$30.00	Retail
VLVO	\$4500.00	\$20.00	\$9.00	\$0.45	\$40.00	Transportation
WBTK	\$12555.00	\$35.00	\$11.00	\$1.20	\$4.00	Transportation
ALCB	\$12311.00	\$34.00	\$8.00	\$0.00	\$1.20	Retail
CSCO	\$1200.00	\$35.00	\$8.00	\$0.23	\$12.00	Technology
DYTY	\$66534.00	\$34.00	\$25.00	\$20.00	\$1.40	Retail
GUIG	\$10553.00	\$45.00	\$23.00	\$0.85	\$4.00	Technology
MSFT	\$23000.00	\$57.00	\$12.00	\$0.80	\$16.00	Technology
OJSP	\$9533.00	\$50.00	\$15.00	\$1.20	\$4.00	Retail
ORCL	\$64043.00	\$53.00	\$23.00	\$1.20	\$21.00	Technology
ULTM	\$3334.00	\$18.00	\$10.00	\$0.00	\$12.00	Retail
VICA	\$3432.00	\$36.00	\$2.00	\$0.00	\$30.00	Retail

ORACLE

Report run on: November 23, 1998 11:52 AM

Symbol	Sales	High Stock	Low Stock	Dividend	P/E	Industry
ALCB	\$12311.00	\$34.00	\$8.00	\$0.00	\$1.20	Retail
CSCO	\$1200.00	\$35.00	\$8.00	\$0.23	\$12.00	Technology
DYTY	\$66534.00	\$34.00	\$25.00	\$20.00	\$1.40	Retail
GUIG	\$10553.00	\$45.00	\$23.00	\$0.85	\$4.00	Technology
MSFT	\$23000.00	\$57.00	\$12.00	\$0.80	\$16.00	Technology
OJSP	\$9533.00	\$50.00	\$15.00	\$1.20	\$4.00	Retail
ORCL	\$64043.00	\$53.00	\$23.00	\$1.20	\$21.00	Technology
ULTM	\$3334.00	\$18.00	\$10.00	\$0.00	\$12.00	Retail
VICA	\$3432.00	\$36.00	\$2.00	\$0.00	\$30.00	Retail
VLVO	\$4500.00	\$20.00	\$9.00	\$0.45	\$40.00	Transportation
WBTK	\$12555.00	\$35.00	\$11.00	\$1.20	\$4.00	Transportation
ALCB	\$12311.00	\$34.00	\$8.00	\$0.00	\$1.20	Retail
CSCO	\$1200.00	\$35.00	\$8.00	\$0.23	\$12.00	Technology
DYTY	\$66534.00	\$34.00	\$25.00	\$20.00	\$1.40	Retail
GUIG	\$10553.00	\$45.00	\$23.00	\$0.85	\$4.00	Technology
MSFT	\$23000.00	\$57.00	\$12.00	\$0.80	\$16.00	Technology
OJSP	\$9533.00	\$50.00	\$15.00	\$1.20	\$4.00	Retail
ORCL	\$64043.00	\$53.00	\$23.00	\$1.20	\$21.00	Technology
ULTM	\$3334.00	\$18.00	\$10.00	\$0.00	\$12.00	Retail
VICA	\$3432.00	\$36.00	\$2.00	\$0.00	\$30.00	Retail

6. レポートを `temp_360.rdf` という名前で保存し、ライブ・プレビューアをクローズします。

## 3.7 テンプレートのデフォルト属性の上書き

この項のステップでは、テンプレートのデフォルト属性を上書きします。グループ上スタイルの設定の一部を上書きします。



1. この作業に関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
テンプレート, 上書き
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
テンプレートの属性について

**ヒント:** プロパティ・パレットを開き、 をクリックして選択したプロパティを継承された値に戻すか、または  をクリックして値をローカライズします。

上書き属性プロパティでは、テンプレートのデフォルト属性の値が継承されます。プロパティでデフォルト属性の値が継承されると、プロパティ・パレットのプロパティのとなりにあるアイコンが矢印になります。

**継承された値を持つ上書き属性プロパティ:**

 Between Sibling Frames (Horizontal) | 0

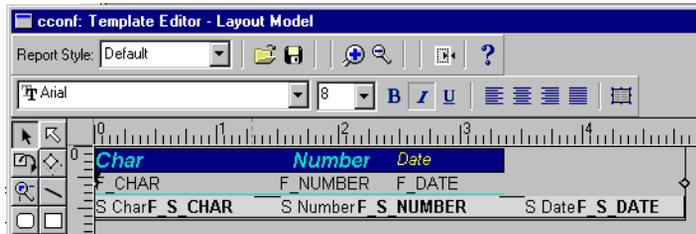
プロパティがローカライズされると、プロパティ・パレットのプロパティのとなりにあるアイコンが赤い十字の付いた矢印になります。

**ローカライズされた値を持つ上書き属性プロパティ:**

 Between Sibling Frames (Horizontal) | .1

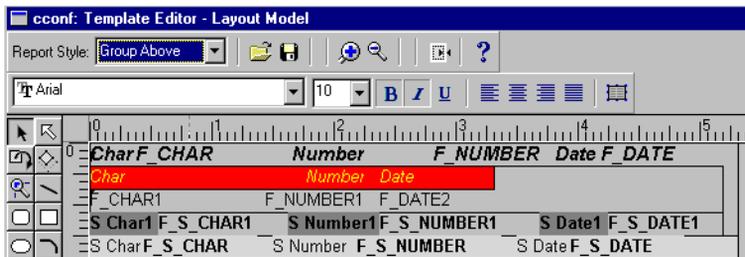
テンプレートのデフォルト属性を継承する詳細は、[3.6.2 項「プロパティ値の継承とローカライズ」](#)を参照してください。

1. 「CCONF」テンプレートのレイアウト・モデル表示を表示します。テンプレート・レイアウトは、次の図と同じようになります。同じようにならない場合は、レイアウトがマージン・モードである可能性があります。



必要に応じて、 をクリックしてテンプレートの本体に切り替えます。ツールバーで、レポート・スタイルがデフォルトであることに注意してください。このレイアウトによって、テンプレートのデフォルト属性が定義されます。

- 「レポート・スタイル」ドロップダウン・リストから「グループ上」をクリックします。レイアウトは次の図と同じようになります。



- オブジェクト・ナビゲータでまだ拡張されていない場合は、「レイアウト・モデル」、「セクション」、「本体」、「上書き」および「グループ上」ノードを拡張します。

2つのセクション（レベル1およびレベル2）が使用可能であることに注意してください。このセクション・ノードを使用して、グループ・レベルでデフォルト設定を上書きできます。

ヒント：必要に応じて、 ツールを使用してレベルを追加できます。ただし、この例では、この2つのセクション・レベルが維持されます。

- 「セクション（レベル1）」ノードおよび「セクション（レベル2）」ノードを拡張します。このノードでは、指定したグループの属性（ヘッダー、ラベルおよびフィールド）を変更します。
- 「セクション（レベル1）」ノードをダブルクリックします。

6. 「間隔」ノードのプロパティ・パレットで、次のプロパティを設定します。

表 3-10 「間隔」ノードのオブジェクトに対するプロパティの変更

プロパティ	設定
フレーム間 (水平)	0.4
フレーム間 (垂直)	0.4

**ヒント:** レイアウト・モデル表示の変更の確認は、複数のセクションを処理している場合には難しくなります。レイアウト・モデル表示のオブジェクトの一部は、他のオブジェクトの後ろに隠れている場合があります。テンプレートに対する変更を確認する最適な方法は、テンプレートをレポートに適用してライブ・プレビューでレポートをプレビューすることです。ただし、この例では、まず必要な変更をすべて行い、後のステップで変更を確認します。

7. 「セクション (レベル 1)」ノードで次のオブジェクトのプロパティを変更する表を使用します。

**ヒント:** プロパティ・パレットを使用して、この変更を実行できます。ツールバーまたはツール・パレットを使用して、オブジェクトのフォントやカラーなど、一部のプロパティをレイアウト・モデル表示から直接変更することもできます。

「フレーム」ノードで、次のように設定します。

表 3-11 「セクション (レベル 1)・フレーム」ノードのオブジェクトに対するプロパティの変更

オブジェクト	「プロパティ・パレット」 ノード	プロパティ名	設定:
ヘッダー・フ レーム	スタイル	塗りパターン	透明
フィールド・ フレーム	スタイル	エッジ・パターン	透明

8. 「セクション (レベル 2)」ノードをダブルクリックします。  
9. 「間隔」ノードのプロパティ・パレットで、次のプロパティを設定します。

プロパティ	設定
同等枠間 (水平)	0.1
同等枠間 (垂直)	0.1

10. 「セクション (レベル 2)」ノードでオブジェクトのプロパティを変更する表を使用します。「フレーム」ノードで、次のように設定します。

表 3-12 「セクション (レベル 2)・フレーム」ノードのオブジェクトに対するプロパティの変更

オブジェクト	「プロパティ・パレット」ノード	プロパティ名	設定:
ヘッダー・フレーム	スタイル	フォアグラウンド・カラー	ツール・パレットの別のカラー、またはプロパティ・パレットで r50g25b50 を指定します。
フィールド・フレーム	スタイル	フォアグラウンド・カラー	ツール・パレットの別のカラー、またはプロパティ・パレットで r88g100b75 を指定します。
		エッジ・パターン	透明

「フィールド・ラベル/ヘッダー」ノードで、次のように設定します。:

表 3-13 「セクション (レベル 2)・フィールド・ラベル/ヘッダー」ノードのオブジェクトに対するプロパティの変更

オブジェクト	「プロパティ・パレット」ノード	プロパティ名	設定:
文字	ラベル	フォント・スタイル	ボールド イタリック
		フォント・サイズ	8
		テキスト・カラー	ツール・パレットの別のカラー、またはプロパティ・パレットで r88g100b75 を指定します。
番号	ラベル	フォント・スタイル	ボールド イタリック
		フォント・サイズ	8
		テキストのカラー	ツール・パレットの別のカラー、またはプロパティ・パレットで r88g100b75 を指定します。

「フィールド」ノードで、次のように設定します。

表 3-14 「セクション (レベル 2)・フィールド」ノードのオブジェクトに対するプロパティの変更

オブジェクト	「プロパティ・パレット」ノード	プロパティ名	設定:
文字	フィールド	フォント・サイズ	8
		テキスト・カラー	ツール・パレットの別のカラー、またはプロパティ・パレットで r0g75b0 を指定します。
番号	フィールド	フォント・サイズ	8
		テキストのカラー	ツール・パレットの別のカラー、またはプロパティ・パレットで r0g75b0 を指定します。

11. テンプレートを `cconf.tdf` として保存し、テンプレートのレイアウト・モデル表示をクローズします。この変更は、後のステップでレポートに適用します。
12. (オプション) テンプレートを別の名前バックアップとして保存して、`cconf.tdf` を再び開きます。

## 3.8 追加のレイアウトの作成

この項のステップでは、レイアウト・モデル表示を使用して追加のレイアウトを作成します。レポートのメイン・セクションにグループ上スタイルを追加します。最後に、テンプレートに対する変更をレポートに適用し、結果をライブ・プレビューアでプレビューします。

1. レポートのレイアウト・モデル表示 (最後に `temp_360.rdf` として保存されたもの) を表示します。
2. レポートのメイン・セクションにいることを確認します。



3.  をクリックして、追加のレイアウト領域を作成します。
4. ルーラーをガイドとして使用し、2 インチのマーカーで四角形をクリックおよびドラッグして、レイアウトの領域を定義します。レポート・ウィザードが表示されます。

**ヒント:** 論理ページの幅をクリックおよびドラッグして、選択したすべてのフィールドを挿入するのに十分な空間があることを確認します。論理ページは、レイアウト・モデ

ル表示の黒い線で区切られます。レイアウトを論理ページより大きくした場合は、レポートの実行時にエラーが発生します。

5. 「スタイル」ページで「グループ上」をクリックし、「タイトル」フィールドでレポート「Stock Summary by Industry」の名前を入力します。
6. 「次へ」をクリックします。
7. 「グループ」ページで、次のグループと方向を選択します。
  - 「G\_category」をクリックしてから、「下」をクリックします。
  - 「G\_ind\_summary」をクリックしてから、「右」をクリックします。
  - 「G\_symbol」をクリックしてから、「下」をクリックします。
8. 「次へ」をクリックします。
9. 「フィールド」ページで、 をクリックしてすべてのフィールドを「表示フィールド」リストに移動します。
10. 「表示フィールド」リストの「category1」をクリックしてから、 をクリックします。「表示フィールド」リストに次のフィールドが含まれている必要があります。
  - category
  - SUM\_h\_sales
  - AVG\_h\_high\_365
  - AVG\_h\_low\_365
  - AVG\_h\_div
  - AVG\_h\_p\_e
  - symbol
  - sales
  - high\_365
  - low\_365
  - div
  - p\_e
11. 「次へ」をクリックします。
12. 「ラベル」ページで、表に示される次の列を変更します。

表 3-15 ラベルおよび幅

列	ラベル	幅
category	カテゴリ :	10

表 3-15 ラベルおよび幅

列	ラベル	幅
SUM_h_sales	売上合計	6
AVG_h_high_365	最高株価の平均	6
AVG_h_low_365	最低株価の平均	6
AVG_h_div	配当の平均	6
AVG_h_p_e	P/E の平均	6

13. 「次へ」をクリックします。
14. 「テンプレート」ページで事前定義されたテンプレートをクリックしてから、「Custom Confidential」をクリックします。
15. 「完了」をクリックします。  
 ヒント: 定義したデフォルト・レイアウト領域が小さすぎる場合は、レイアウトをページの境界線まで拡張するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。「Yes」をクリックします。
16. オブジェクト・ナビゲータで、「検索」フィールドに `M_G_CATEGORY_GRPFR` と入力してこのオブジェクトを検索します。検索は文字を入力すると同時に実行されるため、名前全体を入力する前にオブジェクトが見つかる可能性があります。
17. 「ツール」 「プロパティ・パレット」を選択します。
18. 「一般レイアウト」ノードで、前で改ページ・プロパティを「Yes」に設定します。
19. レポートをライブ・プレビューに表示するため、 をクリックします。
20.  をクリックして、追加のレイアウトを表示します。レポートは次の図と同じようになります。レポートの右上隅のロゴが赤に変わったことに注意してください。

21. レポートを temp\_380.rdf という名前で保存します。



Report run on: August 13, 1999 10:30 AM

### Summary by Industry

#### Category: Retail

	Total Sales	95144	Symbol	Sales	High Stock	Low Stock	Dividend	P/E
Avg High Stock	34.4	ALCB	12311	34	8	0	1.2	
Avg Low Stock	12	CSCO	1200	35	8	.23	12	
Avg Dividend	4.24	DYTY	66534	34	25	20	1.4	
Avg P/E	9.72	GUIG	10553	45	23	.85	4	
		MSFT	23000	57	12	.8	16	
		OJSP	9533	50	15	1.2	4	
		ORCL	64043	53	23	1.2	21	
		ULTM	3334	18	10	0	12	
		VICA	3432	36	2	0	30	
		VLVO	4500	20	9	.45	40	
		WBTK	12555	35	11	1.2	4	

#### Category: Technology

	Total Sales	98796	Symbol	Sales	High Stock	Low Stock	Dividend	P/E
Avg High Stock	47.5	ALCB	12311	34	8	0	1.2	
Avg Low Stock	16.5	CSCO	1200	35	8	.23	12	
Avg Dividend	.77	DYTY	66534	34	25	20	1.4	
Avg P/E	13.25	GUIG	10553	45	23	.85	4	
		MSFT	23000	57	12	.8	16	
		OJSP	9533	50	15	1.2	4	

## 3.9 レポートの外観の拡張

この項のステップは、オプションです。グループ上レポートの外観を拡張します。数値を通貨として書式設定します。

**ヒント:** ライブ・プレビューアで手動の調整を行った後でレポート・ウィザードに戻る場合、ウィザードで「適用」または「完了」をクリックすると、行った変更が一部消失し、レイアウトはウィザードによって定義されたデフォルトの状態に戻ります。

1. ライブ・プレビューアに表示されたレポートを使用して、「売上合計」ヘッダーのとなりにある列をクリックします。
2.  をクリックします。
3.  を 1 回クリックします。
4. 次のステップ 1 ~ 3 を繰り返します。

- 最高株価平均のとなりの列
- 最低株価平均のとなりの列
- 配当平均のとなりの列
- P/E 平均のとなりの列
- 売上の列
- 最高株価の下の列
- 最低株価の下の列
- 配当の下の列
- P/E の下の列

レポートは次の図と同じようになります。

Report run on: August 13, 1999 10:30 AM

### Summary by Industry

#### Category: Retail

Total Sales	\$95144.0	Symbol	Sales	High Stock	Low Stock	Dividend	P/E
Avg High Stock	\$34.4	ALCB	\$12311.0	\$34.0	\$8.0	\$0.0	\$1.2
Avg Low Stock	\$12.0	CSCO	\$1200.0	\$35.0	\$8.0	\$0.2	\$12.0
Avg Dividend	\$4.2	DVTY	\$66534.0	\$34.0	\$25.0	\$20.0	\$1.4
Avg P/E	\$9.7	GUIG	\$10553.0	\$45.0	\$23.0	\$0.9	\$4.0
		MSFT	\$23000.0	\$57.0	\$12.0	\$0.8	\$16.0
		OJSP	\$9533.0	\$50.0	\$15.0	\$1.2	\$4.0
		ORCL	\$64043.0	\$53.0	\$23.0	\$1.2	\$21.0
		ULTM	\$3334.0	\$18.0	\$10.0	\$0.0	\$12.0
		VICA	\$3432.0	\$36.0	\$2.0	\$0.0	\$30.0
		VLVO	\$4500.0	\$20.0	\$9.0	\$0.5	\$40.0
		WBTK	\$12555.0	\$35.0	\$11.0	\$1.2	\$4.0

#### Category: Technology

Total Sales	\$98796.0	Symbol	Sales	High Stock	Low Stock	Dividend	P/E
Avg High Stock	\$47.5	ALCB	\$12311.0	\$34.0	\$8.0	\$0.0	\$1.2
Avg Low Stock	\$16.5	CSCO	\$1200.0	\$35.0	\$8.0	\$0.2	\$12.0
Avg Dividend	\$0.8	DVTY	\$66534.0	\$34.0	\$25.0	\$20.0	\$1.4
Avg P/E	\$13.3	GUIG	\$10553.0	\$45.0	\$23.0	\$0.9	\$4.0
		MSFT	\$23000.0	\$57.0	\$12.0	\$0.8	\$16.0
		OJSP	\$9533.0	\$50.0	\$15.0	\$1.2	\$4.0

5. レポートを temp\_390.rdf という名前で保存します。

## 3.10 まとめ

完了しました。テンプレート・サンプル・レポートが完了しました。この章で学習した内容は次のとおりです。

- データ・リンクを持つ複数問合せのデータ・モデルの作成
- 事前定義されたテンプレートを使用してレポートを作成し、ライブ・プレビューアでレポートを変更
- レイアウト・モデル表示を使用して、新しいテンプレートを作成
- レポート・ウィザードへのテンプレートの追加
- レポートへのテンプレートの適用
- テンプレートのグローバル・デフォルト属性の変更
- テンプレートのデフォルト属性を上書き

テンプレートの詳細は、オンライン・ヘルプを参照してください。



1. このトピックに関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
  2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
テンプレート, ~について
  3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
テンプレートについて
-

---

## Web 用のレポートを作成

この章で説明するレポートは、Web に関する Report Builder の機能について学習することを意図しています。

このレポートを作成するには、データ・モデル作成のときに、レポート・ウィザードを使用してください。次に、HTML レポートを作成するときは、Web ウィザードを使用します。レイアウト・モデル表示およびライブ・プレビューアで、かなりの改良を手動で加えます。とりわけ、「Web の設定」プロパティを使用します。チャートを作成するときはチャート・ウィザードを使用し、その後でチャート・ハイパーリンクを追加するために、Web ウィザードに戻ります。

Web レポートを表示するには、HTML スタイル・シートおよび Javascript をサポートする Netscape 3.x 以上または Internet Explorer 3.x 以上などの Web ブラウザが必要です。

この例では、次のものを作成します。

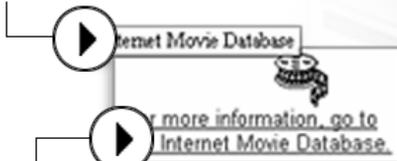
- ビデオ販売会社からの販売および収益結果を示す追加の HTML ページ、Web リンクおよび Javascript を含む詳細な Web レポート
- チャート・ハイパーリンクのあるチャートを含む 1 ページのエグゼクティブ・サマリー

次の図では、Web レポートに追加する様々な Web 機能を説明します。表 4-1「この Web サンプル・レポートで説明する機能」では、これらの Web 機能を使用してレポートを拡張するときの処理について説明します。

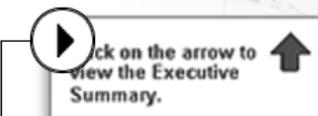
Sales Results にリンクしたブックマークを追加する。4.4 を参照。



オブジェクト上にマウスをドラッグしたときに表示されるポップアップ・テキストを追加する。4.7 を参照。



外部 Web ページを宛先としたハイパーリンクを追加する。4.6 を参照。

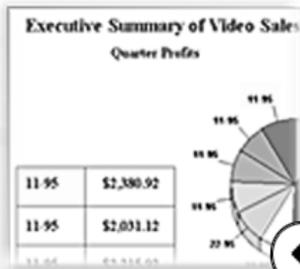


オブジェクト上にマウスをドラッグしたときに、オブジェクトを動画化するロールオーバーを追加する。4.10 を参照。

ヒント行のテキストを表示するロールオーバーを追加する。4.7 を参照。



全ページにヘッダ・タイトルおよびグラフィックを表示する HTML ファイルを追加する。4.3 を参照。



Sales Results 詳細へのハイパーリンクのあるチャートを挿入する。4.9 を参照。

ハイパーリンクの宛先としての Sales Results を設定する。4.6 を参照。

Sales Results			
Quarter 11-95			
State AZ			
Product Category	Total Sales	Total Cost	Profit
Action	\$25.3K	\$12.0K	\$13.3K
Children	\$48.0K	\$17.0K	\$31.0K
Comedy	\$38.0K	\$13.0K	\$25.0K
Drama	\$30.0K	\$12.0K	\$18.0K
Horror	\$23.0K	\$9.0K	\$14.0K
Mystery/Contry	\$33.0K	\$11.0K	\$22.0K
Sci-Fi	\$28.0K	\$9.0K	\$19.0K
Thriller	\$38.0K	\$13.0K	\$25.0K
<b>Total</b>	<b>\$248.0K</b>	<b>\$128.0K</b>	<b>\$120.0K</b>

Sales Results を宛先とするハイパーリンクを追加する。4.6 を参照。



Javascript を使用したナビゲーション・コントロールを追加する。4.10 を参照。



このレポートを作成するには、ORACLE\_HOME¥TOOLS¥DOC60¥US¥RBBR60 ディレクトリに格納された次のファイルが必要です。

- rbweb\_hdr.htm
- rbweb\_ps.htm
- 1.gif
- 3.gif
- chalk.jpg
- imdb.bmp
- drama.gif
- page、first、back または next をファイル名として含んだ 14 の .GIF 形式ファイル (例: page-e.gif )

web.rdf ファイルには、この章のタスク終了後に作成するレポートが含まれます。作業の実行中にこのファイルを参照してください。このファイルは、ORACLE\_HOME¥TOOLS¥DOC60¥US¥RBBR60 ディレクトリにあります。

**表 4-1 この Web サンプル・レポートで説明する機能**

機能	項
レポート・ウィザードを使用して、単一の問合せおよびデフォルト・レイアウトを作成します。	<a href="#">4.1 項「データ・モデルの作成」</a>
数値書式マスクの追加およびフェッチ列数変更によりレポート外観を変更します。	<a href="#">4.2 項「レポート出力の外観の変更」</a>
他の HTML ファイルを追加することにより、特別効果を導入して、すべてのページにスタイルシート・オブジェクトを表示します。	<a href="#">4.3 項「HTML レポート・ヘッダーのインクルード」</a>
レポート値へブックマークを追加して、レポート内のナビゲーションを容易にします。	<a href="#">4.4 項「レポートの一部へのブックマーク追加」</a>
ページ間に自動的に表示される灰色のページ・セパレータ線を排除します。	<a href="#">4.5 項「ページ・セパレータの変更」</a>
レポートにターゲットを追加します。その後、レポート内および外部 Web サイトの宛先へのハイパーリンクを追加します。	<a href="#">4.6 項「ハイパーリンクの宛先およびハイパーリンクの追加」</a>
ユーザーのカーソルがレポートのイメージまたはハイパーリンク上を移動したときに、ポップアップおよびロールオーバーを表示します。	<a href="#">4.7 項「HTML 出力でのポップアップおよびロールオーバーの表示」</a>
Web 出力項目の条件付き表示 / 非表示	<a href="#">4.8 項「PL/SQL を使用した Web 出力オブジェクトの条件付き表示 / 非表示」</a>

表 4-1 この Web サンプル・レポートで説明する機能

機能	項
チャートを含んだエグゼクティブ・サマリー・セクションを作成します。	4.9 項「 <a href="#">チャートのあるサマリー・セクションの作成</a> 」
Javascript を使用した特別な効果の作成	4.10 項「 <a href="#">Javascript の追加</a> 」
Oracle Reports Server を使用してレポートを実行します。	4.11 項「 <a href="#">Reports Server からの Web レポート実行</a> 」

まず、Report Builder をオープンします。「ようこそ」ダイアログ・ボックスが表示されたら、「[レポートウィザードを使う](#)」をクリックし、「OK」をクリックします。このダイアログ・ボックスが現れないときは、「[ファイル](#)」 「[新規作成](#)」 「[レポート](#)」を選択します。「[レポートウィザードを使う](#)」をクリックし、「OK」をクリックします。

レポートを作成する前のある時点で、データベースにログインする必要が生じます。データベースに接続するには、「[ファイル](#)」 「[接続](#)」を選択します。該当するログオン情報を入力します。詳細は、1.3 項「[起動前のデータベース・アクセス権の取得](#)」を参照してください。

## 4.1 データ・モデルの作成

この項のステップは、単一の問合せのあるデータ・モデルおよびデフォルト・レイアウトのあるレポートを作成するレポート・ウィザードの使用に役立ちます。



1. このトピックに関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「[Report Builder ヘルプ・トピック](#)」を選択します。
2. 「[索引](#)」ページで、次のように入力します。  
レポート, 作成
3. 「[表示](#)」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
[標準レポートの作成](#)

1. レポート・ウィザードの「ようこそ」ページが表示されたら、「[次へ](#)」ボタンをクリックします。
2. 「[スタイル](#)」ページで「[グループ別マトリックス](#)」をクリックします。
3. 「[次へ](#)」をクリックします。
4. 「[タイプ](#)」ページが表示されたら、「[SQL 文](#)」をクリックし、「[次へ](#)」をクリックします。「[タイプ](#)」ページは、Report Builder を Oracle Express とともに実行するよう構成した場合のみ表示されます。
5. 「[データ](#)」ページで、「[Query Builder](#)」をクリックします。

6. 「データ表選択」ダイアログ・ボックスで、「VIDEO\_CATEGORY\_BY\_QTR」をクリックします。



1. このトピックに関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」  
「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
問合せ, 作成
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
ローカルの問合せの作成: レポート・ウィザード

7. 「インクルード」をクリックします。

8. 「クローズ」をクリックします。

9.  をクリックします。

ヒント: この結果、すべての列チェックボックスがチェックされます。



1. このトピックに関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」  
「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
Query Builder, 条件
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
問合せに条件を追加

10. 左側ペインの「条件」フィールドをクリックして、カーソルをフィールド中表示します。

11. 「問合せ」ウィンドウで、表中の「SALES REGION」列をクリックします。

12. 「条件」フィールドで、「SALES REGION」の後ろにカーソルを置きます。

13. ='West' と入力します。

14. ツールバーで  をクリックします。

ヒント: 「条件」フィールドには、SALES\_REGION='West' と表示されます。

15. 「OK」をクリックします。

16. 「次へ」をクリックします。

17. 「グループ」ページでは、「QUARTER」 の順にクリックして、「マトリックス・グループ・フィールド」リストに移動します。

18. ステップ 17 を繰り返して、「State」フィールドを「マトリックス・グループ・フィールド」リストに移動します。

19. 「次へ」をクリックします。

20. 「行」ページで、「PRODUCT\_CATEGORY」の順でクリックして、このフィールドを「マトリックス行フィールド」リストに移動します。
21. 「次へ」をクリックします。
22. 「列」ページで、「CITY」の順でクリックして、このフィールドを「マトリックス列フィールド」リストに移動します。
23. 「次へ」をクリックします。
24. 「セル」ページで、「TOTAL\_COST」の順でクリックして、このフィールドを「マトリックス・セル・フィールド」リストに移動します。
25. ステップ 24 を繰り返して、次のフィールドを「マトリックス・セル・フィールド」リストに移動します。
  - TOTAL\_SALES
  - TOTAL\_PROFIT
26. 「次へ」をクリックします。
27. 「合計」ページで、「TOTAL\_COST」の「合計」の順でクリックして、「TOTAL\_COST」フィールドの合計を「マトリックス合計」リストに移動します。
28. ステップ 27 を繰り返して、次フィールドの合計を「マトリックス合計」リストに移動します。
  - TOTAL\_SALES
  - TOTAL\_PROFIT
29. 「次へ」をクリックします。
30. 「ラベル」ページで、幅を次表で表示されるように変更します。

**表 4-2 ラベルおよび幅**

列	幅
STATE	2
TOTAL SALES	6
TOTAL COST	6
TOTAL PROFIT	6
全ての合計列	6

31. 「次へ」をクリックします。
32. 「テンプレート」ページの事前定義テンプレートで、「社用 1」テンプレートをクリックします。

33. 「完了」をクリックします。
34. 「ファイル」 「名前を付けて保存」を選択します。選択したディレクトリにレポートを保存して、レポートを web\_41.rdf と命名します。  
 ヒント: レポートの設計段階では、レポートを異なるファイル名で頻繁に保存することをお勧めします。そうすれば、エラーが生じたり、変更した内容に問題がある場合でも、前に保存したファイルに簡単に戻ることができるので、その時点からの修正を加えるだけで済みます。

## 4.2 レポート出力の外観の変更

この項のステップは、書式マスクの使用および問合せにより戻されたデータに対する最大列の変更によって、データの外観を変更するときに役立ちます。

### 4.2.1 ライブ・プレビューアのレイアウト変更



1. このトピックに関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
オブジェクト, 削除
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
オブジェクトの削除

1. ライブ・プレビューアで、選択するときには、そのヘッダでイメージをクリックして、「削除」を押します。
2. 「Report run on:」というラベルの日付およびボイラプレート・テキスト・オブジェクトを選択します。各オブジェクトをシフトクリックすることにより、オブジェクトを選択することができます。
3. 「削除」を押します。
4.  をクリックして、レイアウト・モデル表示へジャンプします。
5. オブジェクト・ナビゲータで、「検索」フィールドにカーソルを置いて次のように入力します。  
「F\_SumTOTAL\_SALESPerPRODUCT\_CATEGORY」
6. 「削除」を押します。
7. これらのフィールドを削除するには、ステップ 5 ~ 6 を繰り返します。
  - F\_SumTOTAL\_COSTPerPRODUCT\_CATEGORY
  - F\_SumTOTAL\_PROFITPerPRODUCT\_CATEGORY
  - F\_SumTOTAL\_SALESPerSTATE

- F\_SumTOTAL\_COSTPerSTATE
  - F\_SumTOTAL\_PROFITPerSTATE
8.  をクリックして、ライブ・プレビューアへジャンプします。
  9. ライブ・プレビューアで、 をクリックして、レポートの最終ページへジャンプしてください。
  10. 次のフィールドおよびそのラベルを削除します。
    - F\_SumTOTAL\_SALESPerReport
    - F\_SumTOTAL\_COSTPerReport
    - F\_SumTOTAL\_PROFITPerReport
    - ページ下部のページ番号

ヒント：オブジェクト名は、オブジェクトを一度クリックして、その後「ツール」「プロパティ・パレット」を選択して「名前」プロパティを表示することにより、確認できます。
  11. レポートは、web\_412.rdf という名前を付けて保存します。出力すると、ライブ・プレビューアで次の図に似た形で表示される必要があります。

Quarter 11-95			
State AZ			
CityPhoenix			
Product Category	Total Sales	Total Cost	Total Profit
Action	520.95	212	408.95
Childrens	489.51	172.67	316.84
Comedy	385.49	138.77	246.72
Drama	292.99	122.2	170.78
Horror	213.2	76.57	136.63
Romantic Comedy	689.86	231.85	458.01
Sci-Fi	210.34	86.66	123.67
Thriller	566.46	198.24	368.22
	<b>3468.8</b>	<b>1238.96</b>	<b>2229.82</b>

## 4.2.2 書式マスクの追加



1. このトピックに関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
書式マスク, 数値オブジェクトへの適用
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
数値オブジェクトへの書式マスクの適用

1. ライブ・プレビューアで、データの F\_TOTAL\_SALES 列（データの「TOTAL SALES」 タイトルの下に位置する）をクリックします。
2.  をクリックして、各値にドル記号を付けます。
3.  を 2 回クリックして、小数部を 2 桁追加します。
4. 次の各オブジェクトをシフトクリックすることにより、すべてのオブジェクトを選択します。その後、ステップ 2 および 3 を実行して、書式マスクを設定します。
  - データの「Total Cost」列
  - データの「Total Profit」列
  - F\_SumTOTAL\_SALESPerCITY（「Total Sales」列の最後のフィールド）
  - F\_SumTOTAL\_COSTPerCITY（「Total Cost」列の最後のフィールド）
  - F\_SumTOTAL\_PROFITPerCITY（「Total Profit」列の最後のフィールド）
5.  をクリックして、レポートの最終ページへジャンプします。
6. 次の各オブジェクトをシフトクリックすることにより、すべてのオブジェクトを選択します。その後、ステップ 2 および 3 を実行して、書式マスクを設定します。
  - F\_SumTOTAL\_SALESPerQUARTER
  - F\_SumTOTAL\_COSTPerQUARTER
  - F\_SumTOTAL\_PROFITPerQUARTER

## 4.2.3 問合せにより戻される最大行数の変更

大きなレポート（多数のレコードを取り出すレポート）を設計するときには、設計中およびプロジェクトのテストフェーズで取り出すレコード数を削減すると便利です。

1. ライブ・プレビューアで、 をクリックして、データ・モデル表示にアクセスします。
2. データ・モデル表示では、「Q\_1」をクリックします。
3. 「ツール」 「プロパティ・パレット」を選択します。
4. 「プロパティ・パレット」で、「問合せ」ノードの、「フェッチする行の最大数」プロパティを 100 に設定します。

**ヒント:** このプロパティは、表示する行数に応じて変更できます。ただし、取り出す行が多ければ多いほど、ブラウザにより HTML 出力するときに時間がかかります。レポートの設計中にデータの全行を表示する場合には、このプロパティの値をリセットしてブランクにします。

5. [Return] キーまたは [Enter] キーを押します。
6. レポートを、web\_42.rdf という名前を付けて保存します。

## 4.3 HTML レポート・ヘッダーのインクルード

この項のステップは、HTML ファイルをレポートに追加するときに役立ちます。この追加では、HTML 出力にタイトルとグラフィックが追加されます。HTML 出力のすべてのページに、バックグラウンドも追加されます。HTML レポート・ヘッダー・ページには、HTML 出力の <HEAD> タグ情報が含まれます。

1. オブジェクト・ナビゲータで、レポートの隣の  をクリックします。
2. 「ツール」 「プロパティ・パレット」を選択します。
3. プロパティ・パレットでは、「レポート・エスケープ」ノードの、「レポート前型」プロパティを「ファイル」に設定します。
4. 「レポート前置」プロパティをユーザーのディレクトリ %rbweb\_hdr.htm に設定します。

**ヒント:** このファイルの位置を指定するときは、「参照 (...)」ボタンをクリックできません。このファイルは、ORACLE\_HOME%TOOLS%DOC60%US%RBBR60 ディレクトリに格納されている必要があります。



1. このトピックに関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
HTML 出力、ドキュメント・ヘッダーの作成
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
HTML ドキュメント・ヘッダーの作成

5. **オプション:** この時点で、レイアウト・モデル表示に戻り、レイアウトのテキストおよびフィールド・オブジェクトのカラーを変更することができます。これは、

各オブジェクトをクリックした後、 (あるいは、その上下にある2つのアイコン) をクリックし、パレットからカラーを選択することにより、実行できます。

6. オブジェクト・ナビゲータで、レポートの隣の  をクリックします。
7. レポート出力を、web\_43.rdf という名前を付けて保存します。
8. 「ファイル」「ファイルに出力」「HTML スタイル・シート」を選択することにより、HTML 出力を生成します。プロンプトが表示されたら、レポート出力は、web\_43.htm という名前を付けて保存します。
9. web\_43.htm を Web ブラウザでオープンします。「21st Century Video」というタイトルおよびグラフィックが、レポートの開始時に表示されることを確認します。

**ヒント:** この時点で、レイアウトがヘッダの一部にオーバーレイしている場合があります。これは、後のステップで解決します。「レポート・エスケープ」の下で他のプロパティを使用することにより、別の HTML ファイルをレポートに追加できる点についても注意してください。

HTML 出力は、次の図のように表示される必要があります。



## 21st Century Video

Quarter 11-95

State AZ

City Phoenix			
Product Category	Total Sales	Total Cost	Total Profit
Action	\$620.95	\$212.00	\$408.95
Childrens	\$489.51	\$172.67	\$316.84
Comedy	\$385.49	\$138.77	\$246.72
Drama	\$292.99	\$122.20	\$170.78
Horror	\$213.20	\$76.57	\$136.63
Romantic Comedy	\$689.86	\$231.85	\$458.01
Sci-Fi	\$210.34	\$86.66	\$123.67
Thriller	\$566.46	\$198.24	\$368.22
	<b>\$3468.80</b>	<b>\$1238.96</b>	<b>\$2229.82</b>

## 4.4 レポートの一部へのブックマーク追加

この項のステップは、レポートにブックマークを追加して、HTML 出力を生成するときに役立ちます。

1. Report Builder にいない場合には、Web ブラウザから Report Builder へ移動します。

2. ライブ・プレビューアで、「ツール」 「Web ウィザード」を選択します。
3. Web ウィザードの「ようこそ」のページが表示されたら、「次へ」をクリックしてください。
4. ブックマークのページで、「QUARTER」および「STATE」列をそれぞれ選択して  をクリックして、ブックマーク・リストへ移動します。
5. 「次へ」をクリックします。
6. 「HTML ヘッダー / フッター」ページで、4.3 項「HTML レポート・ヘッダーのインクルード」のレポートに追加した HTML ヘッダー・ファイルを確認してください。「次へ」をクリックします。
7. 「完了」ページで、「すぐに HTML スタイル・シートに出力」をクリックします。「Web ブラウザに出力」チェックボックスをチェックしている場合には、追加したすべての HTML ファイルが表示されるわけではない点に注意してください。
8. 「完了」をクリックします。ファイル名およびディレクトリを選択するようプロンプトが表示されます。ファイルに web\_44.htm という名前を付けて保存します。
9. オブジェクト・ナビゲータで、レポートの隣の  をクリックします。
10. レポート出力に、web\_44.rdf という名前を付けて保存します。
11. web\_44.htm を Web ブラウザでオープンします。ブックマークの一部をクリックして、適切に動作するかチェックします。

HTML 出力は、次の図のように表示される必要があります。

- [11-95](#)
  - [11-95](#)
    - [AZ](#)
    - [CA](#)
    - [CO](#)
    - [WA](#)
  - [22-95](#)
    - [AZ](#)
    - [CA](#)
    - [CO](#)
    - [WA](#)
  - [33-95](#)
    - [AZ](#)
    - [CA](#)

Quarter 11-95			
State AZ			
Product Category	City Phoenix	Total Sales	Total Profit
Action		\$620.95	\$212.00
Childrens		\$489.51	\$172.67
Comedy		\$385.49	\$138.77
Drama		\$292.99	\$122.20
Horror		\$213.20	\$76.57
Romantic Comedy		\$689.86	\$231.85
Sci-Fi		\$210.34	\$86.66
Thriller		\$566.46	\$198.24
		<b>\$3468.80</b>	<b>\$1238.96</b>
			<b>\$2229.82</b>

## 4.5 ページ・セパレータの変更

HTML 出力をブラウザで表示している間、出力の「ページ」は、灰色の線で区切られています。この項のステップでは、ページ・セパレータを削除する方法について説明します。

1. オブジェクト・ナビゲータで、レポートの隣の  をクリックします。
2. 「ツール」 「プロパティ・パレット」を選択します。
3. 「プロパティ・パレット」で、「レポート・エスケープ」ノードの、「ページ後型」プロパティを削除します。



1. このトピックに関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
「ページ後型」
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
「ページ後型」

4. オブジェクト・ナビゲータで、レポートの隣の  をクリックします。
5. レポート出力を、web\_45.rdf という名前を付けて保存します。
6. 「ファイル」 「ファイルに出力」 「HTML スタイル・シート」を選択します。
7. プロンプトが表示されたら、HTML 出力を、web\_45.htm という名前を付けて保存します。
8. Web ブラウザで、web\_45.htm をオープンして、ページ間にページ・セパレータが表示されていないことを確認します。web\_45.htm と web\_44.htm とを比較できます。

## 4.6 ハイパーリンクの宛先およびハイパーリンクの追加

HTML 出力で、テキストまたはイメージをクリックして、外部 URL やレポート内の他の宛先など、他のハイパーリンクの宛先にアクセスできるように、ハイパーリンクを追加する場合があります。この項のステップでは、Web レポートへのターゲットの追加、および外部ハイパーリンク宛先同様にそのターゲットへもリンクするハイパーリンクの追加方法について説明します。

### 4.6.1 ハイパーリンクの宛先追加

1. レイアウト・モデル表示で、「編集」 「すべて選択」を選択して、すべてのオブジェクトを選択し、全選択を 0.5 インチ下へ移動させます。

**ヒント:** マウスを使用してドラッグする他に、矢印キーを使用しても、選択したオブジェクトを移動できます。

2.  をクリックして、ボイラープレート・テキスト・オブジェクトを作成し、「Sales Results」と入力します。

**ヒント:** ツール・パレットのカラー変更ツールを使用して、このテキスト・オブジェクトの外観を変更できます。

---



1. このトピックに関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
  2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
テキスト、ボイラープレートの作成
  3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
テキストのボイラープレート・オブジェクトの作成
- 

3. 「ツール」 「プロパティ・パレット」を選択します。
  4. 「プロパティ・パレット」で、「一般情報」ノードの、「名前」プロパティを `Text_RptTop` に設定します。
  5. 「Web の設定」ノードで、「ハイパーリンクの宛先」プロパティを次のように設定します。  
`rpt_top`.
- 



1. このトピックに関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
  2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
ハイパーリンクの宛先、作成
  3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
ハイパーリンクの出力先を作成
- 

6. オブジェクト・ナビゲータで、レポートの隣の  をクリックします。
7. レポート出力を、`web_461.rdf` という名前を付けて保存します。このテキスト・オブジェクトは、後のステップで作成するハイパーリンクのターゲットです。

## 4.6.2 レポート内を宛先とするハイパーリンクの追加

1. レイアウト・モデル表示で、 をクリックします。4.6.1 項「ハイパーリンクの宛先追加」のステップ 2 および 3 を繰り返すことにより、レイアウトの下にボイラープレート・テキスト・オブジェクトを作成し、「Back to Top」と入力します。
2. 「一般情報」ノードの下で、「名前」プロパティを `text_totop` に設定します。
3. 「Web の設定」ノードの下で、「ハイパーリンクの宛先」プロパティを `#rpt_top` に設定します。
4. オブジェクト・ナビゲータで、レポートの隣の  をクリックします。
5. レポート出力を、`web_462.rdf` という名前を付けて保存します。

### 4.6.3 外部宛先へのハイパーリンクの追加

1. レイアウト・モデル表示で、「ファイル」「インポート」「イメージ」を選択します。
2. 「イメージ・インポート」ダイアログ・ボックスで、「ファイル」をクリックします。その後イメージ (imdb.bmp) のパスおよび名前を入力するか、「参照」をクリックして、ファイルを検索します。
3. 「OK」をクリックします。
4. レイアウト・モデル表示で、インポートしたイメージ・オブジェクトをクリックして、表および「Back to Top」というラベルのあるボイラープレート・テキスト・オブジェクトの下にドラッグします。
5. 「ツール」「プロパティ・パレット」を選択します。
6. 「プロパティ・パレット」で、「一般情報」ノードの、「名前」プロパティを IMDB\_BMP に設定します。
7.  をクリックして、表の下にボイラープレート・テキスト・オブジェクトを作成します。「詳細情報については、Internet Movie データベースへジャンプしてください。」と入力します。
8. 入力した後、 をクリックします。
9. 作成したボイラープレート・テキスト・オブジェクトをクリックします。
10.  をクリックします。
11. カラー・パレットで、青などの色をクリックします。

ヒント: テキストボックスのバックグラウンドに対してカラーを選択したり、テキストボックス境界線の線を削除したりすることもできます。
12. イメージ・オブジェクトおよび新たなボイラープレート・テキスト・オブジェクトをシフトクリックします。
13. 「ツール」「プロパティ・パレット」を選択します。

14. 「プロパティ・パレット」で、「Web の設定」ノードの、「ハイパーリンク」プロパティを <http://www.imdb.com> に設定します。



1. このトピックに関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
ハイパーリンク,作成
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
ハイパーリンクの作成

15. レイアウト・モデル表示で、「詳細情報については、Internet Movie データベースヘジャンプしてください。」というラベルのポイラープレート・テキスト・オブジェクトを選択します。

16. 「ツール」 「プロパティ・パレット」を選択します。

17. 「プロパティ・パレット」で、「一般情報」ノードの、「名前」プロパティを `IMDB_text` に設定します。

現在のレイアウトは、次の図のように表示される必要があります。

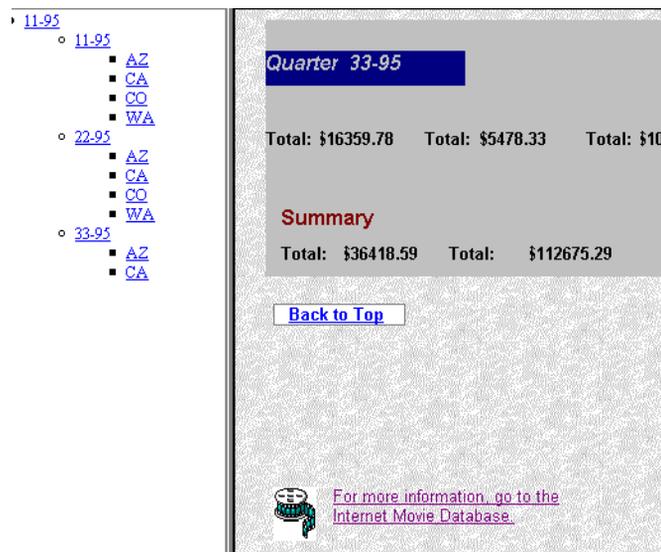
Sales Results			
Quarter	F_QUARTE		
State	F_S		
City	F_CITY		
Product Category	Total Cost	Total Sales	Total Profit
F_PRODUCT_CATEGOR	F_TOTAL_COS	F_TOTAL_SALE	F_TOTAL_PRO
	F_SumTOTAL	F_SumTOTAL	F_SumTOTAL
Total:	F_SumTOTAL	Total: F_SumTOTAL	Total: F_SumTOTAL
<a href="#">Back to Top</a>			
For more information, go to the Internet Movie Database			

18. オブジェクト・ナビゲータで、レポートの隣の をクリックします。

19. レポート出力を、 `web_463.rdf` という名前を付けて保存します。

20. 「ファイル」 「ファイルに出力」 「HTML スタイル・シート」を選択することにより、HTML 出力を生成します。
21. プロンプトが表示されたら、レポート出力を、web\_463.htm という名前を付けて保存します。
22. web\_463.htm を Web ブラウザでオープンして、新ハイパーリンクが適切に動作するか確認します。

HTML 出力は、次の図と同じように表示される必要があります。



## 4.7 HTML 出力でのポップアップおよびロールオーバーの表示

文字による説明を含んだポップアップやロールオーバーを追加することにより、ハイパーリンクを含むオブジェクトをさらに拡張することができます。この項のステップでは、HTML レポート内のオブジェクトの上へマウスをドラッグしたときに表示されるポップアップおよびロールオーバーのテキストを作成する方法を説明します。

## 4.7.1 イメージ・オブジェクトへのポップアップの追加



1. このトピックに関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
表示名
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
表示名

1. 「オブジェクト・ナビゲータ」で、「検索」フィールドにカーソルを置き、「IMDB\_BMP」と入力します。
2. 「ツール」 「プロパティ・パレット」を選択して、インポートしたイメージ・オブジェクトに対するプロパティ・パレットを表示します。
3. プロパティ・パレットの「Web の設定」ノードで、「ディスプレイ名 (HTML)」プロパティを「Internet Movie Database」に設定します。
4. オブジェクト・ナビゲータで、レポートの隣の をクリックします。
5. レポート出力を、web\_471.rdf という名前を付けて保存します。
6. 「ファイル」 「ファイルに出力」 「HTML スタイル・シート」を選択することにより、HTML 出力を生成します。
7. プロンプトが表示されたら、レポート出力を、web\_471.htm という名前を付けて保存します。
8. web\_471.htm を Web ブラウザでオープンします。
9. マウスをイメージ・オブジェクトの上へドラッグして、オブジェクトの上に表示されるポップアップ・テキストを表示します。

## 4.7.2 イメージ・オブジェクトへのロールオーバーの追加

1. オブジェクト・ナビゲータの、「メイン・セクション」ノードの下、そして、「ボディ」ノードの下で、IMDB\_BMP のとなりの をクリックします。
2. 「ツール」 「プロパティ・パレット」を選択します。
3. 「プロパティ・パレット」で、「Web の設定」ノードの、「Additional Hyperlink Attributes (HTML)」プロパティを次のように設定します。

```
onMouseover="window.status='Clicking here will display the Internet Movie Database home page.';return true"
onMouseOut="window.status=' ';return true"
```

4. [Return] キーまたは [Enter] キーを押して、プロパティが設定されたことを確認します。
5. オブジェクト・ナビゲータで、レポートの隣の をクリックします。

6. レポート出力を、web\_472.rdf という名前を付けて保存します。
7. 「ファイル」「ファイルに出力」「HTML スタイル・シート」を選択することにより、HTML 出力を生成します。
8. プロンプトが表示されたら、レポート出力を、web\_472.htm という名前を付けて保存します。
9. web\_472.htm を Web ブラウザでオープンします。
10. マウスをイメージ・オブジェクトの上へドラッグして、ブラウザのヒント行のロールオーバー・テキストを表示します。イメージ・オブジェクトを表示するには、HTML 文書の最後までスクロールする必要がある点に注意してください。

## 4.8 PL/SQL を使用した Web 出力オブジェクトの条件付き表示 / 非表示

この項のステップでは、ページ番号のような特定のオブジェクトを HTML、HTMLCSS または PDF 出力時に表示しない方法について説明します。ただし、これらの項目は、別のレポート・ファイル書式では表示されます。

1. レイアウト・モデル表示で、「Back to Top」というラベルのあるボイラープレート・テキスト・オブジェクトをクリックします。
2. 「ツール」「プロパティ・パレット」を選択します。
3. 「拡張レイアウト」ノードで、「フォーマット・トリガー」プロパティを次のように設定します。

```
function text_totop1FormatTrigger return boolean is
begin
  if UPPER(:DESFORMAT) = 'HTML' or
     UPPER(:DESFORMAT) = 'HTMLCSS' or
     UPPER(:DESFORMAT) = 'PDF'
  then
    return (TRUE);
  else
    return (FALSE);
  end if;
end;
```

4. 「コンパイル」をクリックします。
5. コンパイル・エラーが発生した場合には、構文エラーのコードをチェックし、必要な場合には、再度コンパイルします。
6. 「クローズ」をクリックします。
7. オブジェクト・ナビゲータで、レポートの隣の  をクリックします。

8. レポート出力を、web\_48.rdf という名前を付けて保存します。
9.  をクリックして、レポート出力を Report Builder のライブ・プレビューアで表示します。
10. 「ファイル」「ファイルに出力」「HTML スタイル・シート」を選択することにより、HTML 出力を生成します。
11. プロンプトが表示されたら、レポート出力は web\_48.htm という名前を付けて保存します。
12. web\_48.htm を Web ブラウザでオープンします。HTML 出力とレポート出力を Report Builder のライブ・プレビューアで比較します。「Back to Top」というラベルのあるポイラプレート・テキスト・オブジェクトは、ブラウザでは表示される必要がありますが、ライブ・プレビューアでは、表示される必要はありません。

## 4.9 チャートのあるサマリー・セクションの作成

この項のステップでは、レポートのサマリー・セクション作成およびサマリー・セクションに円チャートを含める方法を説明します。

### 4.9.1 サマリー・セクションのデータ・モデル作成

1. Report Builder にいない場合には、Web ブラウザから Report Builder に戻ります。
2. データ・モデル表示で、 をクリックし、キャンバス領域をクリックします。  
ヒント: 「データ・モデル」ツール・パレットが表示されない場合には、「表示」「ツール・パレット」を選択します。
3. 「SQL 問合せ文」ダイアログ・ボックスで、「Query Builder」をクリックします。
4. 「データ表選択」ダイアログ・ボックスで、「VIDEO\_CATEGORY\_BY\_QTR」をクリックします。
5. 「インクルード」をクリックします。
6. 「クローズ」をクリックします。
7. 「Query Builder」で、表の「QUARTER」列チェックボックスおよび「TOTAL PROFIT」列チェックボックスをチェックします。
8. 条件フィールドで、次の条件を入力します。

```
SALES_REGION='West' AND TOTAL_PROFIT>2000
```
9.  をクリックします。
10. 「OK」をクリックします。
11. 「SQL 問合せ文」ダイアログ・ボックスで、「OK」をクリックします。

12. オブジェクト・ナビゲータで、レポートの隣の  をクリックします。
13. レポート出力を、web\_491.rdf という名前を付けて保存します。

## 4.9.2 サマリー・セクションのデフォルト・レイアウト作成

1. レイアウト・モデル表示で、 をクリックして、レポートのヘッダー・セクションにアクセスします。



1. このトピックに関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
繰り返し枠, 作成
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
枠または繰り返し枠の作成

2. ヘッダー・セクションで、 をクリックして、レイアウトのボイラープレート・テキスト・オブジェクトを作成します。「Executive Summary of Video Sales」と入力します。
3. 作成したボイラープレート・テキスト・オブジェクトを選択して、「書式」 「フォント」をクリックします。
4. 「フォント」ダイアログ・ボックスで、「Footlight MT Light」などのフォントを選択して「OK」をクリックします。

**ヒント:** ボイラープレート・テキスト・オブジェクトが選択されている間は、フォントおよび塗りカラーを変更できます。

5.  をクリックして、作成したボイラープレート・テキスト・オブジェクトの下に、ボイラープレート・テキスト・オブジェクトを作成します。「Quarter Profits」と入力します。
6.  をクリックして、レイアウトの上から約4インチ、幅3インチ、高さ0.5インチの繰り返し枠を作成します。
7. 「ツール」 「プロパティ・パレット」を選択します。
8. 「プロパティ・パレット」で、「一般情報」ノードの、「名前」プロパティを R\_execprof に設定します。

9. 「**繰返し枠**」ノードで、「ソース」プロパティを G\_QUARTER1 に設定します。



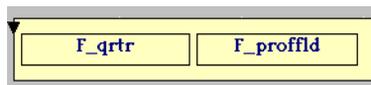
1. このトピックに関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
フィールド, 作成
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
フィールド・オブジェクトの作成

10.  をクリックして、繰返し枠の内側に納まるフィールド (幅約 1.5 インチ、高さ約 0.25 インチ) を作成します。
11. 「ツール」 「プロパティ・パレット」を選択します。
12. 「プロパティ・パレット」で、「一般情報」ノードで、「名前」プロパティを F\_qrtr に設定します。
13. 「フィールド」ノードで、「ソース」プロパティを QUARTER1 に設定します。
14. 2つ目のフィールドを作成するには、ステップ 10 ~ 11 を繰り返します。次のプロパティを設定します。

表 4-3 2つ目のフィールド用プロパティ設定

ノード	プロパティ	設定
一般	名前	F_proffld
フィールド	ソース	TOTAL_PROFIT1
	書式マスク	\$NNN,NN0.NN

15. 次の図と同じように表示されるようレイアウトを配置します。



16.  をクリックして、問合せおよびレイアウトが適切に動作しているかチェックします。

ヒント: PL/SQL エラーが発生した場合には、「プログラム」 「コンパイル」 「すべて」を選択して書式トリガーのコンパイルを試行できます。

17. オブジェクト・ナビゲータで、レポートの隣の  をクリックします。
18. レポートを、web\_492.rdf という名前を付けて保存します。

19. 「ファイル」 「ファイルに出力」 「HTML スタイル・シート」を選択することにより、HTML 出力を生成します。
20. プロンプトが表示されたら、レポート出力を、web\_492.htm という名前を付けて保存します。
21. Web ブラウザで、web\_492.htm をオープンして、最初のページに新たなヘッダー・ページが表示されていることを確認します。

### 4.9.3 サマリー・セクションのチャート作成



1. このトピックに関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
チャート, 作成
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
Graphics Builder チャートの作成

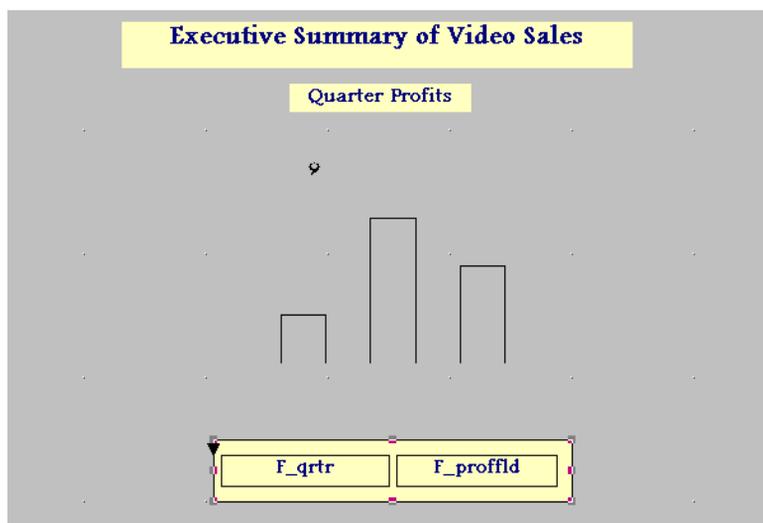
1. レイアウト・モデル表示時に、ヘッダー・セクションにいない場合には、 をクリックします。
2.  をクリックして、チャート・ウィザードを起動します。  
**ヒント:** チャート・ウィザードを起動すると、Oracle Graphics Builder がバックグラウンドで実行されます。Windows では、このアプリケーションは、タスクバーに表示されます。
3. チャート・ウィザードの「ようこそ」のページが表示されたら、「次へ」をクリックします。
4. 「タイプ」ページでは、チャート・タイプ・リストの「Pie」およびチャート・サブタイプの「Depth」をクリックします。
5. 「次へ」をクリックします。
6. データ・グループ・ページで、「G\_QUARTER1 (QUARTER1、TOTAL\_PROFIT1)」をクリックします。
7. 「次へ」をクリックします。
8. 「項目」ページで、「QUARTER1」, の順にクリックして、「項目軸」リストに移動します。
9. 「次へ」をクリックします。
10. 「値」ページで、「TOTAL\_PROFIT1」, の順にクリックして、「値軸」リストに移動します。
11. 「次へ」をクリックします。

12. 「ブレイク」ページで、レポートの冒頭にチャートが表示されるよう選択します。
13. 「次へ」をクリックします。
14. 「ファイル」ページで、「名前を付けて保存」をクリックします。プロンプトが表示されたら、ファイル名 `rbweb_chart.ogd` を使用します。このファイルを RDF および HTML ファイルと同じディレクトリに保存します。



1. このトピックに関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
ファイル, サポートされているファイルタイプ
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
サポートされているファイル

15. 「完了」をクリックします。
16. チャート・オブジェクトをクリックします。
17. 「ツール」「プロパティ・パレット」を選択します。
18. 「プロパティ・パレット」で、「一般情報」ノードの、「名前」プロパティを `rbweb_chart` に設定します。
19. 次の図と同じように表示されるようチャートのサイズを変更し、レイアウトの配置を変更します。



20. オブジェクト・ナビゲータで、レポートの隣の  をクリックします。

21. レポート出力を、web\_493.rdf という名前を付けて保存します。
22. 「ファイル」「ファイルに出力」「HTML スタイル・シート」を選択することにより、HTML 出力を生成します。
23. プロンプトが表示されたら、レポート出力を、web\_493.htm という名前を付けて保存します。
24. Web ブラウザで、web\_493.htm をオープンして、出力の 1 ページ目にチャートが表示されていることを確認します。

#### 4.9.4 チャートへのハイパーリンクの追加

関連データにドリルダウンするチャートへのハイパーリンクも追加できます。ここでは、円チャートから、4.9.2 項「サマリー・セクションのデフォルト・レイアウト作成」で作成したサマリー・レポートへのハイパーリンクを作成します。

1. レイアウト・モデル表示で、「チャート」オブジェクトをクリックします。
2. 「ツール」「プロパティ・パレット」を選択します。
3. 「プロパティ・パレット」で、「チャート」ノードの、「チャート・ハイパーリンク」プロパティを #rbweb\_chart&<Total\_Profit1> に設定します。
4. オブジェクト・ナビゲータで、「検索」フィールドにカーソルを置いて次のように入力します。  
「F\_PROFFLD」
5. 「ツール」「プロパティ・パレット」を選択します。
6. 「プロパティ・パレット」で、「Web の設定」ノードの、「ハイパーリンクの宛先」プロパティを rbweb\_chart&<Total\_Profit1> に設定します。
7. レポートを、web\_494.rdf という名前を付けて保存します。
8. 「ファイル」「ファイルに出力」「HTML スタイル・シート」を選択することにより、HTML 出力を生成します。
9. プロンプトが表示されたら、レポート出力を、web\_494.htm という名前を付けて保存します。
10. Web ブラウザで web\_494.htm をオープンし、円チャートの領域をクリックして、レポートの関連データにアクセスします。

### 4.10 Javascript の追加

この項のステップは、Javascript を Web レポートに追加するときに役立ちます。この追加によって、動画やカスタマイズ済ナビゲーション・コントロールなど、レポートに特別な効果が追加されます。

ここでは、Javascript が適切に動作するように、4.9 項「チャートのあるサマリー・セクションの作成」および 4.3 項「HTML レポート・ヘッダーのインクルード」がそれぞれ完了している必要があります。

### 4.10.1 動画化されたオブジェクトの作成

この例では、テキスト・オブジェクトに対して Javascript を追加して、Web ブラウザでオープンしたとき、マウスがイメージの上を通過したときにそのイメージ・オブジェクトの色を青から赤に変えます。

これを完了するには、1.gif が必要です。

- 1.gif ファイル (ORACLE\_HOME¥TOOLS¥DOC60¥US¥RBBR60 ディレクトリに格納されたファイル) を宛先ディレクトリ (生成済 HTML ファイルの常駐する場所) にコピーします。
- レイアウト・モデル表示で、メイン・セクションにいない場合には、 をクリックします。
- 「編集」 「すべて選択」を選択します。
- (上のマージンと「Sales Results」というラベルのあるボイラープレート・テキスト・オブジェクトとの間に空いた領域がなくなるように) レイアウト・モデル表示の一番上へ選択したものをすべてをドラッグします。
-  をクリックして、幅約 0.5 インチ、高さ約 0.5 インチのボイラープレート・テキスト・オブジェクトをレイアウトのすぐ下に作成します。
- 次の Javascript をボイラープレート・テキスト・オブジェクトに入力します。

```
<a href="#webrep_bottom" onmouseover=
"document.images['example'].src=image02.src" onmouseout=
"document.images['example'].src=image01.src">
</a>
```

- 「ツール」 「プロパティ・パレット」を選択します。
- 「プロパティ・パレット」で、「一般情報」ノードの、「名前」プロパティを B\_JS に設定します。
- 「Web の設定」ノードで、「HTML タグを含む」プロパティを「Yes」に設定します。必要な Javascript のコードの一部は、すでに HTML 出力 (rbweb\_hdr.htm ファイル) のヘッドに組み込まれている点に注意してください。次のステップでは、Javascript を HTML 出力のボディに追加します。
- 「拡張レイアウト」ノードで、「フォーマット・トリガー」プロパティを次のように設定します。

```
function B_JSFormatTrigger return boolean is
```

```

begin
  if UPPER(:DESFORMAT) = 'HTML' or
    UPPER(:DESFORMAT) = 'HTMLCSS' or
    UPPER(:DESFORMAT) = 'PDF'
  then
    return (TRUE);
  else
    return (FALSE);
  end if;
end;

```

11. 「コンパイル」をクリックします。
12. コンパイル・エラーが発生した場合には、構文エラーのコードをチェックし、必要な場合には、再度コンパイルします。
13. 「クローズ」をクリックします。
14. 「印刷オブジェクト・オン」プロパティを「全ページ」に設定します。
15. レイアウト・モデル表示で、「Click on the arrow to view the Executive Summary」というラベルのあるボイラープレート・テキスト・オブジェクトを作成します。このオブジェクトを Javascript (B\_JS) を含んだボイラープレート・テキスト・オブジェクトのとなりに配置します。
16. 「ツール」 「プロパティ・パレット」を選択します。
17. プロパティ・パレットで、「拡張レイアウト」ノードの、「印刷オブジェクト・オン」プロパティを「全ページ」に設定します。
18. オブジェクト・ナビゲータで、レポートの隣の  をクリックします。
19. レポート出力を、web\_4101.rdf という名前を付けて保存します。
20. 「ファイル」 「ファイルに出力」 「HTML スタイル・シート」を選択することにより、HTML 出力を生成します。
21. プロンプトが表示されたら、レポート出力を、web\_4101.htm という名前を付けて保存します。
22. Web ブラウザで、web\_4101.htm をオープンして、作成したボイラープレート・テキスト・オブジェクトが表示されていることを確認します。また、その上にマウスをドラッグすると、青の矢印が赤に変わることも確認してください。

**ヒント:** 4.9 項「チャートのあるサマリー・セクションの作成」を完了している場合は、この矢印をクリックして、「Executive Summary」にアクセスできます。4.8 項「PL/SQL を使用した Web 出力オブジェクトの条件付き表示 / 非表示」のステップ 3 を繰り返し、この項で作成したオブジェクトが HTML 出力でのみ表示されるように、条件付きで表示したり、隠したりすることができます。

## 4.10.2 HTML ページ・ストリーム

Web レポートの HTML ページ・ストリームを使用して、ユーザーが簡単にページからページへと移動できるように、ナビゲーション・コントロールを表示することができます。HTML ページ・ストリームにより、Web ブラウザの HTML/HTMLCSS レポート出力をすべてダウンロードせずに、ページごとに表示することが可能となります。レポートの最初のページから、レポートの残りのどのページにもナビゲートできます。宛先のあるブックマークまたはハイパーリンクをクリックすると、次のようになります。

- 宛先がレポート内にある場合、現行ページを含むフレームが、宛先ページに応じて更新されます。
- 宛先がレポート外にある場合、ベース・フレーム全体（ブックマーク・フレーム、ページおよびナビゲーション・フレーム）が再びロードされます。

Report Builder では、デフォルト・ページ・ストリーム・コントロールが提供されます。ただし、ここでは、カスタマイズ済ナビゲーション・コントロールを使用します。便宜上、カスタマイズ済コントロールを作成するために必要なグラフィックおよび javascript が提供されます。提供されるのは、次のものです。

- javascript を含む rbweb\_ps.htm
  - ファイル名に page、first、back または next を含む 14 の .GIF 形式ファイル（例 :page-e.gif）
1. .GIF および .HTM ファイル（ORACLE\_HOME¥TOOLS¥DOC60¥US¥RBBR60 ディレクトリにあります）を宛先のディレクトリ（生成済 HTML ファイルが常駐する場所）にコピーしてください。
  2. オブジェクト・ナビゲータで、レポートの隣の  をクリックします。
  3. 「ツール」 「プロパティ・パレット」を選択します。
  4. プロパティ・パレットで、「レポート・エスケープ」ノードの、次のプロパティを設定します。

表 4-4 ページ・ストリームのプロパティ設定

プロパティ	設定
ページ・ナビゲーション・コントロール・タイプ	ファイル
ページ・ナビゲーション・コントロール値	ORACLE_HOME¥TOOLS¥DOC60¥US¥RBBR60¥rbweb_ps.htm.

5. レポート出力を、web\_4102.rdf という名前を付けて保存します。
6. Report Builder を終了します。
7. 次を入力して、Report Builder をコマンド行から再起動します。

```
rwblld60 pagestream=yes.
```

8. レポート（最後に web\_4102.rdf という名前で保存したもの）をオープンします。
9. データベースに接続します。
10. 「ファイル」 「接続」を選択して、HTML 出力を生成します。
11. 「ファイル」 「ファイルに出力」を選択します。
12. オブジェクト・ナビゲータで、レポートの隣の  をクリックします。
13. プロンプトが表示されたら、レポート出力を、web\_4102.htm という名前を付けて保存します。
14. Web ブラウザで、web\_4102.htm をオープンして、ナビゲーション・コントロールが表示されていることを確認します。



1. このトピックに関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
HTML ページ・ストリーム、個別ページの表示
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
HTML ページ出力の個別ページの表示

## 4.11 Reports Server からの Web レポート実行

オプションとして、この項のステップでは、レポートを Reports Server から動的に実行する方法を紹介します。

この項の例を完了するには、Oracle Reports Server ソフトウェアがあり、動的レポート用 Reports Server がインストールおよび構成済であることが必要です。詳細については、『パブリッシング・レポート』マニュアルを参照するか、システム管理者に連絡してください。

1. 次のファイルを、マシン上の `ORACLE_HOME\TOOLS\DOC60\US\RBBR60` ディレクトリから、キャッシュされたファイルが送信されるディレクトリにコピーします。Reports Server 構成ファイルを参照して、キャッシュ・ディレクトリを確定します。
  - rbweb\_hdr.htm
  - rbweb\_page.htm
  - 1.gif
  - 3.gif
  - drama.gif
  - page、first、back または next をファイル名として含んだ 14 の .GIF 形式ファイル（例 :page-e.gif）

2. Reports Server で、最後に `web_4102.rdf` という名前で保存された Web レポートの位置が確実に指定されるようにします (レポートの場所は、Reports Server 構成ファイルの `SOURCEDIR` パラメータまたは、`REPORTS60_PATH` 環境変数で設定されます)。
3. Web ブラウザで、次を指定します。

```
http://your_webserver/cgi-bin/rwcgi60.exe?report=web_4102.rdf+
userid=user_name/password@mydb+
server=repserver+desformat=htmlcss+
destype=cache+pagestream=yes
```

この場合、

`your_webserver` は、Web サーバーの URL アドレスです。

`cgi-bin` は、実行可能な CGI または OWS の仮想位置です。

`user_name/password@mydb` は、データベースへの接続ストリングです。

`repserver` は Reports Server の名前です。

## 4.12 まとめ

完了しました。Web サンプル・レポートの作成が完了しました。この章で学習した内容は次のとおりです。

- 書式マスクの適用
- 「レポート・エスケープ」による他の HTML ファイルの追加
- ナビゲーションを容易にするためのブックマーク追加
- レポート内外にある Web サイト宛先へのハイパーリンク追加
- ポップアップおよびロールオーバーの表示
- Web 出力項目の条件付き表示 / 非表示
- チャートを含むエグゼクティブ・サマリー・セクションの作成
- Javascript を使用した特別な効果の作成

Web ベースのレポートに関する詳細情報については、オンライン・ヘルプを参照してください。



1. このトピックに関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
  2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
Web レポート、~について
  3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
Web レポートについて
-

## セクションで構成されたレポートの作成

この章で説明するレポートは、レポートのセクションおよび配布に関する Report Builder の機能の学習に役立つように設計されています。

このレポートを作成するには、データ・ウィザードを使用して複数の問合せを含むデータ・モデルを作成した後に、レポート・ウィザードを使用して最初のセクションにデフォルト・レイアウトを作成します。データ・モデル表示およびレイアウト・モデル表示において詳細な調整を手動で行います。次に、レポート・ウィザードをもう一度使用して、同一のデータ・モデルによるデフォルト・レイアウトを2番目のセクションに作成します。そして、レイアウト・モデル表示およびライブ・プレビューアにおいて手動の微調整を行います。

これから説明する例では、メイン・ページに投資信託運用選定および指定の歩合での従業員の勘定サマリーが示された詳細レポート（従業員1人につき横方向で1ページ）を作成します。次に、指定の歩合を付与された全従業員のヘッダー・セクションに1ページのサマリー・レポートを作成します。最後に、レポートの各セクションを複数のフォーマットで複数の宛先に出力するための配布パラメータを設定します。

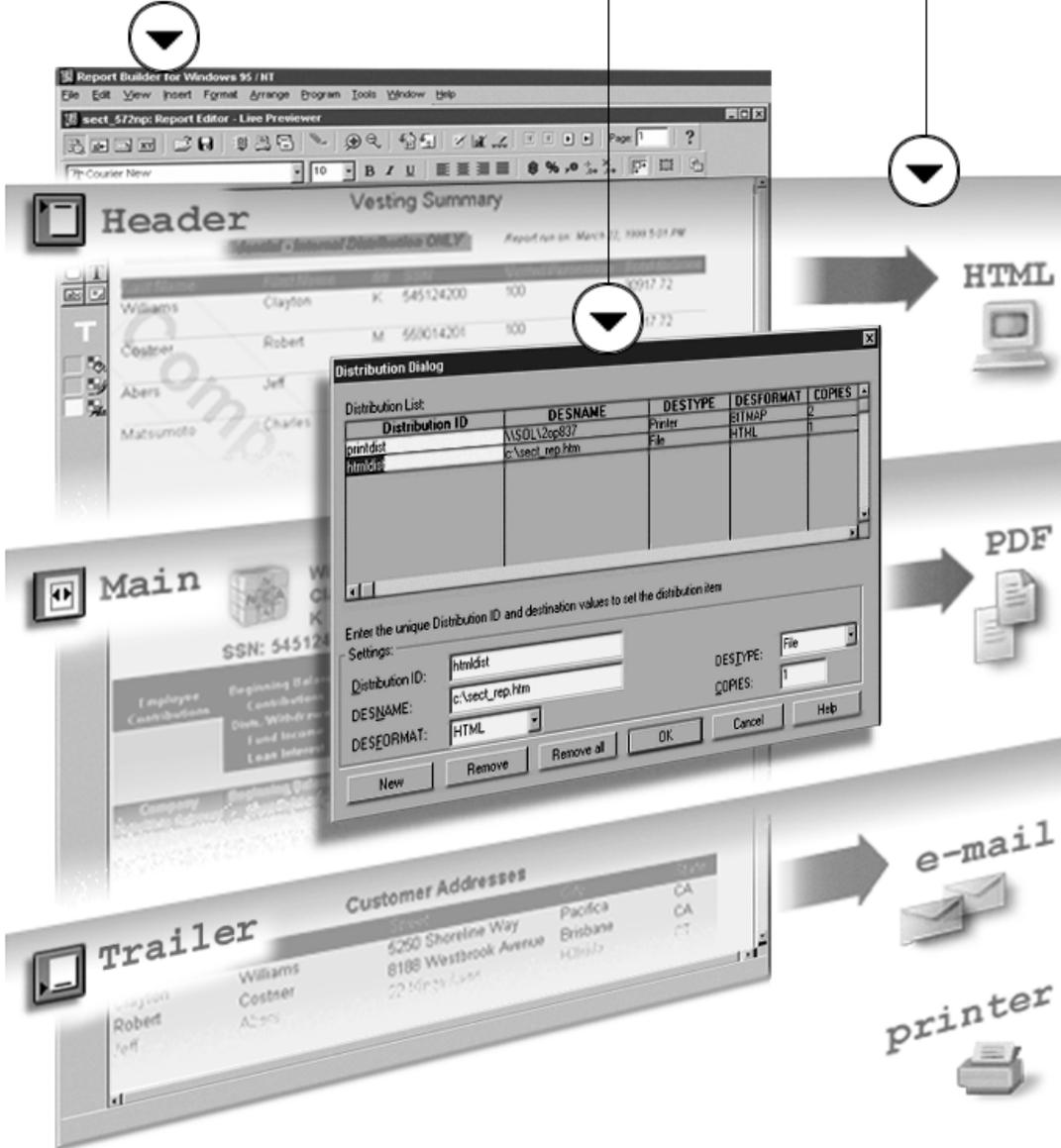
**セクションについて** レポートにセクションを作成することによって、対象読者、出力書式、ページ・レイアウト、ページ・サイズおよび方向が異なる複数のレイアウトを1つのレポートに設定できます。最大3つのレポート・セクション（メイン・セクション、ヘッダー・セクション、トレーラ・セクション）を定義できます。その他のセクションでは、複数の個別のレポートを作成するのではなく、異なるレイアウトを定義できます。たとえば、1つのレポートの1つのセクションに重役用の経営者サマリーを挿入し、その同じレポートの別のセクションに各管理職用の詳細ブレイクダウンを挿入することもできます。

次の図には、複数のセクションで構成されたレポートを作成し、作成したレポートを各セクションに設定された配布パラメータに基づいて配布する過程の概要が示されています。[表 5-1 「セクションのサンプル・レポートで学習する機能」](#)で、このレポートを作成するステップを説明します。

レイアウトを使用して複数のセクションにレポートを作成する。  
5.3 および 5.5 を参照。

レポート・レイアウトの配布設定を各セクションに指定する。  
5.7 を参照。

各セクションを指定の宛先に送信してレポートを配布する。  
5.7 を参照。



sect.rdf ファイルには、この章の作業の終了後に作成するレポートが含まれています。作業の実行中にこのファイルを参照してください。このファイルは、ORACLE\_HOME¥TOOLS¥DOC60¥US¥RBBR60 ディレクトリにあります。

**表 5-1 セクションのサンプル・レポートで学習する機能**

機能	項
5 つの異なる問合せを作成することによるデータ・モデルの作成。およびデータ・モデル表示におけるデータ・モデルの調整。	5.1 項「データ・モデルの作成」
レポートの実行方法を決定するパラメータ値を入力するランタイム・パラメータ・フォームの作成。	5.2 項「ランタイム・パラメータ・フォームの設計」
レポート・ウィザードによる詳細セクションに対するデフォルト・レイアウトの作成。	5.3 項「最初のセクションに対するレイアウトの作成」
レイアウト・モデル表示における最初のセクションの手動調整。	5.4 項「レイアウト・モデル表示でのレイアウトの調整」
レポート・ウィザードによるサマリー・セクションに対するデフォルト・レイアウトの作成。およびレイアウト・モデル表示およびライブ・プレビューアにおける手動微調整。	5.5 項「2 番目のセクションに対するレイアウトの作成」
作成したレポートの 2 つのセクションの配布方法の指定。	5.7 項「配布の指定」

まず、Report Builder をオープンします。「前置き」ダイアログ・ボックスが表示された場合は、「新規レポートを手動で作成」をクリックしてから「OK」をクリックしてください。このダイアログ・ボックスが現れないときは、「ファイル」「新規作成」「レポート」を選択します。「手動で新規レポートを作成」をクリックし、次に「OK」をクリックします。

レポートを作成する前のある時点で、データベースにログインする必要が生じます。データベースに接続するには、「ファイル」「接続」を選択します。該当するログオン情報を入力します。詳細は、1.3 項「起動前のデータベース・アクセス権の取得」を参照してください。

## 5.1 データ・モデルの作成

この項のステップでは、5 つの異なる問合せを作成することによってデータ・モデルを作成します。また、データ・モデル表示においてデータ・モデルを手動で調整します。

## 5.1.1 データ・ウィザードによる問合せの作成

複数の問合せのあるレポートを作成するときには、通常、データ・ウィザードで問合せを作成し、レポート・ウィザードでレイアウトを作成します。この項のステップでは、データ・ウィザードを使用して5つの異なる問合せを作成します。



1. この作業に関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
問合せ, 作成
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
ローカルの問合せの作成 : データ・ウィザード

1. データ・モデル表示内で  をクリックして「データ・ウィザード」を表示します。
2. 「ようこそ」ページが表示されたら、「次へ」をクリックします。
3. 問合せ名に「Q\_acct」を入力して、「次へ」をクリックします。
4. 「タイプ」ページが表示されたら、「SQL 文」、「次へ」の順にクリックします。「タイプ」ページが表示されるのは、Report Builder を Oracle Express で実行するように構成している場合のみです。
5. 次の SELECT 文を入力します。この問合せでは、**各従業員に対する個人情報**が、**繰り延べ投資信託運用および確定利益**とともに選択されます。

```
SELECT    a.lastname,
          a.firstname,
          a.mi,
          a.ssn,
          a.pct_deferral,
          a.pct_vested,
          d.street,
          d.city,
          d.state,
          d.zip
FROM      accts a,
          acct_addrs d
WHERE     a.pct_vested=:p_pct_vested
AND       d.ssn=a.ssn
```

6. 「次へ」をクリックします。データベースに接続している場合は、Report Builder がバインド・パラメータを作成していることが通知されます。「OK」をクリックして通知をクローズします。この問合せの WHERE 句で参照するバインド・パラメータ (p\_pct\_vested) はまだ存在していないため、Report Builder によって該当のパラメータが作成され、作成が完了したことが通知されます。

7. 「グループ」ページで、「次へ」をクリックします。この問合せには、ブレイク・グループは必要ありません。
8. 「サマリー」ページで「次へ」をクリックします。この章で、後に合計を作成します。
9. 「完了」をクリックします。
10. ステップ 1 ~ 9 を繰り返して、次の特性をもつ問合せをあと 4 つ作成します。

- 問合せ名:Q\_dist

Q\_dist では、各従業員への投資信託運用選定の利益配分が選択されます。

```
SELECT    c.fund_id,
          c.pct_dist,
          c.ssn,
          f.name
FROM      fund_contrib c,
          funds f
WHERE     c.fund_id=f.fund_id
ORDER BY f.name
```

- 問合せ名:Q\_xact

Q\_xact では、貢献カテゴリ (emconame) および各カテゴリに対する収益の説明 (description) が各従業員に選択されます。

```
SELECT DISTINCT
          x.description,
          x.type,
          t.ssn,
          t.empcomp,
          c.emconame
FROM
          f_xact_type x,
          fund_xact t,
          f_empcomp c
WHERE     t.trans_type=x.type(+)
AND      c.empcomp=t.empcomp
```

- 問合せ名:Q\_funds

Q\_funds では、各ファンドの名前が選択されます。

```
SELECT DISTINCT
          f.name,
          f.fund_id
FROM      funds f
```

- 問合せ名:Q\_amount

Q\_amount では、各ファンドに投資された合計が各従業員ごとに選択されます。

```
SELECT DISTINCT
    amount,
    empcomp,
    fund_id,
    ssn,
    trans_type,
    xact_id
FROM    fund_xact
```

11. 「ファイル」 「名前を付けて保存」を選択します。このレポートに sect\_511.rdf という名前を付けて、任意のディレクトリに保存します。

ヒント：レポートの設計段階では、レポートを異なるファイル名で頻繁に保存することをお勧めします。そうすれば、エラーが生じたり、変更した内容に問題がある場合でも、前に保存したファイルに簡単に戻ることができるので、その時点からの修正を加えるだけで済みます。

## 5.1.2 データ・モデルの調整

この項のステップでは、グループへの意味のある名前の指定、ブレイク・グループの作成、データ・モデルからマトリックス・データ・モデルへの変更、データ・リンクの作成およびサマリーの作成を行います。

1. データ・モデル表示内で Q\_acct が所有するグループ、「G\_lastname」をダブルクリックしてプロパティ・パレットを表示します。
2. 「一般情報」ノードで、「名前」プロパティに G\_acct を設定します。
3. [Return] キーまたは [Enter] キーを押して変更を設定します。
4. ステップ 1 ~ 3 を繰り返して、次のグループの名前を変更します。

表 5-2 グループ名

古い名前	新しい名前
G_fund_id	G_dist
G_description	G_xact
G_name1	G_funds

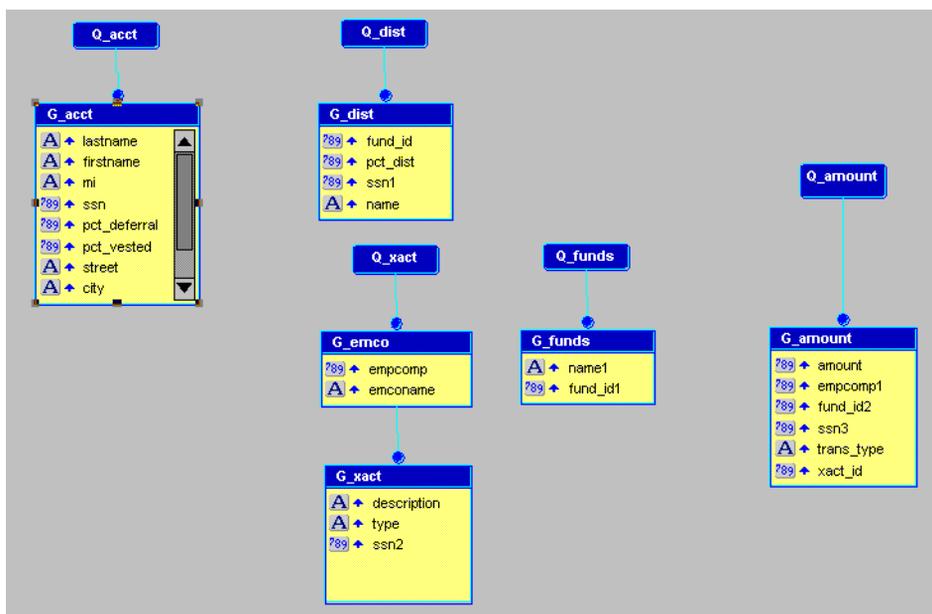
5. 「G\_xact」グループをクリックして数インチ下にドラッグし、「G\_xact」グループの上にスペースを空けます。

6. G\_xact グループ内の「empcomp」という名前の列をクリックして、その列をグループの外側までドラッグして G\_xact グループの上方に置きます。



1. この作業に関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
ブレイク・グループ, 作成
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
ブレイク・グループの作成

7. G\_xact グループ内の「emconame」という名前の列をクリックして、その列を新規グループの G\_empcomp の中にドラッグします。emconame は、empcomp 列の後ろに置きます。
8. 「G\_empcomp」グループをダブルクリックして、プロパティ・パレットを表示します。
9. 「名前」プロパティを G\_emco に変更します。
10. 次の図と同じような形にデータ・モデルを再配置します。



11. ツール・パレットで  をクリックします。



1. この作業に関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
マトリックス・グループ, 作成
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
マトリックス (クロスタブ) グループの作成

12. グループ G\_emco、G\_xact および G\_funds を四角形で囲んでドラッグします。

13. 新しく作成したグループ、「G\_1」をダブルクリックして、プロパティ・パレットを表示します。

14. 「名前」プロパティを G\_matrix に変更します。

15.  をクリックして、列間リンクを作成します。



1. この作業に関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
データ・リンク, 作成
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
データ・リンクの作成

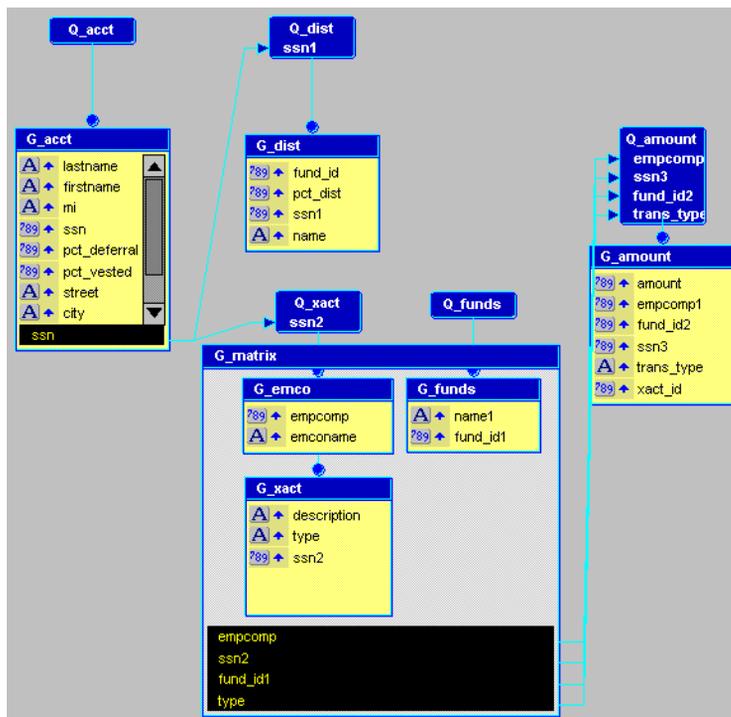
16. グループ G\_acct 内の列「ssn」をクリックして、グループ G\_dist 内の列「ssn1」までドラッグします。(これにより、投資信託運用選定の利益配分が取り出されます。)

17. ステップ 15 ~ 16 を繰り返して、次の表の左右にデータ・リンクを作成します。

**表 5-3 データ・モデル内で作成するデータ・リンク**

グループ G_acct 内の列 ssn	グループ G_xact 内の列 ssn2 (各カテゴリに対する収益の説明の 取出し用)
グループ G_emco 内の列 empcomp	グループ G_amount 内の列 empcomp1
グループ G_xact 内の列 ssn2	グループ G_amount 内の列 ssn3
グループ G_funds 内の列 fund_id1	グループ G_amount 内の列 fund_id2 (各ファンド内にある各貢 献カテゴリの各収益説明への勘定残高の取出し用)
グループ G_xact 内の列 type	グループ G_amount 内の列 trans_type (各収益説明への個別金 額の取出し用)

データ・モデルが、次の図と同じようになります。



18.  をクリックします。



1. この作業に関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
合計、列に対する作成
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
サマリー列の作成

19. グループ G\_matrix のタイトル・バー上でクリックします。

次のステップでは、各貢献カテゴリの各収益説明の合計（行の合計）が計算されるようにこの新規サマリー列を設定します。

20. 新しく作成した列、CS\_1 をダブルクリックしてプロパティ・パレットを表示します。

21. プロパティ・パレットの「**一般情報**」ノードで、「名前」プロパティに CS\_xacttotal を設定します。
22. 「**列**」ノードで、「幅」プロパティを 38、「積順序」プロパティを G\_emco G\_xact、「Null 時の値」プロパティを 0.00 に設定します。

**ヒント:**「積順序」プロパティの値は、かなり長くなる場合があります。「積順序」プロパティの値の一覧性を高めるには、プロパティ・パレットの水平方向のサイズを変更します。

これらのプロパティの意味の詳細は、参照するプロパティを選択した状態で  をクリックしてください。

23. 「**サマリー**」ノードで、「ソース」プロパティを amount、「リセット位置」プロパティを G\_xact に設定します。
24. ステップ 18 ~ 23 を繰り返し、次の特性を使用してグループ G\_matrix 内にサマリー列を作成します。

表 5-4 「合計」プロパティ

名前	幅	積順序	NULL 時の値	ソース	リセット位置
CS_fundsubtotal	38	G_funds G_emco	0.00	amount	G_emco
CS_emcototal	38	G_emco	0.00	amount	G_emco
CS_fundtotal	38	G_funds	0.00	amount	G_funds

- CS\_fundsubtotal では、各貢献カテゴリ内の各収益ファンドの合計（列の合計）が計算されます。
- CS\_emcototal では、各貢献カテゴリの総合計が計算されます。
- CS\_fundtotal では、すべての貢献カテゴリ内の各ファンドの総合計が計算されません。

25. ステップ 18 ~ 23 を繰り返し、次の特性を使用してグループ G\_acct にサマリー列を作成します。

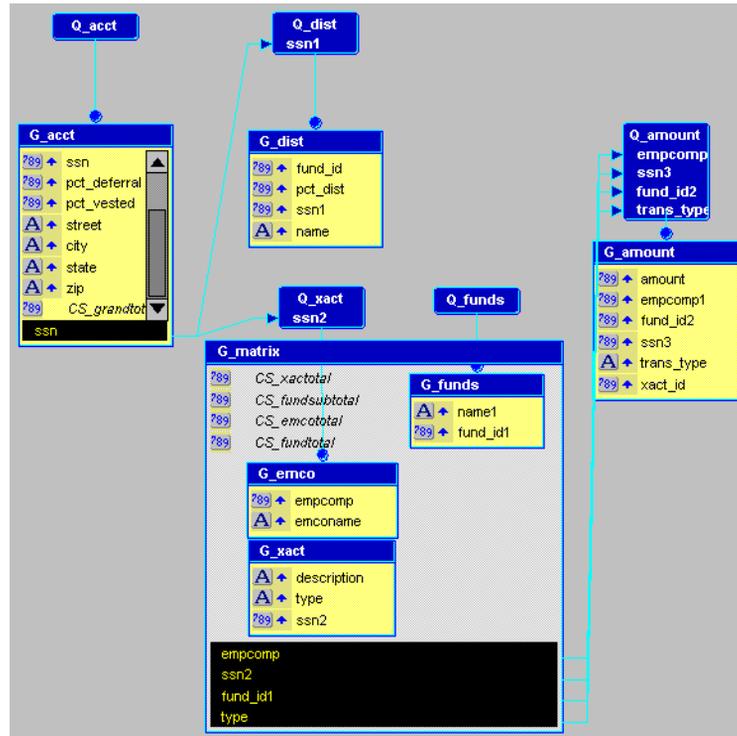
表 5-5 「合計」プロパティ

名前	幅	NULL 時の値	ソース	リセット位置
CS_grandtotal	38	0.00	CS_fundtotal	G_acct

- CS\_grandtotal では、すべての貢献カテゴリ内の各ファンドの総合計が計算されません。

26. サマリー列を見やすくするために、グループ G\_matrix 内のオブジェクトを再配置します。

27. レポートを `sect_512.rdf` という名前で保存します。  
データ・モデルが、次の図と同じようになります。



## 5.2 ランタイム・パラメータ・フォームの設計

この項のステップでは、ランタイム・パラメータ・フォームを設計して調整を行うときにレポートを定期的に行うことができるようにします。

5.1.1 項「データ・ウィザードによる問合せの作成」において、バインド・パラメータ `p_pct_vested` を持つ問合せを作成しました。バインド・パラメータを使用してレポートを実行すると、必ず、デフォルトのランタイム・パラメータ・フォームが表示されます。レポートを実行するには、バインド・パラメータにもう一度値を割り当てる必要があります。

デフォルトのパラメータ・フォームを使用して値を入力できます。あるいは、パラメータ・フォーム表示を使用して独自のパラメータ・フォームをバインドすることもできます。



1. この作業に関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
パラメータ・フォーム, 概要
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
パラメータ・フォーム

1. 「ツール」 「パラメータ・フォーム作成」を選択します。
2. 「パラメータ・フォーム作成」で、次のパラメータがまだ選択されていない場合は、選択されていないパラメータをクリックします。
  - DESTYPE
  - DESNAME
  - DESFORMAT
  - P\_PCT\_VESTED
3. 「OK」をクリックして、パラメータ・フォーム表示内でパラメータ・フォームを作成します。
4. 「P pct vested」ラベルを選択するために1度クリックし、その後もう1度クリックして編集モードにします。(ダブルクリックするとプロパティ・パレットが表示されません。)
5. テキストを選択し、選択したテキストを % Vested に変更します。
6. PF\_P\_PCT\_VESTED をダブルクリックしてプロパティ・パレットを表示します。
7. 「パラメータ」ノードで「初期値」プロパティを 100 に設定します。
8. 「値リスト」プロパティ・フィールド内でクリックして、「値リスト・パラメータ」ダイアログ・ボックスを表示します。
9. 「スタテック値」をまだ選択していない場合は、「スタテック値」をクリックしてください。
10. 「値」フィールドに「0」を入力し、「追加」をクリックします。
11. ステップ 10 を繰り返して、次の値を追加します。

10

25

50

75

100

12. 「OK」をクリックしてダイアログ・ボックスをクローズします。
13. パラメータ・フォーム表示をクローズします。ランタイム・パラメータ・フォームを使用する機会は、後のステップに設定してあります。
14. レポートを `sect_520.rdf` という名前で保存します。

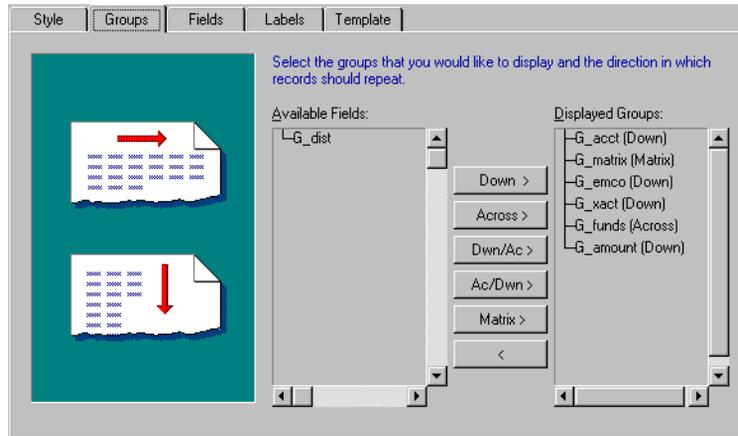
## 5.3 最初のセクションに対するレイアウトの作成

この項のステップでは、レポート・ウィザードを使用して詳細セクションにレイアウトを作成し、デフォルト・レイアウトを作成します。レポート・ウィザードのデフォルトでは、レポートのメイン・セクションにレポート・レイアウトが作成されます。



1. この作業に関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
デフォルト・レイアウト, 作成
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
レポートのデフォルト・レイアウトの作成

1. 「ツール」 「レポート・ウィザード」を選択します。
2. 「スタイル」ページで「グループ別マトリックス」をクリックします。
3. 「次へ」をクリックします。
4. 「グループ」ページで、「使用可能フィールド」リスト・ボックスから次のグループを選択します。
  - 「G\_matrix」をクリックし、次に「マトリックス」をクリック
  - 「G\_emco」をクリックし、次に「下」をクリック
5. 「表示グループ」リスト・ボックスで「G\_dist (下)」をクリックします。
6.  をクリックします。「グループ」ページは次の図のようになっています。



7. 「次へ」をクリックします。
8. 「フィールド」ページで lastname をクリックし、次に  をクリックします。このステップを繰り返して、次のフィールドを「表示フィールド」リストに追加します。
  - firstname
  - mi
  - ssn
  - pct\_deferral
  - pct\_vested
  - description
  - emconame
  - name1
  - amount
  - CS\_xacttotal
  - CS\_fundsubtotal
  - CS\_emcototal
  - CS\_fundtotal
  - CS\_grandtotal
9. 「次へ」をクリックします。

10. 「ラベル」ページで、リスト表示されているすべての列のラベルを削除し、次の列の名前を変更します。

表 5-6 ラベル

列	ラベル
ssn	SSN:
pct_deferral	Deferral Percentage:
pct_vested	Vested Percentage:
CS_grandtotal	Total Balance

11. 次の列の幅を変更します。

表 5-7 幅

列	幅
pct_deferral	4
pct_vested	4
description	9
emconame	9
name1	7
amount	4
CS_xacttotal	8
CS_fundsubtotal	8
CS_emcototal	8
CS_fundtotal	8
CS_grandtotal	8

12. 「次へ」をクリックします。
13. 「テンプレート」ページで、事前定義済みのテンプレート「**緑グリッド**」を選択します。
14. 「完了」をクリックします。
15. 「ランタイム・パラメータ・フォーム」で、「% Vested」リスト・ボックスから 100 を選択します。「宛先タイプ」「宛先名」および「宛先フォーマット」フィールドに注目します。プリンタなどの別の出力タイプを選択したり、フォーマットを変更したりできます。ただし、この例ではデフォルトの値を使用します。

16.  をクリックしてライブ・プレビューアにレポートを表示します。レポートは次の図のようになります。



**Williams  
Clayton  
K  
SSN: 545124200**

**Deferral Percentage: 15**  
**Vested Percentage: 100**

		Ancia Industrial	Anderson Trust	Boston GIC	Delta Index
Company Matching Account	Beginning Balance		455.24		
	Contributions		101.52		
		0	556.76	0	0
Employee Contributions	Beginning Balance	1905.63			
	Contributions	1203.88			
	Dists./Withdrawals	22.5			
	Fund Income	999.98			
	Loan Interest	22.5			
		4154.49	0	0	0
		4154.49	556.76		

17. ライブ・プレビューアをクローズします。
18. レポートを `sect_530.rdf` という名前で保存します。

## 5.4 レイアウト・モデル表示でのレイアウトの調整

この項のステップでは、レイアウト・モデル表示を使用してレポートのレイアウトを調整します。次のことを実行してレイアウトを大きく変更します。

- フォント・サイズなど、オブジェクトの属性の変更
- レイアウト内でのオブジェクトの再配置
- ポイラプレート・オブジェクトの追加
- 横へのレポート方向の変更

この項を終了すると、レポートは次の図のようになります。この演習全体でこのレイアウトを使用すると便利です。

	F_name1	Total Funds
F_emconame	F_amount	F_CS_xactotal
F_description	CS_fundsubtotal	F_CS_emcototal
Subtotal:		
Grand Total:	F_CS_fundtotal	F_CS_grandtotal

Labels above the table:

- SSN: F\_ssn
- Deferral Percentage: F\_pct\_defer
- Vested Percentage: F\_pct\_veste

ヒント: ライブ・プレビューアで手動の調整を行った後でレポート・ウィザードに戻る場合、ウィザードで「適用」または「完了」をクリックすると、行った変更が一部消失し、レイアウトはウィザードによって定義されたデフォルトの状態に戻ります。

## 5.4.1 オブジェクトのプロパティの変更

1. オブジェクト・ナビゲータで、「レイアウト・モデル」ノードをダブルクリックしてレポートのレイアウト・モデル表示を表示します。
2. レイアウト・モデル表示において、「F\_lastname」をダブルクリックして「プロパティ・パレット」を表示します。
3. 「標準レイアウト」ノードで、「水平拡張度」プロパティを「可変」に変更します。次のオブジェクトに対してこのステップを繰り返します。

- F\_firstname
- F\_mi

ヒント: 次のようにすると、数個のオブジェクトを一度に変更できます。すべてのオブジェクト上でシフトクリックしてから、「ツール」 「プロパティ・パレット」を選択します。

4. キャンパスの空白領域でクリックしてオブジェクトを選択解除します。
5. 次のオブジェクトをシフトクリックします。
  - F\_lastname

- F\_firstname
  - F\_mi
  - SSN:
  - F\_ssn
  - Deferral Percentage:
  - F\_pct\_deferral
  - Vested Percentage:
  - F\_pct\_vest
6. ツールバーの「フォント・サイズ」リスト・ボックスで 12 を選択し、選択したオブジェクトのフォント・サイズを変更します。
  7. キャンバスの空白領域でクリックします。
  8. 次のオブジェクトをシフトクリックし、「ツール」 「プロパティ・パレット」を選択します。
    - F\_pct\_deferral
    - F\_pct\_vest
  9. プロパティ・パレットの「フィールド」ノードで、「書式マスク」に NNNN% (大 / 小文字を区別) を入力してオブジェクトをパーセントで表示します。
  10. キャンバスの空白領域でクリックします。
  11. 次のレイアウト・オブジェクトをシフトクリックします。
    - F\_amount
    - F\_CS\_fundsubtotal
    - F\_CS\_fundtotal
    - F\_CS\_xacttotal
    - F\_CS\_emcototal
    - F\_CS\_grandtotal
  12.  をクリックします。
  13.  を 2 度クリックします。

14.  をクリックします。
15. F\_description をクリックし、次に  をクリックします。
16. レポートを sect\_541.rdf という名前で保存します。
17.  をクリックします。
18. 「ランタイム・パラメータ・フォーム」で  をクリックして、「ライブ・プレビュー」での変更を表示します。

## 5.4.2 枠およびオブジェクトの再配置

1. オブジェクト・ナビゲータで  をダブルクリックしてレポートのレイアウト・モデル表示を表示します。

**ヒント:** レイアウト・モデル表示内の各オブジェクトは、オブジェクト・ナビゲータにも表示されます。オブジェクト・ナビゲータからオブジェクトを選択してレポートのレイアウトを調整すると便利な場合もあります。オブジェクト・ナビゲータとレイアウト・モデル表示を並べて表示するように作業領域を配置します。オブジェクト・ナビゲータでオブジェクトをクリックすると、レイアウト・モデル表示内で該当のオブジェクトが選択されます。

2. オブジェクト・ナビゲータで、「レイアウト・モデル」、「メイン・セクション」、「ボディ」および「M\_G\_ACCT\_GRPFR」ノードが拡張されていない場合は拡張してください。
3. [Ctrl] キーを押しながら「M\_G\_ACCT\_GRPFR」および「R\_G\_ACCT」をクリックします。
4. レイアウト・モデル表示内で垂直定規をガイドとして使用して、M\_G\_ACCT\_GRPFR グループおよび R\_G\_ACCT グループ枠の底が 3 インチのところにくるまでその 2 つの枠を延長します。

**ヒント:** M\_G\_ACCT\_GRPFR は、基準となるマスター・グループです。R\_G\_ACCT の下にあります。レイアウト・モデル表示では、両方の枠が選択されているときには 1 つのグループのみが選択されているように見えます。

5. オブジェクト・ナビゲータで、M\_G\_MATRIX\_GRPFR をこのオブジェクトを配置する「検索」フィールドに入力します。検索は文字を入力すると同時に実行されるため、名前全体を入力する前にオブジェクトが見つかる可能性があります。

レイアウト・モデル表示での M\_G\_MATRIX\_GRPFR 枠は、次の図のようになります。

		F_name1	
_emconame	F_description	F_amount	F_CS_xactotal
		CS_fundsubtotal	F_CS_emcototal
		F_CS_fundtotal	F_CS_grandtotal

- レイアウト・モデル表示内で垂直定規をガイドとして使用して、M\_G\_MATRIX\_GRPFR 枠の底が 3 インチのところになるまで M\_G\_MATRIX\_GRPFR 枠を延長します。
- オブジェクト・ナビゲータで、R\_G\_FUNDS を「検索」フィールドに入力します。  
レイアウト・モデル表示での R\_G\_FUNDS 枠は、次の図と同じようになります。

	F_name1
ot	F_amount
	CS_fundsubtotal
	F_CS_fundtotal

- レイアウト・モデル表示内で、R\_G\_FUNDS 枠の底がその親の枠（取り囲んでいる枠）に達するまで R\_G\_FUNDS 枠を延長します。

**ヒント:** 枠のサイズを思うように変更できない場合は、「制限モード」をオフに切り替えてみてください。



は、「制限モード」がオンであることを示します。  は、「制限モード」がオフであることを示します。

- 「F\_CS\_fundtotal」および「F\_CS\_grandtotal」をシフトクリックします。オブジェクトの親の枠に届くまでこれらのオブジェクトを下に移動します。
- オブジェクト・ナビゲータの「**ディメンジョン繰返し枠**」ノードで「R\_G\_EMCO」をクリックします。

レイアウト・モデル表示内の R\_G\_EMCO 繰返し枠は、次の図のようになります。

		F_name1	
_emconame	F_description	F_amount	F_CS_xactotal
		CS_fundsubtotal	F_CS_emcototal
		F_CS_fundtotal	F_CS_grandtotal

- レイアウト・モデル表示内で、R\_G\_EMCO 繰返し枠が F\_CS\_fundtotal 枠および F\_CS\_grandtotal 枠の最上部に達するまで R\_G\_EMCO 繰返し枠を延長します。

その結果、次の図と同じようになります。

	F_name1	
_emconame	F_description	F_amount
		F_CS_xacttotal
		F_CS_fundsubtotal
		F_CS_emcototal
	F_CS_fundtotal	F_CS_grandtotal

12. 次の枠の端と端をつないで図のように並べます。

- F\_lastname
- F\_firstname
- F\_mi



13.  をクリックし、次にランタイム・パラメータ・フォームでもう1度クリックします。
14. レポートを `sect_542.rdf` という名前で保存します。

### 5.4.3 ボイラープレート・オブジェクトの追加

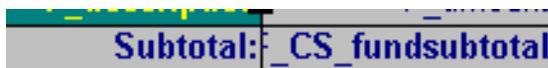


1. この作業に関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
ボイラープレート、~について
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
ボイラープレート・オブジェクトについて

1. レポートのレイアウト・モデル表示を表示します。

2.  をクリックしてボイラープレート・オブジェクトを作成します。その後で、F\_description のすぐ下の領域をクリックします。
3. 「Subtotal:」と入力します。
4.  をクリックします。

5. 必要に応じて次のように変更します。
  - ツールバーの「フォント」リスト・ボックスを使用してフォントを Arial に変更。
  - ポイント・サイズを 10 に変更。
  - フォント・スタイルをボールドに変更  をクリックします。
  -  をクリックして、カラーをダークブルー（dark blue）に変更。
6. 必要な場合は、ボイラープレート・オブジェクトが F\_CS\_Fundsubtotal のとなりになるようにボイラープレート・オブジェクトを配置します。その結果、次の図と同じようになります。



7. ステップ 2 ~ 6 を繰り返して、指定の特徴を持つ次のボイラープレート・オブジェクトを作成します。

**表 5-8 ボイラープレート・オブジェクト**

ボイラープレート	場所	テキストのカラー
Grand Total:	F_CS_fundtotal の右	黄色
Total Funds	F_CS_xacttotal の上	黄色

8.  をクリックし、次にランタイム・パラメータ・フォームでもう 1 度クリックします。レポートは次の図と同じようになります。



Page 1

Williams Clayton K

SSN: 545124200

Deferral Percentage: 15%

Vested Percentage: 100%

		Ancia Industrial	Anderson Trust	Boston GIC	Delta Index
Company Matching Account	Beginning Balance		\$455.24		
	Contributions		\$101.52		
	Subtotal:	\$0.00	\$556.76	\$0.00	\$0.00
Employee Contributions	Beginning Balance	\$1905.63			
	Contributions	\$1203.88			
	Dists./Withdrawals	\$22.50			
	Fund Income	\$999.98			
	Loan Interest	\$22.50			
	Subtotal:	\$4154.49	\$0.00	\$0.00	\$0.00
<b>Grand Total:</b>		<b>\$4154.49</b>	<b>\$556.76</b>	<b>\$0.00</b>	<b>\$0.00</b>

9. レポートの右をスクロールし、 をクリックします。

レポートには、1 ページにすべての列を表示できる幅がないため、2 ページに渡って作成されますので注意してください。後に、5.6 項「横方向および改ページの指定」で、このレイアウトの方向を横向きに変更して改ページを挿入します。その結果、レポートの 1 ページごとに 1 つのレコードが表示されるようになります。ただし、方向を変更する前に、レポート・ウィザードを使用して 2 番目のセクションにレイアウトを作成します。

10. レポートを sect\_543.rdf という名前で保存します。

## 5.5 2 番目のセクションに対するレイアウトの作成

この項のステップでは、レポートのヘッダー・セクションにサマリー用のレイアウトを作成します。レポート・ウィザードを使用してデフォルト・レイアウトを作成します。次に、レイアウト・モデル表示およびライブ・プレビューアで手動の調整を行います。

## 5.5.1 デフォルト・レイアウトの作成

1. レポートのレイアウト・モデル表示を表示します。
2. 「表示」「レイアウト・セクション」「ヘッダー・セクション」の順に選択します。
3. レポートのボディが表示されていることを確認してください。
4. 「ツール」「レポート・ウィザード」を選択します。
5. 「スタイル」ページで「Vesting Summary」を「タイトル」フィールドに入力し、「表」をクリックします。
6. 「次へ」をクリックします。
7. 「グループ」ページで、「使用可能フィールド」から「G\_acct」をクリックし、次に「下」をクリックします。
8. 「次へ」をクリックします。
9. 「フィールド」ページで lastname をクリックし、次に  をクリックします。次のフィールドに対してこのステップを繰り返します。
  - firstname
  - mi
  - ssn
  - pct\_vested
  - CS\_grandtotal
10. 「次へ」をクリックします。
11. 「ラベル」ページでラベルおよび幅を次のように変更します。

**表 5-9 ラベルおよび幅**

列	ラベル	幅
lastname	Last Name	8
firstname	First Name	6
mi	MI	1
ssn	SSN:	6
pct_vested	Vested Percentage	4
CS_grandtotal	Total Balance	6

12. 「次へ」をクリックします。

13. 「テンプレート」ページで事前定義済みのテンプレート「機密書類 (バックグラウンド)」を選択します。
14. 「完了」をクリックします。
15.  をクリックし、次にランタイム・パラメータ・フォームでもう1度クリックします。
16. 必要な場合は、 をクリックして「Vesting Summary」レポートを表示します。レポートは次の図のようになります。

### Vesting Summary

**Company Confidential - Internal Distribution ONLY** Report run on: August 5, 1998 4:06 PM

Last Name	First Name	MI	SSN	Vested Percentage	Total Balance
Williams	Clayton	K	545124200	100	4711.25
Costner	Robert	M	559014201	100	4328.65
Abers	Jeff	K	559014203	100	14919.87
Matsumoto	Charles	J	559014204	100	2534.07

17. レポートを sect\_551.rdf という名前で保存します。

## 5.5.2 ライブ・プレビューアでのレイアウトの調整

1. ライブ・プレビューアにおいて次のオブジェクトをシフトクリックし、次に  をクリックします。
  - Last Name
  - First Name
  - MI
  - SSN
  - Vested Percentage
  - Total Balance

2. フレックス・モードがオンになっていることを確認します。



ヒント:  は、フレックス・モードがオンであることを示します。 は、フレックス・モードがオフであることを示します。次のヘッダーの下のデータをシフトクリックします。

- Last Name
  - First Name
  - MI
  - SSN
  - Vested Percentage
  - Total Balance
3. 選択したオブジェクトの右下のコーナーをクリックし、枠の下側の角を約 0.25 インチ下にドラッグします。行と行の間の空間が広がったことに注目してください。次の前後 2 つの図を参照してください。

行間隔を増やす前のレポート:

Last Name	First Name	MI	SSN	Vested Percentage	Total Balance
Williams	Clayton	K	545124200	100	4711.25
Costner	Robert	M	559014201	100	4328.65
Abers	Jeff	K	559014203	100	4919.87
Matsumoto	Charles	J	559014204	100	2534.07

行間隔を増やした後のレポート:

Last Name	First Name	MI	SSN	Vested Percentage	Total Balance
Williams	Clayton	K	545124200	100	4711.25
Costner	Robert	M	559014201	100	4328.65
Abers	Jeff	K	559014203	100	4919.87
Matsumoto	Charles	J	559014204	100	2534.07

4. オブジェクト・ナビゲータとライブ・プレビューが並んで表示されるように作業領域を配置します。
5. オブジェクト・ナビゲータにおいて、「R\_G\_ACCT1」を「検索」フィールドに入力します。
6. ライブ・プレビューのタイトル・バーをクリックしてアクティブにします。
7. 「書式」「境界線」を選択し、「上」を選択して上境界をオフに切り替えます。オプションのとなりのチェックマークは、そのオプションがオンになっていることを表します。
8. 左および右に対してステップ7を繰り返します。下境界はオンのまま残ります。
9.  をクリックし、次に赤を選択します。その結果、データ行とデータ行の間に赤い線が引かれます。レポートは次の図と同じようになります。

### Vesting Summary

**Company Confidential - Internal Distribution ONLY** Report run on: August 5, 1998 4:13 PM

Last Name	First Name	MI	SSN	Vested Percentage	Total Balance
Williams	Clayton	K	545124200	100	4711.25
Costner	Robert	M	559014201	100	4328.65
Abers	Jeff	K	559014203	100	14919.87
Matsumoto	Charles	J	559014204	100	2534.07

10. レポートを sect\_552.rdf という名前で保存します。

## 5.6 横方向および改ページの指定

この項のステップでは、メイン・セクションで作成したレイアウトの方向を変更します。

**ヒント:** レポート・ウィザードを使用して複数のレイアウトを作成し、その方向設定を変更することを予定している場合は、すべてのレイアウトを作成した後で方向を変更してください。最初のレイアウトの方向を変更した後で、レポート・ウィザードを使用して2番目のレイアウトを作成すると、最初のレイアウトの方向はテンプレートに定義されている方向設定に戻ってしまいます。

1. オブジェクト・ナビゲータ内で、必要に応じて「**レイアウト・モデル**」ノードを拡張して「**メイン・セクション**」ノードをクリックし、「**ツール**」「**プロパティ・パレット**」を選択します。
2. 「**プロパティ・パレット**」の「**セクション**」ノードで、次を変更します。

表 5-10 「セクション」ノードのプロパティ設定

プロパティ	設定
幅	11
高さ	8.5
方向	Landscape

3. レポートのレイアウト・モデル表示を表示します。
4.  をクリックしてメイン・セクションを表示します。
5. レイアウト・モデル表示内で、ツールバーの  をクリックしてレポートのマージンを出し出す。

**ヒント:** レポートのマージンとボディを切り替えるには、 をクリックします。あるいは、「**表示**」「**レイアウト・セクション**」を選択します。「**マージン編集**」のとなりのチェックマークは、レイアウト・モデル表示がマージン・モードになっていることを表します。

6. レイアウトの最下部までスクロールして、ボディと下部マージンの境界をクリックします。
7. 垂直定規をガイドとして使用して7.5インチのマークのところまで境界線をドラッグし、領域のサイズを変更します。

**ヒント:** マージンを移動するのではなく、マージンのサイズを変更していることを確認してください。

8.  をクリックしてレポートのボディを出し出す。
9. レイアウト・モデル表示内で「lastname」フィールドをクリックします。

10.  をクリックして親枠を選択します。
11. 「**ツール**」「**プロパティ・パレット**」を選択します。
12. 「**繰返し枠**」ノードで、「ページ当りの最大レコード数」プロパティを1に設定します。

13.  をクリックし、次にランタイム・パラメータ・フォームでもう1度クリックします。
14. ツールバーの  をクリックして、前の項で作成したレイアウトを表示します。  
レポートを右へスクロールします。レポートの方向が変化したことに注目してください。レポートは1ページにすべての列を表示できます。ページ当たり1つのレコードのみが表示されていることにも注目してください。
15. レポートを `sect_560.rdf` という名前で保存します。

## 5.7 配布の指定

この項のステップでは、作成した次の2つのセクションの配布を指定します。

- 投資信託運用選択および付与された指定の歩合での従業員の勘定サマリーが表示された詳細レポート（従業員1人につき横方向で1ページ以上）
- 指定の利益が確定した全従業員の1ページのサマリー・レポート。

レポートは次の手順で配布します。

- 詳細セクションの2つのコピーを印刷します。
- 保護 Web サイトでのアクセス用に詳細セクションを HTML 形式にフォーマットします。
- サマリー・セクションを PDF にフォーマットします。

### 5.7.1 詳細セクションの配布指定

1. オブジェクト・ナビゲータで、「検索」フィールドに「メイン・セクション」と半角カタカナで入力します。
2. 「ツール」「プロパティ・パレット」を選択します。
3. 「配布」フィールドをクリックして「配布」ダイアログ・ボックスを表示します。従業員の会計情報の概要が示されているレポートに2つの配布出力先を指定します。
4. 「配布」ダイアログ・ボックスで、レポートを印刷するための配布を指定します。

**表 5-11 印刷されたメイン・セクションの配布設定**

フィールド	値
配布 ID	printdist
DESNAME	プリンタのパスと名前
DESFORMAT	BITMAP

表 5-11 印刷されたメイン・セクションの配布設定

フィールド	値
DESTYPE	Printer
COPIES	2

ヒント: プリンタを初めて DESTYPE として選択する場合、DESNAME はデフォルトのプリンタに自動的に設定されます。レポートを別のプリンタに送信する場合は、この値を変更してください。

5. 「新規作成」をクリックします。
6. 「配布」ダイアログ・ボックスで、HTML 出力用の配布を次のように定義します。

表 5-12 HTML バージョンでのメイン・セクションの配布設定

フィールド	値
配布 ID	htmldist
DESNAME	HTML 出力のパスおよびファイル名 (例、 c:¥sect_rep.htm)
DESFORMAT	HTML
DESTYPE	File
COPIES	1

7. 「OK」をクリックします。
8. レポートを sect\_571.rdf という名前で保存します。

## 5.7.2 サマリー・セクションの配布指定

1. 「オブジェクト・ナビゲータ」において、「ヘッダー・セクション」ノードを選択します。
2. 「ツール」 「プロパティ・パレット」を選択します。
3. 「プロパティ・パレット」の「セクション」ノードで、「配布」フィールドをクリックして「配布」ダイアログ・ボックスを表示します。

4. 「配布」ダイアログ・ボックスで、サマリー・セクションを PDF に送信するための配布を定義します。

表 5-13 PDF バージョンでのヘッダー・セクションの配布設定

フィールド	値
配布 ID	pdfdist
DESNAME	パスおよび pdf ファイル名 (例、c:¥sect_ rep.pdf)
DESFORMAT	PDF
DESTYPE	File
COPIES	1

5. レポートを sect\_572.rdf という名前で保存します。

**任意演習:**

E メールでの経営者サマリーの配布を設定してみてください。MAPI 準拠メール・アプリケーションをシステムに設定する必要があります。

### 5.7.3 レポートの配布

1. オブジェクト・ナビゲータ内でレポート名をクリックし、「ファイル」 「配布」を選択します。
2. ランタイム・パラメータ・フォーム内で  をクリックします。
3. 複数の宛先に配布することを確認するプロンプトが表示されたダイアログ・ボックスで、「続行」をクリックします。
4. プリンタ、ファイル・システムおよび Eメールの受信ボックスをチェックして、レポートが予定どおり配布されたことを確認します。

**任意演習:**

.DST ファイルを作成して配布を設定し、コマンド・ラインから配布を実行してみてください。

**ヒント:** レポートの配布をトレースできます。「ランタイム・トレース設定」ダイアログ・ボックス内の「配布」チェック・ボックスを選択すると、.DST ファイルと類似したトレース・ファイルが生成されます。

## 5.8 まとめ

完了しました。セクションのサンプル・レポートの作成が完了しました。この章で学習した内容は次のとおりです。

- データ・モデルの作成およびデータ・モデル表示での調整
- ランタイム・パラメータ・フォームの作成
- 詳細セクションに対するデフォルト・レイアウトの作成とレイアウト・モデル表示での調整
- サマリー・セクションに対するデフォルト・レイアウトの作成とレイアウト・モデル表示、ライブ・プレビューアでの調整
- レポート配布基準の指定

セクション作成と配布の追加情報は、オンライン・ヘルプを参照してください。



1. このトピックに関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
  2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
セクション化, ~について
  3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
レポートのセクション化について
-

## REF カーソル問合せのあるレポートの作成

この章で説明するレポートは、REF カーソルを使用するための Report Builder の機能の学習に役立つように設計されています。このレポートを作成するには、データ・モデル表示を使用して複数の問合せを含むデータ・モデルを作成した後に、レポート・ウィザードを使用してレポートのレイアウトを作成します。データ・モデル表示において詳細な調整を手動で行います。これから説明する例では、各地の港における使用可能な出荷コンテナの情報を表示する詳細レポートを作成します。

**REF カーソル問合せについて** REF カーソル問合せでは、データのフェッチに PL/SQL が使用されます。各 REF カーソル問合せは、強く型付けされた REF カーソルを戻す PL/SQL ファンクションに関連付けられています。PL/SQL ファンクションでは、確実に、REF カーソルがオープンし、REF カーソル型と一致する SELECT リストが存在する SELECT 文と関連付けられている必要があります。次のことを行うときに問合せの基準として REF カーソルを使用します。

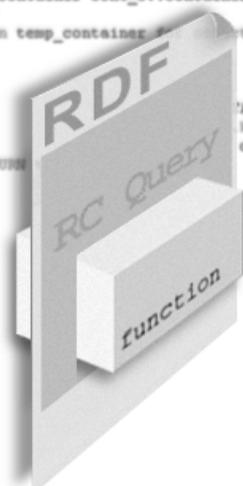
- より簡単な SQL の管理
- レポート内での文字パラメータの使用の回避
- Form Builder などの別のアプリケーションとのデータ・ソースの共有
- 制御とセキュリティの向上
- サブプログラム内のロジックの要約

また、REF カーソルをインプリメントするのにストアド・プログラム単位を使用する場合は、Oracle データベースへのプログラム単位の格納を同時に行えるという利点があります。

次の図には、レポートの REF カーソル問合せに SELECT 文を使用するレポートを作成する様子が示されています。また、データベース内のパッケージに SELECT 文を格納できることも示されています。したがって、データベースからのパッケージのコールをレポートから実行できるので、多数のレポートでパッケージを再使用できます。

表 6-1 「REF カーソル問合せのサンプル・レポートで学習する機能」に、このレポートの作成で実行するステップが記載されています。

```
function q_containerRefCurDS return cont_cv.container_refcur is
temp_container cont_cv.container_refcur;
begin
open temp_container for select c1.title, c.DOCLOC,
                        c.PORTID, c.REPNO,
                        c.STATUS, c.KEY,
                        c1.key key2, c.key, c.classid classid2
                        FROM CONTAINERS c, conlabel c1
                        where c1.key=c.key
                        order by c.REPNO;
RETURN temp_container;
end;
```



REF カーソル型および  
SELECT 文を定義する  
レポートを .RDF ファイルに作成  
する。6.1 および 6.2 を参照。



SELECT 文を .RDF からデータ  
ベースに格納されているパッケ  
ージに移動する。  
6.7 を参照。

パッケージをレポートに呼び出す  
REF カーソル問合せを  
レポート内に作成します。  
6.8 を参照。



ref.rdf ファイルには、この章の作業の終了後に作成するレポートが登録されています。作業の実行中にこのファイルを参照してください。また、

port\_container.pll は、ref.rdf に関連付けられたライブラリ・ファイルです。これらのファイルは、ORACLE\_HOME¥TOOLS¥DOC60¥US¥RBBR60 ディレクトリにあります。

**表 6-1 REF カーソル問合せのサンプル・レポートで学習する機能**

機能	項
REF カーソルを定義するパッケージ仕様部の作成	6.1 項「REF カーソル型の定義」
REF カーソルを使用する REF カーソル問合せの作成。	6.2 項「REF カーソル問合せの作成」
データ・モデル内のオブジェクトの名前を変更して、意味のある名前を指定。	6.3 項「データ・モデルの調整」
REF カーソル問合せ間にグループ間データ・リンクを作成して、REF カーソル問合せに関係を構築。	6.4 項「REF カーソル問合せ間のリンクの作成」
データを詳細に説明するサマリーの作成。	6.5 項「サマリー列の追加」
レポート・ウィザードを使用して、レポート・レイアウトを作成。	6.6 項「レイアウトの作成」
REF カーソル問合せで使用する SELECT 文を、レポートから REF カーソル型を定義するパッケージに移動。	6.7 項「パッケージへの SELECT 文の移動」
パッケージを PL/SQL ライブラリに移動して、別のレポートとコードを共有。	6.8 項「ライブラリへのパッケージの移動」

まず、Report Builder をオープンします。「前置き」ダイアログ・ボックスが表示された場合は、「新規レポートを手動で作成」をクリックしてから「OK」をクリックしてください。このダイアログ・ボックスが現れないときは、「ファイル」「新規作成」「レポート」を選択します。「手動で新規レポートを作成」をクリックし、次に「OK」をクリックします。

レポートを作成する前のある時点で、データベースにログインする必要が生じます。データベースに接続するには、「ファイル」「接続」を選択します。該当するログオン情報を入力します。詳細は、1.3 項「起動前のデータベース・アクセス権の取得」を参照してください。

## 6.1 REF カーソル型の定義

REF カーソル問合せを作成するには、まず、REF カーソルを定義するパッケージ仕様部を作成します。その後で、REF カーソルを使用する問合せを作成します。この項のステップでは、REF カーソルを定義するパッケージ仕様部を作成します。



1. この作業に関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
問合せ, 作成
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
ローカルの問合せの作成: 「REF カーソル問合せ」ツール

1. 「オブジェクト・ナビゲータ」で、UNTITLED レポート・ノードの「プログラム単位」ノードをクリックします。



2.  をクリックしてプログラム単位を追加します。
3. 「新規プログラム単位」ダイアログ・ボックスで、「concl\_cv」をプログラム単位の名前として入力します。
4. 「パッケージ仕様部」をクリックし、「OK」をクリックします。
5. 次のパッケージ仕様部定義をエディタに入力します。追加する必要がある新規コードは太字表記されています。

```
PACKAGE concl_cv IS
    type conclass_rec is RECORD
        (ccap number,
         classid number,
         gw1 number,
         tw1 number,
         htf number,
         hti number,
         notes varchar(50),
         teu number);
    type conclass_refcur is REF CURSOR return conclass_rec;
END;
```

このパッケージ仕様部では次の2つのことを行います。

- データベースから選択するデータを記述するレコード (conclass\_rec) を定義します。
- レコードによって記述されたフォーマットでデータを戻す REF カーソルを定義します。

6. 「コンパイル」をクリックします。
7. コンパイル・エラーが発生した場合は、構文エラーのコードをチェックして必要に応じてコンパイルを再実行します。
8. 「クローズ」をクリックします。
9. ステップ 2 ~ 8 を繰り返して、次の特性を持つパッケージ仕様部をあと 2 つ作成します。新規コードは太字表記になっています。

- **パッケージ仕様部名 :cont\_cv**

```
PACKAGE cont_cv IS
  type container_rec is RECORD
    (title varchar(40),
     dockloc varchar(10),
     portid number,
     repno varchar(10),
     status number,
     key varchar(10),
     key2 varchar(10),
     classid2 number);
  type container_refcur is REF CURSOR return container_rec;
END;
```

- **パッケージ仕様部名 :port\_cv**

```
PACKAGE port_cv IS
  type portdesc_rec is RECORD
    (portid number,
     locname varchar(10));
  type portdesc_refcur is REF CURSOR return portdesc_rec;
END;
```

10. 「ファイル」 「名前を付けて保存」を選択します。このレポートに ref\_61.rdf という名前を付けて、任意のディレクトリに保存します。

**ヒント:** レポートの設計段階では、レポートを異なるファイル名で頻繁に保存することをお勧めします。そうすれば、エラーが生じたり、変更した内容に問題がある場合でも、前に保存したファイルに簡単に戻ることができるので、その時点からの修正を加えるだけで済みます。

## 6.2 REF カーソル問合せの作成

この項で説明したように、REF カーソルを定義するパッケージ仕様部を作成すると、問合せを定義する準備が完了します。

1. オブジェクト・ナビゲータで  をダブルクリックしてデータ・モデル表示に移行します。
2.  をクリックします。
3. データ・モデル表示のメイン領域（キャンバス領域）内でクリックします。
4. プログラム単位エディタに、次の太字のコードを入力してファンクションを定義します。新規コードは太字表記になっています。

```
function q_portdescRefCurDS return port_cv.portdesc_refcur is
temp_portdesc port_cv.portdesc_refcur;
begin
  open temp_portdesc for select portid, locname from portdesc;
  return temp_portdesc;
end;
```

5. 「コンパイル」をクリックします。
  6. コンパイル・エラーが発生した場合は、構文エラーのコードをチェックして必要に応じてコンパイルを再実行します。
  7. 「クローズ」をクリックします。データ・モデル表示内にデータ・オブジェクトが表示されます。
  8. データ・モデル表示内で、REF カーソル問合せオブジェクト（QR\_1）をクリックし、次に「ツール」「プロパティ・パレット」を選択します。
  9. 「一般情報」ノードで、「名前」プロパティを次のように変更します。
- ヒント:** オブジェクトには常に意味のある名前を付けることをお勧めします。特に、多数のオブジェクトのあるレポートを作成するときには、意味のある名前を付けておくことと便利です。後にレイアウトを作成するとき、意味のある名前の問合せおよびグループが存在すると便利です。
10. [Enter] キーまたは [Return] キーを押すか、「プロパティ・パレット」内のその他のフィールドをクリックして、変更を受け入れます。
  11. 「プロパティ・パレット」をクローズします。
  12. ステップ 2 ~ 10 を繰り返して、次の特性を持つ問合せをあと 2 つ作成します。問合せを作成したら、必ず、プロパティ・パレットを使用して問合せの名前を変更してください。新規コードは太字表記になっています。

- 問合せ名:q\_container

```
function q_containerRefCurDS return cont_cv.container_refcur is
temp_container cont_cv.container_refcur;
begin
```

```

open temp_container for select cl.title, c.DOCKLOC,
                           c.PORTID, c.REPNO,
                           c.STATUS, c.key,
                           cl.key key2, c.classid classid2
from CONTAINERS c, conlabel cl
where cl.key=c.key
order by c.REPNO;

return temp_container;
end;

```

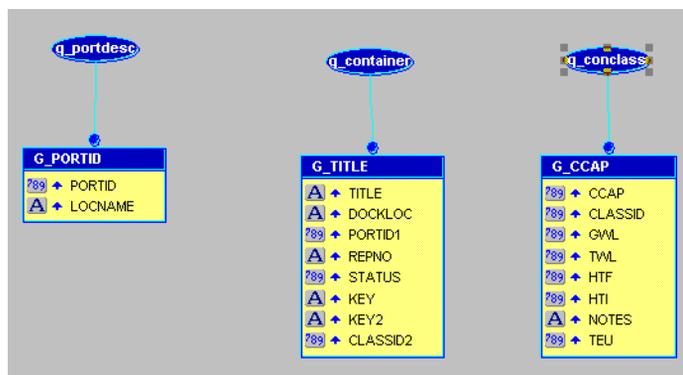
■ 問合せ名 :q\_conclass

```

function q_conclassRefCurDS return concl_cv.conclass_refcur is
temp_concl concl_cv.conclass_refcur;
begin
open temp_concl for select CCAP, CLASSID, GWL, TWL, HTF, HTI, NOTES, TEU
from CONCLASS;
return temp_concl;
end;

```

13. データ・モデルが、次の図と同じようになります。



14. レポートを ref\_62.rdf という名前で保存します。

## 6.3 データ・モデルの調整

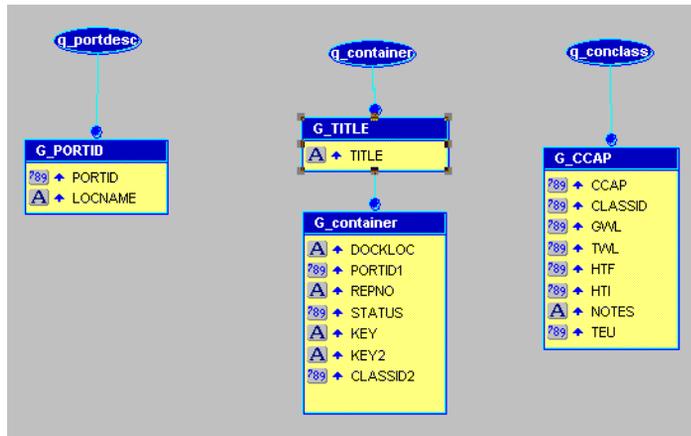
この項では、データ・モデル内の一部のオブジェクトの名前を変更して、オブジェクトに意味のある名前を指定します。また、ブレイク・グループも作成します。

1. データ・モデル表示内で、グループ G\_TITLE のタイトル・バーを数インチ下にドラッグしてグループ全体を移動します。

2. G\_TITLE を選択した状態で、「ツール」 「プロパティ・パレット」を選択します。
3. 「一般情報」ノードで、「名前」プロパティを次のように変更します。  
G\_container
4. [Enter] キーまたは [Return] キーを押すか、「プロパティ・パレット」内のその他のフィールドをクリックして、変更を受け入れます。
5. 「プロパティ・パレット」をクローズします。
6. 「TITLE」という名前の列をクリックしてドラッグし、G\_container の外部の上側に置き、新規のブレイク・グループを作成します。次の図を参照してください。

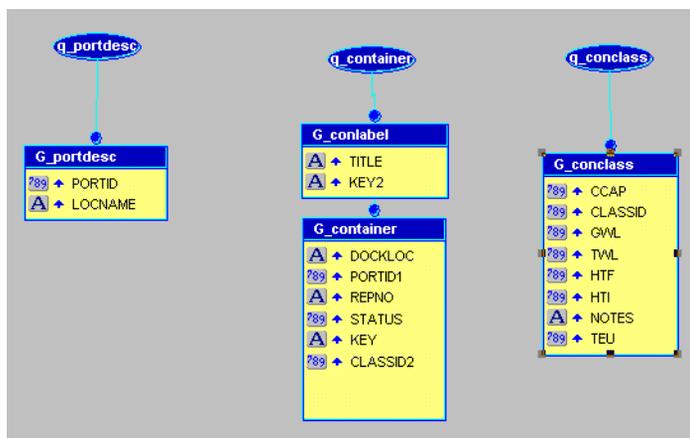


1. この作業に関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
ブレイク・グループ,作成
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
ブレイク・グループの作成



7. TITLE が含まれている新規グループ (G\_TITLE という名前になっているはずですが) のタイトル・バーをクリックし、「ツール」 「プロパティ・パレット」を選択します。
8. 「一般情報」ノードで、「名前」プロパティを「G\_conlabel」に変更します。
9. [Enter] キーまたは [Return] キーを押すか、「プロパティ・パレット」内のその他のフィールドをクリックして、変更を受け入れます。
10. 「プロパティ・パレット」をクローズします。

11. 「KEY2」を「G\_container」から「G\_conlabel」にドラッグ・アンド・ドロップします。「KEY2」が「G\_container」から削除されて、「G\_conlabel」に表示されます。
12. 「G\_PORTID」のタイトル・バーをクリックし、「ツール」「プロパティ・パレット」を選択します。
13. 「一般情報」ノードで「名前」プロパティを G\_portdesc に変更します。
14. [Enter] キーまたは [Return] キーを押すか、「プロパティ・パレット」内のその他のフィールドをクリックして、変更を受け入れます。
15. 「プロパティ・パレット」をクローズします。
16. 「G\_CCAP」のタイトル・バーをクリックし、「ツール」「プロパティ・パレット」を選択します。
17. 「一般情報」ノードで、「名前」プロパティを次のように変更します。  
G\_conclass
18. [Enter] キーまたは [Return] キーを押すか、「プロパティ・パレット」内のその他のフィールドをクリックして、変更を受け入れます。
19. 「プロパティ・パレット」をクローズします。
20. データ・モデル表示においてデータ・モデルが次の図と同じようになります。



21. レポートを ref\_63.rdf という名前で保存します。

## 6.4 REF カーソル問合せ間のリンクの作成

現在、作成した問合せに関連性はありません。問合せ間に関係を構築するには、グループ間データ・リンクを作成する必要があります。この項のステップでは、リンクを作成します。



1. この作業に関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
データ・リンク, 作成
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
データ・リンクの作成

1. データ・モデル表示内で、 をクリックします。
2. 「G\_portdesc」のタイトル・バーをクリックして、「G\_container」のタイトル・バーまでドラッグします。
3. 「q\_container」をダブルクリックします。プログラム単位エディタが表示されます。
4. ここで、SELECT 文の WHERE 句にコードを追加して、主キーおよび外部キーとして使用する列を指定します。

where cl.key=c.key の後に次のコードを追加します。

```
and :portid=c.PORTID
```

:portid は、G\_portdesc 内の PORTID を参照するバインド変数です。

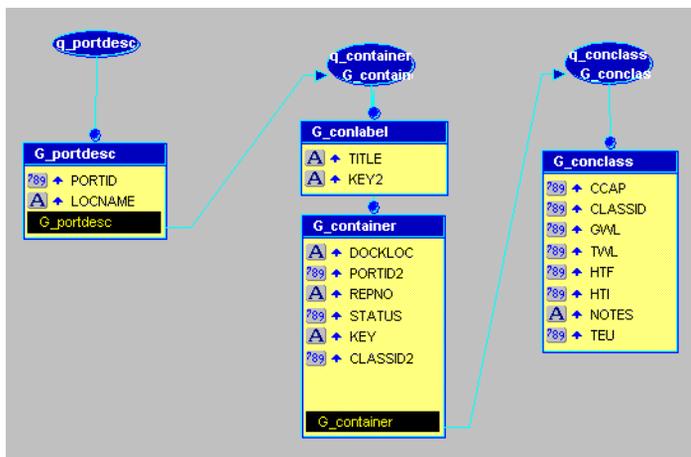
5. 「コンパイル」をクリックします。
6. コンパイル・エラーが発生した場合は、構文エラーのコードをチェックして必要に応じてコンパイルを再実行します。
7. 「クローズ」をクリックします。
8.  をクリックします。
9. 「G\_container」のタイトル・バーをクリックして、「G\_conclass」のタイトル・バーのところまでドラッグします。
10. 「q\_conclass」をダブルクリックします。
11. ここで、SELECT 文に WHERE 句を追加します。カーソルを FROM CONCLASS とセミコロン (;) の間に挿入し、[Enter] キーまたは [Return] キーを押して新しい行を作成します。
12. 次のコードを追加します。

```
where :classid2=conclass.classid
```

ヒント:セミコロン (;) の前に WHERE 句があることを確認します。

:classid2 は、G\_container 内の CLASSID2 を参照するバインド変数です。

13. 「コンパイル」をクリックします。
14. コンパイル・エラーが発生した場合は、構文エラーのコードをチェックして必要に応じてコンパイルを再実行します。
15. 「クローズ」をクリックします。
16. データ・モデルが、次の図と同じようになります。



17. レポートを ref\_64.rdf という名前で保存します。

## 6.5 サマリー列の追加

現在、問合せが完成しリンクが作成されています。この項のステップでは、データを集計する列を作成します。



1. この作業に関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
サマリー列, 列に対する作成
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
サマリー列の作成

1. データ・モデル表示内で、 をクリックします。
2. G\_container グループの内部をクリックします。これにより新しい列、CS\_1 が作成されます。
3. 新しく作成した列をダブルクリックして「プロパティ・パレット」をオープンします。
4. 「一般情報」ノードで、「名前」プロパティを次のように変更します。  
CS\_classcount
5. 「サマリー」ノードで、次の設定を変更します。

表 6-2 「サマリー」ノードのプロパティ設定

プロパティ	設定
関数	Count
ソース	KEY
リセット位置	G_container

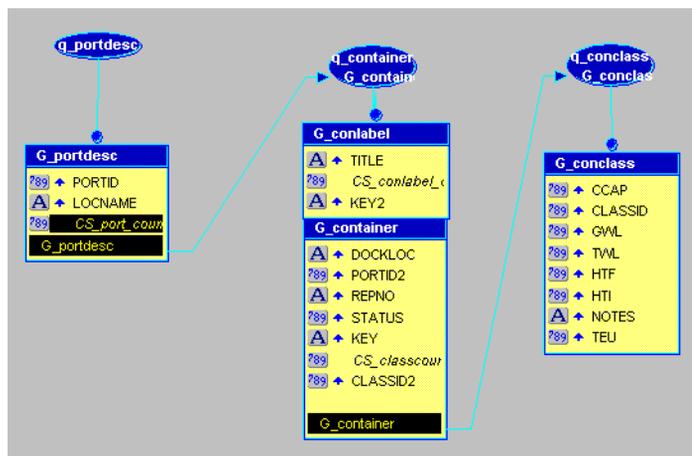
6. 「プロパティ・パレット」のその他のフィールドをクリックして、変更を受け入れます。
7. 「プロパティ・パレット」をクローズします。  
これで、コンテナ数を数えるサマリーが作成されました。レポートのレイアウト内ではサマリーを使用しませんが、後で他に対するソースとしてサマリーを使用します。
8. ステップ 1 ~ 5 を繰り返して、次の特性を持つサマリーを作成します。

表 6-3 「サマリー」プロパティ

作成グループ	名前	関数	ソース	リセット位置
G_conlabel	CS_conlabel_classcount	Sum	CS_classcount	G_conlabel
G_portdesc	CS_port_count	Sum	CS_conlabel_classcount	G_portdesc

これらのサマリーについてはまだ学習していません。これらのサマリーの目的は、レポート・レイアウトを作成してライブ・データをプレビューするときに説明します。

データ・モデルが、次の図と同じようになります。



9. レポートを ref\_65.rdf という名前で保存します。

## 6.6 レイアウトの作成

作業データ・モデルはすでにあるので、この項のステップではレイアウトを作成します。

1.  をクリックしてレポート・ウィザードを呼び出します。
2. 「スタイル」ページで、「Pacific Intermodal Leasing」をタイトルとして入力します。
3. レポート・スタイルとして「グループ上」をクリックします。
4. 「次へ」をクリックします。
5. 「グループ」ページで G\_conclass をクリックし、次に「下」をクリックします。
6. 次についてステップ 5 を繰り返します。
  - G\_container
  - G\_conlabel
  - G\_portdesc
7. 「次へ」をクリックします。
8. 「フィールド」ページで LOCNAME をクリックし、 をクリックします。

9. 次についてステップ8を繰り返します。

- TITLE
- DOCKLOC
- REPNO
- CLASSID2
- CCAP
- GWL
- TWL
- HTF
- HTI
- NOTES
- CS\_conlabel\_classcount
- CS\_port\_count

10. 「次へ」をクリックします。

11. 「ラベル」ページで、次の表に示すラベルおよび幅を入力します。

**表 6-4 ラベルおよび幅**

列	ラベル	幅
LOCNAME	Port of:	15
TITLE	Containers	20
DOCKLOC	Location	10
REPNO	ID	10
CLASSID2	Class	9
CCAP	Cu copy	9
GWL	Gross wt	9
TWL	Tare wt	9
HTF	Htf	9
HTI	Hti	9
NOTES	Notes	15
CS_conlabel_classcount	Total available:	8
CS_port_count	Total available:	15

12. 「次へ」をクリックします。
13. 「テンプレート」ページで「事前定義テンプレート」をクリックし、「緑グリッド (横)」を選択します。
14. 「完了」をクリックします。レポートは、自動的にライブ・プレビューアに表示されます。

#### Port of: Oakland

Containers	Total available	Location	ID	Class	Cu copy	Gross wt	Tare wt
20-foot	3	A14	APLU 2203	2210	2270	51300	4410
		B16	GSLU 2100	2210	2270	51300	4410
		A14	GSLU 2102	2210	2270	51300	4410
20-foot Flat Rack	2	F01	GSLU 1102	2250	2270	51300	4410
		F01	GSLU 1102	2250	2270	51300	4410
40-foot	7	H42	APLU 7014	4300	2290	66500	8200
		C42	APLU 7014	4300	2290	66500	8200
		H23	GSLU 4110	4300	2290	66500	8200
		C23	GSLU 4110	4300	2290	66500	8200
		H20	GSLU 4111	4300	2290	66500	8200
		H22	RTTU 4200	4300	2290	66500	8200
40-foot Flat Rack	1	H22	RTTU 4200	4300	2290	66500	8200
		F02	GSLU 1400	4250	2270	51300	4410
40ft. Refrigerated	2	H23	APLU 2604	4332	2306	67000	8400
		H20	GSLU 2600	4332	2306	67000	8400
45-foot	6	G43	APLU 4500	9520	2594	67200	8400
		G44	APLU 4501	9510	2594	67200	8400

15. レポートを ref\_66.rdf という名前で保存します。

## 6.7 パッケージへの SELECT 文の移動

現行のレポート構成では、REF カーソル問合せによって使用される SELECT 文はレポート内に置かれています。多くの場合、REF カーソル型を定義するパッケージ内に SELECT 文を配置しておくことが有利です。これにより、同じ SELECT 文を使用するレポートそれぞれに SELECT 文を直接入力しなくても、パッケージを簡単に参照できるようになります。SELECT 文を変更 (たとえば、句を修正または追加) する必要がある場合は、パッケージ内で SELECT 文を単純に 1 度更新するのみです。各レポートで更新する必要はありません。

この項のステップでは、REF カーソル問合せを定義するパッケージに SELECT 文を移動します。

1. オブジェクト・ナビゲータでレポートの「プログラム単位」ノードをクリックします。



2.  をクリックしてプログラム単位を追加します。
3. 「新規プログラム単位」ダイアログ・ボックスで、プログラム単位の名前として「cont\_cv」を入力します。

4. 「**パッケージ本体**」をクリックし、「OK」をクリックします。
5. 次のコードをエディタに入力します。新規コードは太字表記になっています。

```
PACKAGE BODY cont_cv IS
function query_container (p_portid number) return container_refcur is
    tempcv_container cont_cv.container_refcur;
begin
open tempcv_container for select cl.title, c.DOCKLOC,
                                c.PORTID, c.REPNO,
                                c.STATUS, c.key,
                                cl.key key2, c.classid classid2
from CONTAINERS c, conlabel cl
where cl.key=c.key
and p_portid=c.PORTID
order by c.REPNO;

return tempcv_container;
end;
END;
```

6. 「**コンパイル**」をクリックします。
7. コンパイル・エラーが発生した場合は、構文エラーのコードをチェックして必要に応じてコンパイルを再実行します。
8. 「**クローズ**」をクリックします。
9. これでファンクションが定義されました。このファンクションをパッケージに追加して参照できるようにします。その他のプログラム単位がパッケージ本体内のファンクションを認識するのは、パッケージ仕様部にファンクションが記述されている場合のみです。

オブジェクト・ナビゲータで「CONT\_CV(Package Spec)」オブジェクトをダブルクリックします。

10. プログラム単位エディタで、END; 文の上に次の行を入力します。

```
function query_container (p_portid number) return container_refcur;
```

11. 「**クローズ**」をクリックします。
12. 「**プログラム**」「**コンパイル**」「**すべて**」を選択します。
13. 終了したら、「OK」をクリックします。
14. オブジェクト・ナビゲータで、「**プログラム単位**」オブジェクトの下にある「Q\_CONTAINERREFCURDS」をダブルクリックします。
15. コードを次のように編集します。

```
function q_containerRefCurDS return cont_cv.container_refcur is
temp_container cont_cv.container_refcur;
```

```
begin
    temp_container:=cont_cv.query_container (:portid);
    return temp_container;
end;
```

終了すると、問合せのロジックはすべて、query\_container という名前のファンクション内に置かれます。この後は、query\_container を変更するとき、この問合せおよびこの問合せを参照するその他の問合せを変更します。

16. 「コンパイル」をクリックします。
17. コンパイル・エラーが発生した場合は、構文エラーのコードをチェックして必要に応じてコンパイルを再実行します。
18. 「クローズ」をクリックします。
19.  をダブルクリックして、「ライブ・プレビューア」にレポートを表示します。
20. レポートを ref\_67.rdf という名前で保存します。

任意演習：

レポート内の他の 2 つの問合せについてステップ 1 ~ 19 を繰り返します。

## 6.8 ライブラリへのパッケージの移動

同一の REF カーソル型および SELECT 文を使用する多数のレポートが存在する場合は、ファイルまたはデータベースに格納されている PL/SQL ライブラリ内に作成したプログラム単位を移動することにより、別のレポートでコードを容易に共有できます。この項のステップでは、プログラム単位を PL/SQL ライブラリに移動します。

1. 「オブジェクト・ナビゲータ」で「PL/SQL ライブラリ」のオブジェクトをクリックします。
2.  をクリックして新規ライブラリを追加します。
3. 「ファイル」 「名前を付けて保存」を選択します。
4. 「PORT\_CONTAINER」をライブラリとして入力します。
5. 「ファイル・システム」をクリックします。
6. 「OK」をクリックします。
7. 次に示すレポートのプログラム単位を、新規に作成した PORT\_CONTAINER ライブラリの「プログラム単位」ノードにドラッグ・アンド・ドロップします。
  - CONCL\_CV(Package Spec)

- CONT\_CV(Package Spec)
  - CONT\_CV(Package Body)
  - PORT\_CV(Package Spec)
8. PORT\_CONTAINER を保存します。
  9. 「ライブ・プレビューア」をオープンしている場合は、クローズしてください。
  10. オブジェクト・ナビゲータにおいて、レポートの「**プログラム単位**」ノードで「CONCL\_CV(Package Spec)」、 「CONT\_CV(Package Spec)」、 「CONT\_CV(Package Body)」および「PORT\_CV(Package Spec)」を削除します。  
  
**ヒント:** レポートからパッケージを削除するときに「ライブ・プレビューア」がオープンしていると、エラーが発生する可能性があります。
  11. レポートの「**連結ライブラリ**」ノードをクリックします。
  12.  をクリックして新規連結ライブラリを追加します。
  13. 「連結ライブラリ」ダイアログ・ボックスで「ファイル・システム」をクリックします。
  14. 「参照」をクリックして PORT\_CONTAINER ライブラリを検索します。PORT\_CONTAINER ライブラリのファイル拡張子は、.PLL です。検索が完了して「PORT\_CONTAINER」が選択されたら、「開く」をクリックします。
  15. 「連結」をクリックします。
  16. 「プログラム」 「コンパイル」 「すべて」を選択します。
  17. 「OK」をクリックして「コンパイル」ウィンドウをクローズします。
  18.  をダブルクリックしてレポートを表示します。  
  
**ヒント:** レポートを表示するときにエラーが生じた場合は、ステップ 16 ~ 18 を繰り返してください。
  19. レポートを ref\_68.rdf という名前で保存します。

**任意演習:**

PL/SQL ライブラリをファイルではなくデータベースに格納してください。このオプション演習を完了するには、データベースでの「作成」権限が必要です。

## 6.9 まとめ

完了しました。REF カーソル問い合わせのサンプル・レポートの作成が完了しました。この章で学習した内容は次のとおりです。

- REF カーソルを定義するパッケージ仕様部の作成

- REF カーソル問合せの作成
- REF カーソル問合せ間のデータ・リンクの作成
- データを説明するサマリーの作成
- レポート・レイアウトの作成
- パッケージへの SELECT 文の移動
- PL/SQL ライブラリへのパッケージの移動

REF カーソル使用の追加情報は、オンライン・ヘルプを参照してください。



1. このトピックに関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」  
「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
REF カーソル, ~について
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
PEF カーソル問合せについて



---

## Express データを使用したレポート作成

この章で説明するレポートは、Express データの Report Builder 機能を学習する目的で設計されています。ここでは、ある製品区分について地域および販売経路別の年間売上予測と実績をまとめた Express レポートを作成します。

このレポートを作成するため、まずレポート・ウィザードを使用して初期データ・モデルとレポート・レイアウトを作成します。次に、データ・モデルと Express クエリーを修正します。最後に、レイアウト・モデル表示およびライブ・プレビューでレポートの外観を拡張します。

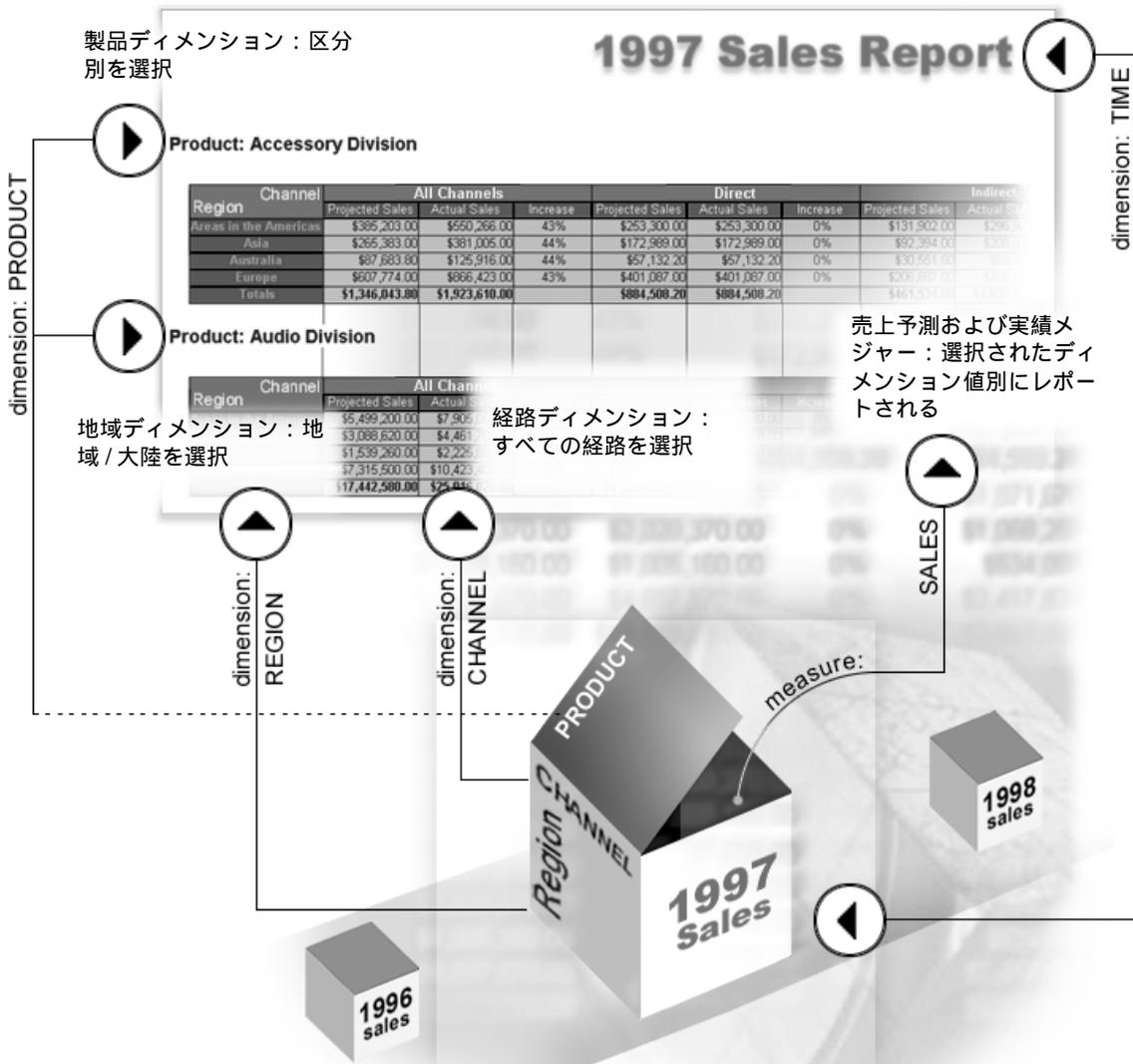
**Express について** Express では、多次元データ・モデルを使用したオンライン分析処理 (OLAP) を実現できます。このモデルは、企業データ (売上、マーケティング、財務変数など) を交差させて、その傾向やパターンを分析できるように最適化されています。

次のページの図は、これから作成する 1997 年度売上レポートを示します。キューブにはデータが入っていて、この中から抽出するデータを決定します。キューブの各面は、カテゴリ (たとえば製品) に含まれる可変データのリストを表します。このカテゴリとその値リストを合わせてディメンションと呼びます。各ディメンションの部分を選択して、選択部分と他のディメンションとの相互作用を分析します。このような分析をメジャーと言います。

売上を分析するメジャーの例では、時間、製品、地域区分、経路の各ディメンションからデータを選択します。Express では、問合せを作成するとき、表示する情報の範囲を広げること (たとえば全域で販売された製品の年間直接売上および間接売上) も、狭めること (たとえばカリフォルニア州で販売されたテレビの月次直接売上) もできます。

表 7-1 「Express データのサンプル・レポートでデモする機能」は、このレポートの作成ステップを示します。

時間ディメンション：1997  
年度売上を選択



xprs.rdf ファイルには、この章での作業によって最終的に作成されるレポートが入っています。作業の実行中にこのファイルを参照してください。このファイルは、ORACLE\_HOME¥TOOLS¥DOC60¥US¥RBBR60 ディレクトリにあります。

**表 7-1 Express データのサンプル・レポートでデモする機能**

機能	項
レポート・ウィザードを使用して Express クエリーを定義し、レポートの最初のドラフトを作成。	7.1 項「レポート・ウィザードによる Express レポートの作成」
ディメンション値を指定して、Express クエリーの効率を向上。	7.2 項「Express クエリーの修正」
データ・モデル表示を使用して、サマリーおよび計算合計値を追加。	7.3 項「データ・モデルへのサマリー列およびカスタム・メジャーの追加」
サマリーおよび計算合計値をレポート・レイアウトに追加。レポートの外観を拡張。	7.4 項「レポート・レイアウトの拡張」

この Express レポートを作成する前に、Oracle OLAP Server R6.2 および Oracle8 Server for Windows NT Object Option R8.0.5 以上の環境で動作するように Report Builder を設定してください。設定の詳細は『スタート・ガイド』マニュアルを参照してください。

まず、Report Builder をオープンします。「ようこそ」ダイアログ・ボックスが表示されたら、「**レポートウィザードを使う**」をクリックし、「OK」をクリックします。このダイアログ・ボックスが現れないときは、「**ファイル**」 「**新規作成**」 「**レポート**」を選択します。「**レポートウィザードを使う**」をクリックし、「OK」をクリックします。

レポートを生成する前の段階で、Oracle8 データベースにログオンする必要があります。データベースに接続するには、「**ファイル**」 「**接続**」を選択します。ここで、適切なログオン情報を入力します。詳細は、「1.3 項「**起動前のデータベース・アクセス権の取得**」」を参照してください。

さらに、ある時点で Oracle OLAP Server にも接続する必要があります。Oracle OLAP Server に接続するには、「**ファイル**」 「**Express**」-「**接続**」を選択します。

## 7.1 レポート・ウィザードによる Express レポートの作成

レポート・ウィザードはレポート作成を開始する上で有効な手段です。レポート・ウィザードを使用するだけでも、ユーザーの要件を満たす Express レポートを作成できます。レポート・ウィザードで作成したレポートが不十分な場合は、データ・モデル表示、ライブ・プレビューおよびレイアウト・モデル表示を使用すれば、レポートを調整することができます。

す。このレポートでは、最初にレポート・ウィザードを使用します。この項に示すステップに従って、初期レポートを作成します。



1. この作業に関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
レポート・ウィザード, ~について
3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
レポート・ウィザード: 前置きページ

この例では、各製品区分に関する地域、経路別の月次売上予測および実績を提示するレポートを作成します。Express へのクエリーでは 2 つのメジャーを使用します。それぞれのメジャーは製品、時間、地域および経路のディメンションで構成されます。

1. レポート・ウィザードの「ようこそ」ページが表示されたら、「次へ」ボタンをクリックします。
2. 「スタイル」ページで、タイトルに「Sales Report」と入力し、レポート・スタイルとして「グループ別マトリックス」をクリックします。

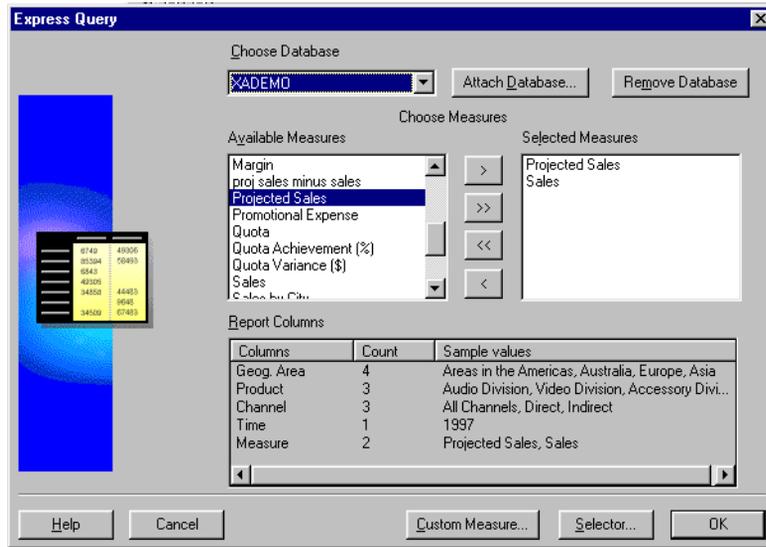
**ヒント:** ウィザード各ページでの作業内容がわからないときは、「ヘルプ」ボタンをクリックしてください。

3. 「次へ」をクリックします。
4. 「タイプ」ページで「Express クエリー」をクリックして「次へ」ボタンをクリックします。「タイプ」ページが表示されない場合は、Express データで動作するように Report Builder を設定したかどうかを確認してください。
5. 「データ」ページで「Express クエリー」をクリックします。

**ヒント:** まだ Oracle OLAP Server に接続していない場合は「接続」ダイアログ・ボックスが現れます。アクセスする Oracle OLAP Server インスタンスを選択します。「OK」をクリックします。

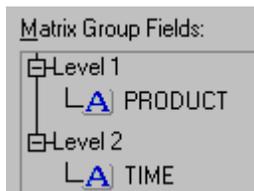
6. 現在のセッションに接続するデータベースのパスと名称を選択するため、「Express クエリー」ダイアログ・ボックスで「データベースのタッチ」ボタンをクリックします。
7. 「データベースにタッチ」ダイアログ・ボックスで、ディレクトリ「/oec62/」を選択します。次に「xademo.db」を選択します。これは、Oracle OLAP Server に供給されているサンプル・データベースです。
8. 「オープン」をクリックすると、現在のセッションにデータベースが接続します。
9. 「Express クエリー」ダイアログ・ボックスで [Ctrl] キーを押しながらマウスをクリックして、「利用可能なメジャー」リストから「Sales」と「Projected Sales」を選択します。
10.  をクリックすると、「Sales」および「Projected Sales」は「選択済みのメジャー」リスト・ボックスに移動します。「Express クエリー」ダイアログは次のようになりま

す。



11. Express クエリーの選択内容を受け入れるには、「OK」ボタンをクリックします。この後のステップで、「Sales」および「Projected Sales」のメジャーに関連するディメンション値を修正するときこのダイアログ・ボックスに戻ります。
12. 「データ」ページで「次へ」ボタンをクリックします。  
**ヒント:** まだ Oracle8 データベースに接続していない場合は「接続」ダイアログ・ボックスが現れます。ユーザー名、パスワード、データベースを入力します。「OK」をクリックします。
13. 「グループ」ページで、「使用可能フィールド」リスト・ボックスの「PRODUCT」を選択して  をクリックします。このフィールドは「マトリックス・グループ・フィールド」リスト・ボックスに移動します。

14. 「TIME」も同じように移動させます。この結果、「マトリックス・グループ・フィールド」ボックスは次のように表示されます。



15. 「次へ」をクリックします。
16. 「行」ページで「GEOG\_AREA」をクリックします。
17.  をクリックします。
18. 「次へ」をクリックします。
19. 「列」ページで、「使用可能フィールド」リスト・ボックスにある「CHANNEL」をクリックします。
20.  をクリックします。
21. 「次へ」をクリックします。
22. 「セル」ページで、「使用可能フィールド」リスト・ボックスの「PROJECTED SALES」を選択して  をクリックします。このフィールドは「マトリックス・セル・フィールド」リスト・ボックスに移動します。
23. 「SALES」も同じように移動させます。
24. 「合計」ページで「次へ」ボタンをクリックします。サマリー合計の追加はこの後のステップで行います。
25. 「ラベル」ページで、ラベルと幅を次のように変更します。

**表 7-2 ラベル**

フィールド	ラベル	幅
SALES	Actual Sales	7
PROJECTED_SALES	Projected Sales	7
GEOG_AREA	Region	10
PRODUCT	Product:	10
TIME	Time:	10
CHANNEL	Channel	7

**ヒント:** この後のステップで新しいレイアウト列を追加するので、ラベルの幅はここで変更してください。現行のデフォルト幅の 10 ポイントでは列が次のページに渡ってしまいます。

26. 「テンプレート」ページで、「事前定義テンプレート」が選択されていなければ選択して、リスト・ボックスの「緑グリッド(横)」をクリックします。
27. 「完了」をクリックします。このレポート出力はライブ・プレビューに自動表示されます。その表示は次の図のようになります。



### Sales Report

**Product: All Products**

**Time January 1997**

Region	Channel	All Channels		Direct		Indirect	
		Projected Sales	Actual Sales	Projected Sales	Actual Sales	Projected Sales	Actual Sales
Regions of the World		3262780	3769590	4068760	4068760	5194020	4700840
Areas in the Americas		2768420	2620110	1206540	1206540	1561880	1413570
Australia		782334	740387	340566	340566	441768	399821
Europe		3982740	3773570	1779840	1779840	2202900	1993730
Asia		1729280	1635520	741808	741808	987477	393714

**Time February 1997**

Region	Channel	All Channels		Direct		Indirect	
		Projected Sales	Actual Sales	Projected Sales	Actual Sales	Projected Sales	Actual Sales
Regions of the World		3651570	3820240	4091390	4091390	5560180	4728850
Areas in the Americas		2906480	2654540	1221440	1221440	1685040	1433100
Australia		331751	759259	346904	346904	484846	412355
Europe		4154330	3800660	1788890	1788890	2365450	2011780
Asia		1759010	1605780	734164	734164	1024850	371616

28. 「ファイル」 「名前を付けて保存」を選択します。レポートを任意のディレクトリに保存し、レポート名を xprs\_710.rdf とします。

**ヒント:** レポートの設計段階では、レポートを異なるファイル名で頻繁に保存することをお勧めします。そうすれば、エラーが生じたり、変更した内容に問題がある場合でも、前に保存したファイルに簡単に戻ることができるので、その時点からの修正を加えるだけで済みます。

## 7.2 Express クエリーの修正

この項に示すステップに従って、Express クエリーを修正します。ここまでの作業で、ある製品カテゴリに関する地域、経路別の月次売上予測および実績を示すレポートを開発しました。しかし実際は、ある製品区分について経路、地域別の年間売上予測および実績が知りたいとします。これを実現するには、表示するディメンションの値を制限します。



1. この作業に関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
データの選択
3. 「検索結果」ダイアログ・ボックスで次の項目を選択します。  
データの選択
4. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
データの選択

この例では、「Express クエリー」ダイアログ・ボックスで次のディメンション値を指定します。

- 1997 年の売上予測および実績
  - 地域（アジア、アメリカ大陸など）
  - 製品区分（アクセサリ、オーディオ区分など）
1. ライブ・プレビューアで、「ツール」 「レポート・ウィザード」を選択します。
  2. 「データ」ページで「Express クエリー」をクリックします。
  3. 「Express クエリー」ダイアログ・ボックスで「セレクト」ボタンをクリックします。
  4. 「セレクト」ダイアログ・ボックスで、ディメンション・オプションの「Time Period」をクリックします。
  5. リスト・ツールを選択するため、ツールバーの  をクリックします。
  6. 「リスト」ダイアログ・ボックスで、「使用可能な Time Period」リスト・ボックスから「1997」を選択します。
  7. 「選択」をクリックします。それまでの選択内容に代わって「1997」が表示されます。
  8. 「OK」をクリックします。
  9. 「セレクト」ダイアログ・ボックスで、ディメンション・オプションの「Geographical Area」をクリックします。
  10. レベル・ツールを選択するため、ツールバーの  をクリックします。
  11. 「レベルで選択」ダイアログ・ボックスで、「レベル」リスト・ボックスの「Continents/Regions」を選択します。

12. 「OK」をクリックします。
13. 「セクタ」ダイアログ・ボックスで、ディメンション・オプションの「Product」をクリックします。
14.  をクリックします。
15. 「レベルで選択」ダイアログ・ボックスで、「レベル」リスト・ボックスの「Divisions」を選択します。
16. 「OK」をクリックします。
17. 「セクタ」ダイアログ・ボックスで「OK」ボタンをクリックします。
18. 「Express クエリー」ダイアログ・ボックスで「OK」ボタンをクリックします。
19. 「グループ」ページで、「マトリックス・グループ・フィールド」リスト・ボックスの「TIME」をクリックします。この Express クエリーでは 1997 年度の集約データのみを取り出すので、「TIME」をブレイク・グループとして使用する必要はなくなりました。
20.  をクリックします。「マトリックス・グループ・フィールド」リスト・ボックスに表示されるディメンションは「PRODUCT」のみになります。
21. 「スタイル」ページで、タイトルを「1997 Sales Report」に変更します。
22. 「完了」をクリックします。このレポートは、次の図のようになります。



1997 Sales Report

### Product: Audio Division

Region	Channel	All Channels		Direct		Indirect	
		Projected Sales	Actual Sales	Projected Sales	Actual Sales	Projected Sales	Actual
Areas in the Americas		5499200	7905060	3627530	3627530	1871670	4277530
Australia		1539260	2225800	1005160	1005160	534098	1220638
Europe		7315500	10423400	4897670	4897670	2417830	5525738
Asia		3088620	4461760	2020370	2020370	1068250	2441338

### Product: Video Division

Region	Channel	All Channels		Direct		Indirect	
		Projected Sales	Actual Sales	Projected Sales	Actual Sales	Projected Sales	Actual
Areas in the Americas		3753910	5464250	2497840	2497840	1256070	2966410
Australia		1107870	1615480	735078	735078	372791	880406
Europe		3051910	3739450	4078190	4078190	1973720	4661260

23. レポート名を `xprs_720.rdf` という名前で保存します。

24. このレポートと、前に `xprs_710.rdf` の名前で保存したレポートを比較してみてください。

その際、売上予測と実績に注目します。新しいレポートの各セルには、ある製品区分に関する地域と経路の1997年度年間売上が示されています。一方、前のレポートでは、ある製品区分に関する地域と経路の月次売上データが表示されます。

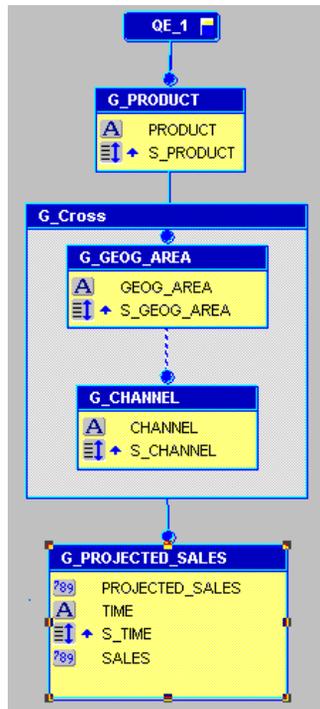
## 7.3 データ・モデルへのサマリー列およびカスタム・メジャーの追加

この項に示すステップに従って、ある製品区分に関する経路別サマリー合計が含まれるようにデータ・モデルを調整します。さらに、売上実績に対して売上予測がどのくらい正確だったかを知りたいとします。そのために、売上が売上予測を上回ったパーセントを計算するカスタム・メジャーを作成します。

まず、データ・モデル表示でサマリー・ツールを使用してサマリー列を作成します。

次に、「Express クエリー」ダイアログ・ボックスでカスタム・メジャー・ツールを使用してカスタム・メジャーを作成します。

作業を始める前に、データ・モデルについて概説します。



データ・モデル表示を見ると、S\_GEOG\_AREA や S\_CHANNEL の列が

追加されていることがわかります。これらはディメンション・ソート列です。ディメンション・ソート列はデータ・モデルにのみ表示され、ディメンションをアルファベット順ではなく論理順序でソートするとき使用する索引です。列を新規グループに移動するときは、関連するソート列もそのグループに移動させる必要があります。



1. この作業に関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
ディメンションのソート
3. 「検索結果」ダイアログ・ボックスで次の項目を選択します。  
ディメンションのソート
4. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
ディメンションのソート

この後のステップで、「Express クエリー」ダイアログ・ボックスで「ソート」ツールを使用してディメンション値をソートします。

### 7.3.1 データ・オブジェクト名の変更

1. データ・モデル表示を実行していない場合は、オブジェクト・ナビゲータで対象レポートのノードの  をダブルクリックします。
2. 「QE\_1」をクリックします。
3. 「ツール」 「プロパティ・パレット」を選択します。  
 ヒント: 作成した Express クエリーを変更する場合は、「問合せ」ノードの「Express への問合せプロパティ」をクリックします。
4. 「一般情報」ノードの「名前」プロパティを QE\_SALES に変更します。
5. [Enter] キーを押すかプロパティの外側をクリックすると、値が受け入れられます。「プロパティ・パレット」をクローズします。
6. ステップ 2 ~ 5 を繰り返して、G\_PROJECTED SALES グループの「名前」プロパティを G\_SALES\_DATA に変更します。
7. レポート名を xprs\_731.rdf という名前で保存します。

### 7.3.2 サマリー列の作成

この例では、G\_Cross グループにサマリー列を 2 つ追加します。各サマリー列では、ある製品区分に関する経路ごと（すべての経路、直接、間接）の売上予測および実績の合計を計算します。

1. データ・モデル表示で  をクリックし、次に G\_Cross グループをクリックします。
2. 「ツール」 「プロパティ・パレット」を選択します。
3. 売上予測には次のプロパティを設定します。

表 7-3 「Projected Sales」の「サマリー列」プロパティ

ノード	プロパティ	値
一般情報	名前	CS_PjSalesPerChannel
列	積順序	G_CHANNEL
まとめ	ソース	PROJECTED_SALES
	リセット位置	G_CHANNEL

4. [Enter] キーを押すかプロパティの外側をクリックすると、値が受け入れられます。「プロパティ・パレット」をクローズします。

- ステップ 1 ~ 4 を繰り返して、売上実績のサマリー列を作成します。次のプロパティを設定します。

表 7-4 「Actual Sales」の「サマリー列」プロパティ

ノード	プロパティ	値
一般情報	名前	CS_SalesPerChannel
列	積順序	G_CHANNEL
まとめ	ソース	SALES
	リセット位置	G_CHANNEL

- レポート名を `xprs_732.rdf` という名前で保存します。

### 7.3.3 カスタム・メジャーの作成

この例では、各製品区分について地域ごとに売上実績が売上予測を上回ったパーセントを計算するカスタム・メジャーを作成します。作業としては、「Express クエリー」ダイアログ・ボックス内のカスタム・メジャー・ツールを使用して「Increase」という新規メジャーを作成します。

- データ・モデル表示で「QE\_Sales」問合せオブジェクトをダブルクリックすると、「Express クエリー」ダイアログ・ボックスがオープンします。
- 「Express クエリー」ダイアログ・ボックスの下部にある「カスタム・メジャー」ボタンをクリックします。
- 「新規作成」をクリックします。「カスタム・メジャー - 新規」ダイアログ・ボックスがオープンします。
- 「名前」ボックスに INCREASE と入力します。
- 「説明」ボックスに Increase と入力します。
- 「カテゴリ」ボックスの「演算子」の下にある「テンプレート」をクリックします。「選択肢」の下にテンプレートのリストが表示されます。
- 左カッコを選択して「挿入」をクリックします。「式」ボックスに左カッコが表示されます。
- 「カテゴリ」ボックスの「Express Objects」の下にある「メジャー」をクリックします。
- 「F.SALES」を選択して、「挿入」をクリックします。

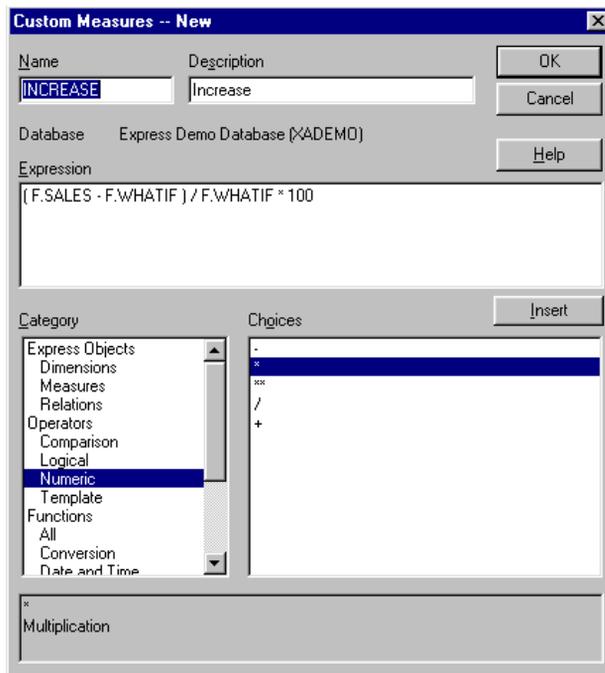
10. 次の表のとおりに式を作成します。

**表 7-5 カスタム・メジャー「Increase」のカテゴリおよび選択肢**

カテゴリ	サブ項目	選択	または次のように入力
演算子	数値	マイナス符号	-
Express Objects	メジャー	F.WHATIF	F.WHATIF
演算子	テンプレート	右カッコ	)
演算子	数値	スラッシュ	/
Express Objects	メジャー	F.WHATIF	F.WHATIF
演算子	数値	アスタリスク	*

11. 「式」ボックスで、アスタリスクの後ろに「100」を入力します。

12. ここまで終了すると、式は次の図のようになります。



13. 「OK」ボタンをクリックします。「カスタム・メジャー」ダイアログ・ボックスの「カスタム・メジャー」テキスト・ボックスに「Increase」が表示されます。

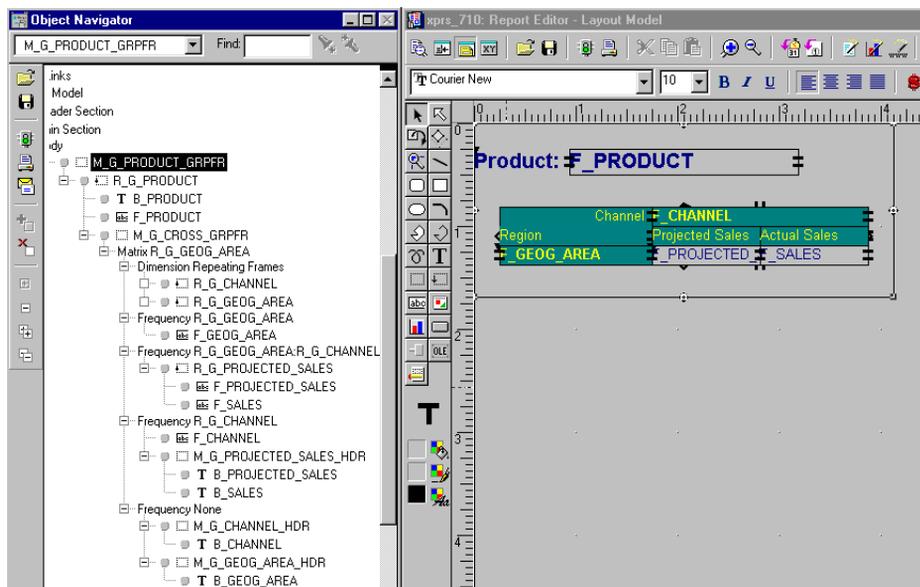
14. 「クローズ」ボタンをクリックします。
15. 「Express クエリー」ダイアログ・ボックスで、「利用可能なメジャー」ボックスをスクロールします。アルファベット順になっているので、スクロールすると「Increase」が表示されます。「Increase」をクリックして、 をクリックします。「選択済みのメジャー」ボックスの「Projected Sales」と「Sales」の下に「Increase」が表示されます。
16. データ・モデルに戻るため、「OK」ボタンをクリックします。作成したカスタム・メジャー INCREASE がグループ G\_SALES\_DATA に表示されます。
17. レポートをライブ・プレビューアに表示するため、 をクリックします。作成したサマリー列もカスタム・メジャーもこのレポートでは使用できません。これは、レポート・レイアウトにフィールドとして追加されていないためです。レポート・レイアウトへの追加は次の作業で行います。
18. レポート名を xprs\_733.rdf という名前で保存します。

## 7.4 レポート・レイアウトの拡張

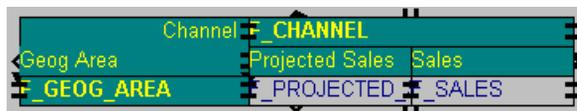
この項ではレポート・レイアウトの再配置、7.2 項「Express クエリーの修正」で作成したサマリーとカスタム・メジャー列の追加、およびオブジェクトの配置を行って、レポートの外観を拡張します。これらの変更作業はレイアウト・モデル表示とライブ・プレビューアを使用して行います。

### 7.4.1 レポートへのサマリー・フィールド挿入

1. オブジェクト・ナビゲータで、使用するレポート・ノードの  をダブルクリックすると、レイアウト・モデル表示が現れます。
2. オブジェクト・ナビゲータとレイアウト・モデル表示がとなりに並ぶように画面を配置してください。「レイアウト・モデル」、「メイン・セクション」、「ボディ」および残りのネストされたノード (MG\_PRODUCT\_GRPFR、R\_G\_PRODUCT ノードなど) を拡張します。画面は次の図のようになります。



- オブジェクト・ナビゲータの「検索」フィールドに「M\_G\_CROSS\_GRPFR」と入力して、このオブジェクトを検索します。検索は文字を入力すると同時に実行されるため、名前全体を入力する前にオブジェクトが見つかる可能性があります。レイアウト・モデル表示で、マスター・クロス・マトリックス・フレームは次の図のように選択されます。



- 選択されたフレームを、次の図のように下に約 1/4 インチ拡張します。



- オブジェクト・ナビゲータで F\_CHANNEL をクリックします。

6. 次の図のように、 をクリックして親フレーム R\_G\_CHANNEL を選択します。



ヒント:  ボタンはツールバーの右端にあるので、このボタンが表示されていない場合はレイアウト・モデル・ウィンドウのサイズを変更してください。

7. フレームを次の図のように下に約 1/4 インチ拡張します。



8.  をクリックします。
9. 四角形をクリックしてそのまま F\_PROJECTED\_SALES フィールドのすぐ下の領域にドラッグします。すると、次の図のようにフィールド・オブジェクトが挿入されます。



10. 「ツール」 「プロパティ・パレット」を選択します。
11. 次のプロパティを設定します。

表 7-6 「経路別売上予測 ( Projected Sales per Channel )」フィールドのプロパティ

ノード	プロパティ	値
一般情報	名前	F_PjSalesPerChannel
フィールド	ソース	CS_PjSalesPerChannel

12. このフィールドを配置して、書式を次のように変更します。

-  をクリックして、塗りカラーをライト・イエローに変更します。
-  をクリックして、テキスト・カラーをダーク・ブラウンに変更します。
-  をクリックして、フィールド周囲の境界線をダーク・ブラウンにします。

**ヒント:** オブジェクトをレイアウトに配置するとき、必要に応じて格子指定をオンまたはオフに切り替えることができます。「表示」「格子指定」を選択します。チェックマークはそのオプションがオンになっていることを示します。

- ステップ 8 ~ 11 を繰り返して、F\_SALES の下にも新規オブジェクトを配置します。次のプロパティを設定します。

**表 7-7 「経路別売上 (Sales per Channel)」フィールドのプロパティ**

ノード	プロパティ	値
一般情報	名前	F_SalesPerChannel
フィールド	ソース	CS_SalesPerChannel

**ヒント:** 塗りカラーやテキスト・カラー、境界線はさきほど作成した「F\_PjSalesPerChannel」フィールドと同じカラーにします。

-  をクリックします。
- 四角形をクリックしてそのままドラッグし、F\_GEO\_AREA のすぐ下の領域に置きます。
- 「Totals:」と入力します。
-  をクリックして、テキスト・オブジェクトを中央に揃えます。書式変更は、さきほど作成したサマリー・フィールドと同じように行ってください。
- 変更内容をライブ・プレビューに表示するため、 をクリックします。レポートは次のように表示されます。



1997 Sales |

### Product: Audio Division

Channel	All Channels		Direct	
	Projected Sales	Actual Sales	Projected Sales	Actual Sales
Areas in the Americas	5499200	7905060	3627530	3627530
Australia	1539260	2225800	1005160	1005160
Europe	7315500	10423400	4897670	4897670
Asia	3088620	4461760	2020370	2020370
<b>Totals:</b>	<b>17442580</b>	<b>25016020</b>	<b>11550730</b>	<b>11550730</b>

19. レポート名を `xprs_741.rdf` という名前で保存します。

## 7.4.2 レポートへのカスタム・メジャー・フィールド挿入

レポート・レイアウトにフィールド・オブジェクトを挿入して、7.3.3 項「カスタム・メジャーの作成」で作成したカスタム・メジャーを表示する列を追加します。

作業としては、まずレポートのレイアウトに新規列を追加して、その列にフィールド・オブジェクトを挿入します。

**ヒント:** 新規フィールド・オブジェクトの頻度は `F_PROJECTED_SALES` および `F_SALES` と同じである必要があります。フィールド・オブジェクトの頻度が異なると、レポートを実行できません。

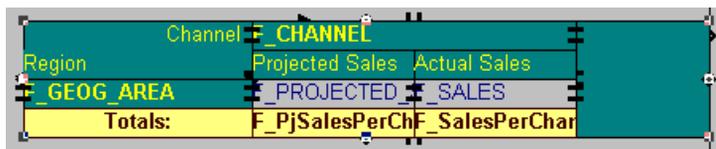
1. レイアウト・モデル表示を実行するため、ライブ・プレビューで  をクリックします。レイアウト・モデル表示とオブジェクト・ナビゲータがとなりに並ぶようにしてください。
2. オブジェクト・ナビゲータで、[Ctrl] キーを押しながら「`M_G_PRODUCT_GRPFR`」と「`R_G_PRODUCT`」をクリックします。

**ヒント:** `M_G_PRODUCT_GRPFR` は、基準となるマスター・グループです。現在は `R_G_PRODUCT` のすぐ下に隠れていて見えません。そのため、レイアウト・モデル表示でこの両方のフレームを選択しても、1 グループしか選択されていないように見えることがあります。

3. 「レイアウト・モデル」で、選択されたフレームの幅を約 4 3/4 インチに拡張します。

**ヒント:** オブジェクトのサイズ変更や移動ができないときは、 をクリックしてフレックス・モードをオンにするか、 をクリックしてフレックス・モードをオフにします。

4. 「オブジェクト・ナビゲータ」で「`M_G_CROSS_GRPFR`」をクリックします。
5. 「レイアウト・モデル」で、選択されたフレームの幅を約 4 3/4 インチに拡張します。すると、次の図と同じようになります。

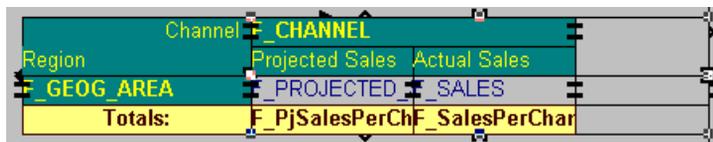


Channel	<code>F_CHANNEL</code>	
Region	Projected Sales	Actual Sales
<code>F_GEOG_AREA</code>	<code>F_PROJECTED</code>	<code>F_SALES</code>
Totals:	<code>F_PjSalesPerCh</code>	<code>F_SalesPerChar</code>

- 「F\_GEOG\_AREA」オブジェクトをクリックし、次に  をクリックして親フレーム「R\_G\_GEOG\_AREA」を選択します。



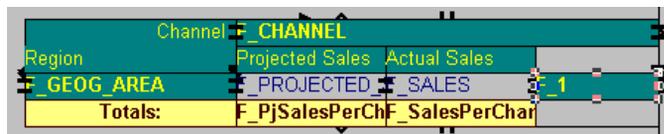
- 選択されたフレームの幅を約 4 3/4 インチに拡張します。
- 「F\_CHANNEL」をクリックし、次に  をクリックして親フレーム「R\_G\_CHANNEL」を選択します。
- 選択されたフレームの幅を約 4 3/4 インチに拡張します。



- もう一度「F\_CHANNEL」をクリックして、このオブジェクトの幅を約 4 3/4 インチに拡張します。



-  をクリックします。
- ボックスをクリックし、そのまま F\_SALES オブジェクトの右にドラッグします。すると、次の図と同じようになります。



- 「ツール」 「プロパティ・パレット」を選択します。

14. 次のプロパティを設定します。

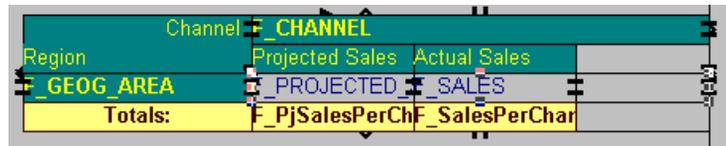
表 7-8 「Increase」フィールドのプロパティ

ノード	プロパティ	値
一般情報	名前	F_Increase
フィールド	ソース	INCREASE

15. レポートを実行するため、 をクリックします。F\_Increase が INCREASE を参照する頻度が所属グループよりも低いことを示すエラーが表示されます。このためレポートは実行できません。

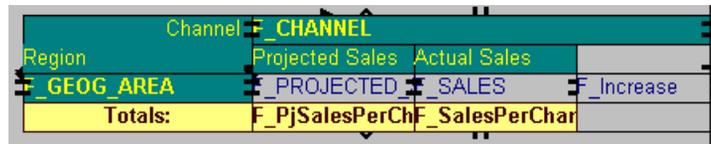
エラーの原因を確認するため、オブジェクト・ナビゲータで F\_INCREASE を検索してください。F\_INCREASE は R\_G\_PROJECTED\_SALES よりも上位レベル（低い頻度）に配置されています。INCREASE は、売上実績が売上予測を上回ったパーセントを計算する列です。このレポートを実行するには、F\_INCREASE を F\_PROJECTED\_SALES および F\_SALES と同じ頻度にして、値の計算に必要なデータを参照できるようにする必要があります。

16. 「OK」ボタンをクリックしてエラー・メッセージをクローズします。
17. レイアウト・モデル表示を実行するため、 をクリックします。
18. フィールド「F\_INCREASE」を選択し、削除します。
19. 「F\_SALES」をクリックし、次に  をクリックして親フレーム「R\_G\_PROJECTED\_SALES」を選択します。
20. 選択されたフレームの幅を約 4 3/4 インチに拡張します。



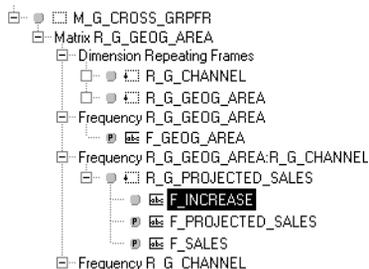
Channel	_CHANNEL	
Region	Projected Sales	Actual Sales
_GEOG_AREA	_PROJECTED	_SALES
Totals:	F_PjSalesPerCh	F_SalesPerChar

21. もう一度ステップ 11 ~ 14 を行って、フィールド・オブジェクトを作成します。レイアウト・モデルは次の図のようになります。



Channel	_CHANNEL	
Region	Projected Sales	Actual Sales
_GEOG_AREA	_PROJECTED	_SALES
Totals:	F_PjSalesPerCh	F_SalesPerChar

22. F\_PROJECTED\_SALES および F\_SALES と同じ頻度であることを確認するため、F\_Increase オブジェクトを選択したままオブジェクト・ナビゲータで F\_INCREASE を検索します。オブジェクト・ナビゲータの表示は次の図のようになります。



23. 「F\_Increase」フィールドの書式を次のように変更します。

-  をクリックして、塗りカラーをライト・イエローに変更します。
-  をクリックして、テキスト・カラーをダーク・ブラウンに変更します。
-  をクリックして、フィールド周囲の境界線をダーク・ブラウンにします。
-  をクリックして、テキストを目立つように太字にします。

24.  をクリックします。

25. 列タイトルを追加するため、四角形をクリックし、そのまま F\_Increase の上にドラッグします。

26. 「Increase」と入力します。

27. この列にテキスト・オブジェクトを配置し、左にある「Actual Sales」フィールドと同じ書式に変更します。

**ヒント:** テキスト・オブジェクトをフィールド全体に拡張するときは、必要に応じて「表示」プルダウン・メニューの「格子指定」をオフにします。書式設定を適用するときは目的のテキスト・オブジェクトが選択されていることを確認してください。選択されていないと書式設定は無効になります。

レイアウト・モデルは次のようになります。

Channel	F_CHANNEL	Projected Sales	Actual Sales	Increase
Region	GEOG_AREA	F_PROJECTED_SALES	F_SALES	F_Increase
Totals:	F_PjSalesPerCh	F_SalesPerChar		

28.  をクリックします。レポートは次の図と同じようになります。



### 1997 Sales Report

#### Product: Audio Division

Region	Channel	All Channels			Direct		
		Projected Sales	Actual Sales	Increase	Projected Sales	Actual Sales	Increase
Areas in the Americas		5499200	7905060	43.749343086	3627530	3627530	0
Australia		1539260	2225800	44.601604794	1005160	1005160	0
Europe		7315500	10423400	42.483769220	4897670	4897670	0
Asia		3088620	4461760	44.458048153	2020370	2020370	0
<b>Totals:</b>		<b>17442580</b>	<b>25016020</b>		<b>11550730</b>	<b>11550730</b>	

#### Product: Video Division

Region	Channel	All Channels			Direct		
		Projected Sales	Actual Sales	Increase	Projected Sales	Actual Sales	Increase
Areas in the Americas		3753910	5464250	45.561555077	2497840	2497840	0
Australia		1107870	1615480	45.819067958	735078	735078	0

29. レポート名を xprs\_742.rdf という名前で保存します。

## 7.4.3 デイメンション値のソート

レポートで配布経路のソート順を変更するとします。この例では、「Express クエリー」ダイアログ・ボックスのセレクトタを使用して、経路デイメンションのソート基準を変更します。デフォルト経路階層（最上位から最下位）の順序で表示するのではなく、階層の最下位経路から最上位経路の順にデータを表示します。**注意：**階層は、「All Channels」が先頭で「Indirect」が最後になるようにデータベースに事前定義されています。

1. データ・モデル表示で、問合せオブジェクト「QE\_SALES」をダブルクリックします。
2. 「Express クエリー」ダイアログ・ボックスで「セレクトタ」をクリックします。
3. 「デイメンション」リストで「Distribution Channel」を選択して  をクリックします。
4. 「セクションのソート」ダイアログ・ボックスで、次の値を選択します。

表 7-9 「セクションのソート」

基準	選択
基準	階層
順序	下から上へ

表 7-9 「セクションのソート」

基準	選択
階層	Standard

- 「セクションのソート」ダイアログ・ボックスで「OK」をクリックします。
- 「セクタ」ダイアログ・ボックスで「OK」をクリックします。
- 「Express クエリー」ダイアログ・ボックスで「OK」をクリックします。
-  をクリックします。レポートは次の図と同じようになります。順序は「Indirect」が先頭で「All Channels」が最後になっています。

### Product: Audio Division

Channel	Indirect			Direct	
Region	Projected Sales	Actual Sales	Increase	Projected Sales	Actual
Areas in the Americas	1871670	4277530	128.54110421	3627530	3627530
Australia	534098	1220630	128.54111714	1005160	1005160
Europe	2417830	5525730	128.54110026	4897670	4897670
Asia	1068250	2441390	128.54111863	2020370	2020370
Totals:	5891848	13465280		11550730	11550730

- レポート名を `xprs_743.rdf` という名前で保存します。

## 7.4.4 ライブ・プレビューアでの書式変更

- ライブ・ビューアで、[Shift] キーを押しながら「Projected Sales」と「Actual Sales」の下の列、および「Projected Sales total」と「Sales total」のフィールドをクリックします。
-  をクリックして、書式マスクを通貨に変更します。
-  をクリックして、値を右揃えにします。
-  を 2 回クリックして、小数点以下 2 桁を追加します。
- 「Increase」の下を列をクリックします。
-  をクリックして、書式マスクをパーセントに変更します。
-  をクリックして、値を中央揃えにします。

8. レポートは次の図と同じようになります。



1997 Sales Report

**Product: Audio Division**

Region	Channel	Indirect			Direct			All Ch
		Projected Sales	Actual Sales	Increase	Projected Sales	Actual Sales	Increase	Projec
Areas in the Americas		\$1871670.00	\$4277530.00	129%	\$3627530.00	\$3627530.00	0%	\$
Australia		\$534098.00	\$1220630.00	129%	\$1005160.00	\$1005160.00	0%	\$
Europe		\$2417830.00	\$5525730.00	129%	\$4897670.00	\$4897670.00	0%	\$
Asia		\$1068250.00	\$2441390.00	129%	\$2020370.00	\$2020370.00	0%	\$
<b>Totals:</b>		<b>\$5891848.00</b>	<b>\$13465280.00</b>		<b>\$11550730.00</b>	<b>\$11550730.00</b>		<b>\$1</b>

**Product: Video Division**

Region	Channel	Indirect			Direct			All Ch
		Projected Sales	Actual Sales	Increase	Projected Sales	Actual Sales	Increase	Projec
Areas in the Americas		\$1256070.00	\$2966410.00	136%	\$2497840.00	\$2497840.00	0%	\$
Australia		\$372791.00	\$880406.00	136%	\$735078.00	\$735078.00	0%	\$
Europe		\$1973720.00	\$4661260.00	136%	\$4078190.00	\$4078190.00	0%	\$
Asia		\$844998.00	\$1995600.00	136%	\$1657700.00	\$1657700.00	0%	\$
<b>Totals:</b>		<b>\$4447579.00</b>	<b>\$10503676.00</b>		<b>\$8968808.00</b>	<b>\$8968808.00</b>		<b>\$1</b>

9. レポート名を xprs\_744.rdf という名前で保存します。

## 7.5 まとめ

完了しました。これで Express のサンプル・レポートは終了です。この章で学習した内容は次のとおりです。

- レポート・ウィザードを使用した、データ・モデルおよびレイアウトの定義
- ディメンション値の制限による Express クエリーの変更
- データ・モデル表示を使用した、レポートへのサマリーおよびカスタム・メジャー列の追加
- レイアウト・モデル表示を使用した、フィールド挿入およびレイアウト再配置
- ライブ・プレビューアを使用した、レポート外観の拡張

Express の詳細はオンライン・ヘルプを参照してください。

---



1. このトピックに関するオンライン・ヘルプを参照するには、「ヘルプ」 「Report Builder ヘルプ・トピック」を選択します。
  2. 「索引」ページで、次のように入力します。  
Express, ~ の操作
  3. 「表示」をクリックすると、次のヘルプ・トピックが表示されます。  
Express の操作
-

---

---

# 索引

---

## H

### HTML

- ヘッダー、テンプレートへの追加, 35
  - レポート, 59
  - レポート・ヘッダー, 68
- HTML レポート・ヘッダー, 68

---

## J

- Javascript、追加, 84

---

## P

- PDF、生成, 16
- PL/SQL、データのフェッチ, 121

---

## R

### REF カーソル

- 問合せ、作成, 125
- 問合せ、について, 121
- 問合せ、リンクの作成, 130
- 入力、定義, 124

### Report Builder

- 概要, 1
  - 起動, 9, 143
- Report Builder 起動, 9, 143

---

## S

- SELECT 文、パッケージへの移動, 135
- [Shift] キーを押しながらオブジェクトをクリック, 12
- SQL 問合せツール、使用, 26

---

## W

### Web ウィザード

- 使用, 70
  - 説明, 4
- Web レポート, 59

---

## あ

### アクセス

- データベース, 6
- デモ用テーブル, 6

---

## う

- ウィザード、説明, 2

---

## お

### オブジェクト

- プロパティ、変更, 105
- ボイラプレート、追加, 109
- オブジェクト・ナビゲータ、説明, 5
- オブジェクト・プロパティの変更, 105
- オブジェクト、再配置, 107
- オペレーティング・システムについての考慮事項, 6

---

## か

- 外部宛先、ハイパーリンクの追加, 73

---

## く

- 繰返し枠、書式の例外の追加, 18

## こ

---

コード、変更, 20

## さ

---

作成

- REF カーソル問合せ, 125
- REF カーソル問合せ間のリンク, 130
- チャートのあるサマリー・セクション, 78
- データ・モデル, 26, 62, 91
- データ・リンク, 29
- デフォルト・レイアウト, 101
- デフォルト・レポート・レイアウト, 30
- テンプレート, 33
- パッケージ本体, 136
- ブレイク・グループ, 28, 127
- ポップアップ, 75
- レイアウト, 133
- ロールオーバー, 76

サマリー

- セクション、作成, 78
- 列、追加, 131

## し

---

事前定義されたテンプレート・リスト、テンプレートの追加, 38

使用

- Web ウィザード, 69
- データ・ウィザード, 92
- レイアウト・モデル表示, 104
- レポート・ウィザード, 10, 144
- 「条件付き書式」ダイアログ・ボックス、概要, 7
- 条件付き書式、~について, 7
- 条件付きで Web 出力のときに表示 / 非表示, 77
- 書式の例外
  - 線返し枠への追加, 18
  - ダイアログ・ボックス、概要, 7
  - 追加, 14
- 書式マスク、追加, 67

## せ

---

制限モード、定義済み, 108

セクション、について, 89

## そ

---

ソフトウェア、必須, 6

## ち

---

チャート、サマリー・セクションへの追加, 78

## つ

---

追加

- Javascript, 83, 87
- 外部宛先へのハイパーリンク, 73
- サマリー列, 131
- 書式の例外, 14
- 書式マスク, 67
- テンプレートの HTML ヘッダー, 35
- ハイパーリンク, 72
- ハイパーリンクの宛先, 71
- ブックマーク, 16, 69
- ボイラープレート・オブジェクト, 109

## て

---

定義

- REF カーソル型, 124
- パッケージ仕様部, 124
- データ・ウィザード
  - 使用, 92
  - 説明, 3
- データのフェッチ, 121
- データ・モデル
  - オブジェクト、改名, 27
  - 作成, 26, 62, 91
  - 調整, 94
  - 表示、説明, 5
- データ・モデル・オブジェクトの改名, 27
- データ・リンク、作成, 29
- テキスト規約, viii
- デフォルト属性
  - 上書き, 49
  - テンプレート, 43
- デフォルト・レイアウト、作成, 30, 101
- デモ・テーブル、アクセス, 6
- テンプレート
  - HTML ヘッダーの追加, 35
  - 作成, 33

事前定義されたテンプレート・リストへの追加, 38  
デフォルト属性, 43  
デフォルト属性、上書き, 49  
について, 23  
レポートへの適用, 41  
テンプレート属性の上書き, 49

## と

---

問合せにより戻される行, 67  
問合せ、戻される行, 67

## は

---

ハイパーリンク  
宛先、追加, 71  
外部宛先へ追加, 73  
追加, 72  
配布、指定, 117  
パッケージ  
SELECT 文の移動, 135  
仕様、定義, 124  
本体、作成, 136  
ライブラリへの移動, 137  
パラメータ・フォーム表示  
使用, 100  
説明, 5

## ひ

---

必要なソフトウェア, 6  
表示  
レポート, 4  
レポート・スタイル, 38

## ふ

---

「フォーマット・トリガー」プロパティ、概要, 7  
複数オブジェクトの選択, 12  
ブックマーク、追加, 16, 69  
ブレイク・グループ、作成, 28, 127  
プログラム単位エディタ、使用, 126  
プロパティ、変更, 105

## へ

---

ページ

改、指定, 115  
セパレータ、変更, 70  
変更  
コード, 20  
レポート出力, 65

## ほ

---

ボイラプレート・オブジェクト、追加, 109  
ポップアップ、作成, 75

## ら

---

ライブ・プレビューア  
オブジェクトの書式設定, 32  
説明, 4  
レポート修正のための使用, 12  
ライブ・プレビューアのオブジェクトの書式設定, 32  
ライブラリへのパッケージの移動, 137  
ランタイム・パラメータ・フォームの設計, 99  
ランタイム・パラメータ・フォーム、設計, 99

## り

---

リンク、REF カーソル問合せ間の作成, 130

## れ

---

レイアウト・モデル表示  
使用, 104  
説明, 5  
レポートの書式設定, 34  
レイアウト、作成, 133  
列、サマリー, 131  
レポート  
Express, 141  
REF カーソル, 121  
Web, 59  
基本概念, 1  
出力、変更, 65  
条件付き書式, 7  
スタイル、表示, 38  
セクション, 89  
セクション、について, 89  
テンプレート, 23  
ヘッダー、HTML, 68  
レポート・ウィザード

使用, 10, 144

説明, 2

レポート・エディタ、説明, 4

レポートの配布, 117

レポート配布の指定, 117

レポートへのテンプレートの適用, 41

## ろ

---

ロールオーバー、作成, 76

## わ

---

枠およびオブジェクトの再配置, 107

枠、再配置, 107